

官報

號外 昭和十二年三月十日

○第七十回衆議院議事速記第十九號

昭和十二年三月九日(火曜日)

午後一時四十九分開議

議事日程 第二十號

昭和十二年三月九日

午後一時開議

質問

一 國體及土風ノ隆汚ニ關スル質問

(田川大吉郎君提出)

二 世界資源再分割ト新國策樹立ニ

關スル質問(福田關次郎君提出)

三 衆議院議員選舉法中改正法律案

提出ニ關スル質問(青木亮貴君提出)

四 廣田內閣ノ辭職ト林內閣ノ成立

ニ關スル質問(尾崎行雄君提出)

五 精神的國防充實ニ關スル質問

(中村又一君提出)

第一 國民健康保險法案(政府提出)

第一讀會

第二 保健所法案(政府提出)

第一讀會

第三 結核豫防法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第四 小運送業法案(政府提出)

第一讀會

第五 日本通運株式會社法案(政府提出)

第一讀會

第六 帝國ノ滿洲國ニ於ケル治外法權

ノ撤廢及南滿洲鐵道附屬地行政權ノ

調整乃至移讓ニ伴ヒ退官退職シタル

者等ニ交付スル公債發行ニ關スル法

律案(政府提出)

第一讀會

第七 朝鮮事業公債法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會

第八 朝鮮鐵道用品資金會計法中改正

法律案(政府提出)

第一讀會

第九 昭和十二年度一般會計歲出ノ財

源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律

案(政府提出)

第一讀會

第十 昭和七年法律第一號中改正法律

案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲

公債發行ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會

第十一 船員法改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十二 揮發油及アルコール混用法案

(政府提出)

第一讀會

第十三 貿易組合法案(政府提出)

第一讀會

第十四 貿易調整法案(政府提出)

第一讀會

第十五 工業組合法中改正法律案(政

府提出)

第一讀會

第十六 昭和七年法律第十二號中改正

法律案(造幣局資金拂出ニ關スル件)

(政府提出)

第一讀會

第十七 日本銀行條例中改正法律案

(政府提出)

第一讀會

第十八 日本銀行參與會法廢止法律案

(政府提出)

第一讀會

第十九 橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外

三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法

律案(政府提出)

第一讀會

第二十 東京農業教育專門學校創設ニ

伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書

館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案

(政府提出)

第一讀會

第二十一 製鐵事業法案(政府提出)

第一讀會

第二十二 大正九年法律第五十三號中

改正法律案(關稅法及關稅定率法等

ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政

府提出)

第一讀會

第二十三 地方鐵道補助法中改正法律

案(政府提出)

第一讀會

第二十四 大正九年法律第五十六號中

改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ

關スル件)(政府提出)

第一讀會

第二十五 商法中改正法律案(政府提

出、貴族院送付)

第一讀會

第二十六 肥料取締法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第二十七 酒造組合法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第二十八 日本無線電信株式會社法中

改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第二十九 特許法中改正法律案(政府

提出、貴族院送付)

第一讀會

第三十 商標法中改正法律案(政府提

出、貴族院送付)

第一讀會

第三十一 不正競争防止法中改正法律

案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第三十二 裁判所構成法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第三十三 大正十年法律第二百二號中改

正法律案(定年ニ因ル退職判事檢事

ノ恩給ニ關スル件)(政府提出、貴族

院送付)

第一讀會

第三十四 兵役法中改正法律案(政府

提出、貴族院送付)

第一讀會

第三十五 產業組合中央金庫法中改正

法律案(政府提出、貴族院送付)

第二讀會

第三十六 產業組合自治監査法案(政

府提出、貴族院送付)

第一讀會

○議長(富田幸次郎君) 諸般ノ報告ヲ致サ

セマス

(書記官朗讀)

一 今九日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案

左ノ如シ

軍機保護法改正法律案

一 政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

衆議院議員田川大吉郎君提出國體及土風

ノ隆汚ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議員福田關次郎君提出世界資源再

分割ト新國策樹立ニ關スル質問ニ對スル

答辯書

衆議院議員青木亮貴君提出衆議院議員選

舉法中改正法律案提出ニ關スル質問ニ對

スル答辯書

衆議院議員尾崎行雄君提出廣田內閣ノ辭

職ト林內閣ノ成立ニ關スル質問ニ對スル

答辯書

衆議院議員中村又一君提出精神的國防充

實ニ關スル質問ニ對スル答辯書

(以上三月九日受領)

國體及土風ノ隆汚ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年二月二十五日

提出者 田川大吉郎

國體及土風ノ隆汚ニ關スル質問主意

書

一 林大將ガ內閣組織ノ大命ヲ奉行スル

ニ當リ陸軍當局ハ三當局ノ名ニ於テ林

大將ニ先シテ現陸相ヲ候補者ニ推薦

シテ林大將ヲ閣下ノ努力ヲ一時不安ノ

官報號外

昭和十二年三月十日

衆議院議事速記第十九號

議長ノ報告

四三七

間ニ彷徨セシメタルノミナラズ陸軍三當局ハ事實上大命拜受者以上ノ特別權能ヲ有スル者カノ如ク疑訝セシムルニ至ツタ。

海軍大臣ノ推薦ニ關シテモ略、同様ノ經過曲折ヲ見タ。

二 以上ノ經過及ビ事實ハ此ヨリ先キ宇垣大將ガ組閣ノ努力ニ對シ經驗シタル事實ト相俟ツテ大權ノ御發動及ビ之ニ恭順シ奉ルベキ陸軍ノ態度ニ對シ不測ノ疑ヲ抱カシムルニ至ツテ居ル。

假ニ宇垣大將組閣ノ場合ニ於テ陸軍ノ現役將官中大臣タル資格アル者ガ一人タリトモ進ンデ大命拜受者ノ奉行ヲ助ケンツトスル者ナク執レモ紛々タル聚議ニ辟易シ各辭讓シテ之ヲ阻礙シ之ヲ傍觀シタトイフコトハ解スベカラザル始末デアル。

斯ノ如キ場合資格アル者ハ萬難ヲ侵スモ身ヲ挺シテ大命奉行者ノ努力ヲ助クベキデナカッタカ、而シテ其ノ人ガ一人モ無カッタトイフコトハ臣節ノ弛廢士風ノ萎靡甚シイカナ地ニ墮チタリト慨スベキモノデナイカ。

三 文部大臣ハ右ノ事實ヲ以テ(一)我が國體ニ關スル國民教育ニ何等ノ惡影響ヲ及ボサナカッタモノト爲シ今後ニモ及ボス虞レノナキモノト爲スカ、(二)若クハ幾分カノ惡影響ヲ及ボシタモノト爲シ今後ニモ及ボス虞レノアルモノト爲スカ。

甲 若シ第一點ノ如シトセバ其ノ理由如何、
乙 若シ第二點ノ如シトセバ之ヲ匡救スルノ方法如何、
四 國體明徴ノ論頗ル盛シナリト雖モ今同ノ如キ事實ヲ國民萬衆ノ前ニ公演シテ之ヲ等閑ニ付シ去ルニ於テハ國體ノ

本義却ツテ蒙晦セラレ國體ノ尊嚴ニ對スル國民の遵奉ノ美風漸ク衰微ノ端ヲ啓カンコトヲ虞ル、總理大臣主トシテ文部大臣ノ之ニ對スル見解如何。

昭和十二年三月九日

內閣總理大臣 林 銑十郎
衆議院議長 富田幸次郎殿

衆議院議員 田川大吉郎君提出國體及士風ノ隆汚ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員 田川大吉郎君提出國體及士風ノ隆汚ニ關スル質問ニ對スル答辯書質問ノ趣旨ニ付テハ我が國體ニ關スル國民教育ニ惡影響ヲ及ボスガ如キ事實ハナカリシモノト思料ス
右及答辯候也

昭和十二年三月九日

內閣總理大臣 林 銑十郎
文部大臣 林 銑十郎

世界資源再分割ト新國策樹立ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和十二年二月二十五日

提出者 福田關次郎
世界資源再分割ト新國策樹立ニ關スル質問主意書

一 南方國策ニ付テ
我が國現下ノ最大問題ハ日本民族生活權確保ノ爲新ナル國策ヲ樹立スルコトデアアル而シテ從來ノ北方中心國策ニ再檢討ヲ加ヘテ世界資源就中南方資源利用ノ積極的國策ヲ立テ人類生存、更生日本建設ノ劃期的方途ヲ實現ヲ圖ルコトコソ帝國ノ生クベキ最高ノ方針ナリト信スル

惟フニ難局ヲ打開シ國力ノ充實、國民生活ノ安定ヲ期センニハ枝葉末節ノ革新ニ非ズシテ其ノ根本ニ觸ルルコトガ肝要デアアル現內閣ハ庶政一新ヲ組閣ノ使命トサルルニ拘ラズ斯ル國家ノ根本指針ニ何等ノ對策ナキハ遺憾千萬ニ思フガ此ノ重大問題ニ對シ政府ハ如何ナル所見ト具體案トヲ有セラルルカ

二 國家ノ困窮ト生活ノ不安ニ付テ
我が國過剩人口ノ重壓ガ齎ス農村ト都會トノ現世地獄ノ修羅場ヲ政府ハ認識サレツツアリヤ一年間ノ人口増加ハ約百萬人此ノ人口ニ與フベキ土地資源ハ何レニアリヤ

假ニ農家ニ五人ノ子女ガ出生スルトシテ其ノ中長男一人ヲ殘シテ他ノ子女ハ悉ク他ニ送り出サザルヲ得ナイノガ一般的實情デアアル而モ五反百姓生活ノ實際ハ一人ノ生存ヲ辛ウジテ可能ナラシムルモ他ノ四人ヲ留メラダケノ餘裕ナク僅ノ旅費ヲ與ヘテ異郷ノ空ニ捨テルノ悲慘ナル狀態ニアルノデアル從テ都會ノ社會不安ハ日々募リ惡事、醜行、思想ノ惡化隨處ニ起ル是等ハ皆社會ノ罪、國家ノ責任デアアルト云ハネバナラヌガ政府ハ斯ル不安ナル現實ニ對シ如何ナル考ト對策ヲ有セラルルカ

三 帝國ノ實力ト國防力ニ付テ
政府ハ國民ノ實力ト國防力トハ常ニ一致スベキコトヲ強調サレタガ國民ノ收入ト國防トガ果シテ調和サレツツアリヤ狹小ニシテ憫ムベキ我が國ノ資源ヲ以テシテハ政府ノ思フガ如キ國民ノ實力ハ到底アリ得ナイト信ズルガ如何日本ノ現狀ハ米國ノ一州「サウス・ダコタ」ト殆ド同一面積ノ耕地ヲ以テ内地人約七千萬人分ノ生活費ヲ稼ガネバナラヌ實情デアアル日本國民ノ收入實力ハ他ノ列強ニ比肩シ得ナイ其レ故國防上他ノ列強ト並行スルコトノ不自然性ガ

國民ノ一年間ノ收入程度ヲ比較スルコトニ依テ判斷シ得ラルル即チ各國中一人一年間ノ收入ハ濠洲七〇圓、英七四〇圓、米七三〇圓、蘇聯五一〇圓、獨逸四一八圓、佛四〇〇圓、伊二三五圓、日本二〇四圓デ七百圓臺ニ對シ二百圓臺ハ餘リニモ悲慘デアアル近時憂慮サルル國民ノ體位低下ハ保健衛生施設ノ不備ニ因ルニ非ズシテ人間一人ノ生存ニ必要ナ「カロリ」補給ノ不足ニ原因スルコトヲ特筆大書シテ政府ノ猛省ヲ促シタイ政府ガ此ノ原則的窮乏打開ニ何等再檢討ヲ加フルコトナク國民生活ノ安定ヲ叫ブハ思ハザルノ甚シキモノト云ハネバナラヌ土地資源ノ乏シキ日本國民ノ生活不安ハ年月ト共ニ増加スルハ明白デアアル政府ハ以上ノ實勢ヲ以テ如何ニシテ國防ノ安固、國民生活ノ安定ヲ期スルノ見込ナルヤ

四 庶政一新ヨリハ國策ノ根本的轉向ガ急務デアアル

我が國從來ノ大陸政策ノ一本建ニハ大ナル誤謬アリト思フ此ノ際此ノ誤リヨリ轉向シテ新ナル國策ヲ樹テ國家國民ノ向フベキ指導原理ヲ與フルコソ國難打開ノ根本デアアル現時ニ於テ已ニ此ノ困憊ヲ呈ス一朝十億ニ近キ蛸配の赤字公債廢止後ノ慘狀ハ戰慄スベキモノガアル政府ハ斯ル場合ヲモ考慮シ之ガ對策ヲ有スルヤ
人口對策トシテ農業ノ改良、産兒ノ制限、極度ノ工業化、消費ノ世界化ト云フガ如キハ萬全ノ策デハナイ其ノ行詰リハ日貨ノ世界の排斥、輸入超過ノ漸増ニ依テ明デアアル要ハ好適ノ植民地コソ窮乏日本救済ノ根本ト信スル
抑、我が國從來ノ國策ガ資本家擁護ニ墮シ増加大眾ノ生活權ヲ輕視シタルハ千載ノ恨事デアアル政府ハ速ニ斯ル誤リ

ヲ打破シテ過剩人口ニ正常ナル生存ノ途ヲ與ヘ國力ノ培養、生産ノ増加ヲ促進スルハ刻下ノ急務ト思フガ政府ノ所見如何

重ネテ問フ政府ハ以上ノ如キ誤リタル國策下ニ内部の庶政一新ヲ斷行シテ果シテ何物ヲ獲得シ得ラルルノ見込ナルヤ本員ハ從來ノ國策ノ根本的轉向ナクシテ革新ヲ斷行スルモ國力ノ充實、國民生活ノ安定ハ絕對不可能ト思フガ政府ニハ安定ノ確信アリヤ

五 大陸政策ノ誤謬ト北守南進策ニ付テ我ガ國人口ノ増加ハ主トシテ中産以下ノ無資本國民層ニ於テアル從テ資本ヲ要スル所ハ過剩人口ノ捌口トハナリ得ナイ殊ニ北方移民ノ有望ナラザルコトヲ速ニ自覺スベキデアル朝鮮ガ日本ノ有ニ歸シテ移民ハ逆輸入トナリ内地勞働界ヲ壓迫シタル事實ハ明瞭デアル又滿洲ニハ日本勞働者ヲ移民ハ殆ド入ルベキ餘地ガナイ生活「レベル」低キ苦力ニ日本ノ勞働者ハ對抗不能デアリ且寒冷ハ日本人ニ適セズ又同國ノ工業農業ニモ日本人ヲ使用シテハ收支相償ハスコトトナル斯ル寒冷ノ貧地ガ如何程擴大スルモ防備戰線ノ擴大ニ因リ國費濫費ニ流ルルノミニテ過剩人口ノ捌口トハナリ得ヌ強テ移民ヲ決行セントセバ莫大ノ補助金ヲ要スル我ガ國ノ財力ニハ斯ル餘力ガナイ現ニ廣田内閣ニ於テ樹テタル僅ノ滿洲移民計畫サヘ財力不足ノ爲半減サレタルニ非ズヤ滿洲建國以來已ニ五年内地ヨリノ移住民ハ僅ニ十三萬人(拓務省取扱ハ四萬有餘人)一年間百萬人ノ増加ニ斯ル事實ハ無價值ニ等シイト云ハネバナラヌ政府ハ之ニ對シテ如何ナル認識ト對策トヲ有セラルルカ

六 南方資源再分會議ト國策一新ニ付テ以上ニ依テ我ガ國ノ窮乏及民族生存上

ノ急迫ト不自然性トハ明ニナツタ茲ニ現時歐米ノ對日輿論ヲ綜合スルニ人口ト資源トノ關係ハ世界中日本ニ於テ最モ酷デアル而モ日本ニハ國內發展ノ餘地ナキヲ以テ馬來血統ヲ熱帶ニ適スル日本人ハ南太平洋上ニ人口ノ捌口タル土地ヲ求ムベキコトヲ確認シ更ニ斯ル領土保有國ハ自國民ノ勞力ヲ以テ之ヲ開拓シ得ザル故ニ進ンデ之ヲ日本ニ讓渡スベシト高調シ又日本ニ人口吸收ノ門戸ヲ解放スルコトヲ得ルヤ否ヤハ世界戰爭ヲ誘致スルヤ否ヤノ大問題デアルト論ジ日本ハ滿洲ヲ得タルモ滿洲ハ人口ノ捌口トハナラヌ何トナレバ寒冷ハ日本人ニ適セズ從テ日本ノ進ムベキ道ハ南方及東部デアルト結論スルモノノ如クデアアル世界ノ輿論ニシテ斯ノ如シ況ヤ國際正義人道ハ必ズヤ日本ノ立場ヲ理解シ資源再分割ノ當然性ヲ認識スルモノナルコト疑フ容レヌノデアアル而シテ是ニハ窮迫日本ノ實狀ヲ世界ニ披瀝シ日本ハ英國ノ既得殖民地或ハ米國殖民地ニハ一切手ヲ觸ルルコトナク、南太平洋上ノ勞力不足ナル島嶼ニ我ガ過剩人口ノ平和發展ヲ遂ゲルノ外日本ノ生クベキ途ナキ苦境ヲ世界ニ訴ヘ最善ヲ盡シテ殖民地再分會議ノ如キモノノ成立ヲ期スベキデアル日本ノ要求ガ已ムナキ人口ノ捌口ヲ求ムルノ外何等野心ナキ誠意ヲ示シ且一定ノ形ニ於テ公約スルニ至ラバ延テハ以テ軍縮ノ世界的目的モ自ラ達成シ同時ニ世界平和確立ノ基本タルベキヲ疑ハヌ要スルニ日本人口問題ハ實ニ一切ノ社會科學的ニモ政策的ニモ凡有ラユル問題ノ根本デアル自今帝國ノ進ムベキ對外政策ノ中樞ハ此ノ根本ニ基クベキデアルト信ズル

以上ノ各項ニ對シ政府ノ所見ト決意ノ程ヲ承リタイ
右及質問候也
昭和十二年三月九日
內閣總理大臣 林 銑十郎
衆議院議長富田幸次郎殿
衆議院議員福田關次郎君提出世界資源再分割ト新國策樹立ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

衆議院議員福田關次郎君提出世界資源再分割ト新國策樹立ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
(別紙)

一、日本民族ノ生活權ヲ確保スルノ肝要ナルハ論ヲ俟タス之カ爲政府トシテハ何レノ方面ヲ問ハス世界各方面ニ對シ平和的且經濟的ニ發展センコトヲ期シ銳意努力中ニシテ南方ニ對シテモ益々努力スヘキカ之カ實施ニ當リテハ相手國ノ立場ヲモ考慮シ慎重ヲ期セサルヘカラスト考ヘ居レリ

二、我カ國過剩人口ノ重壓力社會不安ヲ齎ラシツツアルコトハ我カ國內ノ土地資源ノ不足ニ依ル處大ナルモノアルヲ認ムルヲ以テ之カ對策トシテ邦人ノ世界各方面ニ於ケル平和的經濟的發展ヲ促進シ貿易移民等ノ助長ヲ期スルト共ニ國內産業ノ振興ヲ計リ居レリ

三、政府ニ於テハ我カ國資源ノ不足ニ鑑ミ産業ノ振興貿易ノ伸張ヲ計リ國力ノ根幹ヲ培フト共ニ邦人ノ海外移住並企業進出ニ對スル助長ノ方途ヲ講シ以テ國防ノ安固ト國民生活ノ安定トヲ期シ居レリ

四、人口問題ノ對策ニ付テハ其ノ方策一ニシテ足ラサルモ海外移民ノ獎勵及企業進出ニ付テハ格段ノ努力ヲ要スルモノト認ム仍テ政府ハ其ノ所期セル庶政

一新ト併セテ前記諸施設ニ特ニ力ヲ用ヒ居レリ
五、對滿移民ハ既定ノ大方針ニシテ專門家ノ多年ニ互ル研究並ニ既ニ實施セラレ居ル試驗移民ノ成果ニ鑑ミ必ス成功スルモノト確信シ多數移民送出ニ努メツツアリ

六、人口ノ稠密並資源ノ缺乏ニ直面シ居ル帝國ノ實情ヲ世界ニ披瀝シ人口ノ捌ケ口及國內産業ニ必要ナル市場及資源ノ開放ヲ要望スルト共ニ併セテ帝國ニ於テ何等領土の又ハ侵略的意圖ヲ有セサル次第ヲ闡明スルノ要アルハ勿論ナリ之カ爲政府ニ於テハ常ニ機會アル毎ニ之カ闡明ニ力メ居レルカ殖民地再分會議ヲ提唱スルカ如キハ現下世界ノ實情上適切ニ非スト認ム
右及答辯候也
昭和十二年三月九日
拓務大臣 結城豊太郎
外務大臣 佐藤 尙武

衆議院議員選舉法中改正法律案提出ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和十二年二月二十五日
提出者 青木 亮貫
衆議院議員選舉法中改正法律案提出ニ關スル質問主意書
庶政一新ノ根本、立憲政治ノ確立ハ選舉法ノ改正ニアリ然ルニ政府ハ口ニ庶政一新立憲政治格循ヲ唱ヘ乍ラ既ニ成案トナレル選舉法改正案ヲ未タ本期議會ニ提出セサルハ吾等ノ頗ル遺憾トスル所ナリ吾等ハ速ニ政府ヲ選舉法改正案ヲ本期議會ニ提出スルコトヲ要求ス政府ハ之ヲ提案スル意思アリヤ
右及質問候也

昭和十二年三月九日

内閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長富田幸次郎殿

衆議院議員青木亮君提出衆議院議員選舉法中改正法律案提出ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員青木亮君提出衆議院議員選舉法中改正法律案提出ニ關スル質問ニ對スル答辯書

現行衆議院議員選舉法ニ關シテハ之ガ改正ヲ要スル尙少カラザルモノアルニ鑑ミ前内閣ニ於テハ特ニ選舉制度調査會ヲ設置シテ其ノ改正要綱ニ付種々調査審議セシムル所アリ昨年末ニ至リ同調査會ノ答申ヲ得テ改正法律ノ立案ニ著手シタルモ之ヲ議會ニ提案スル爲ニ必要ナル諸般ノ手續ヲ了スルニ至ラザリシモノナリ、現内閣亦現行制度中改正ヲ要スルモノアルコトハ之ヲ認ムル所ナリト雖モ之ヲ議會ニ提案スルガ爲ニハ諸種ノ重要ナル手續ヲ經ザルベカラザル等ノ事情モアリ改正法律案ヲ會期切迫セル今期議會ニ提出スルコトハ困難ナリト思料ス

右及答辯候也

昭和十二年三月九日

内務大臣 河原田稼吉

廣田内閣ノ辭職ト林内閣ノ成立ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十二年二月二十七日

提出者 尾崎 行雄

廣田内閣ノ辭職ト林内閣ノ成立ニ關スル質問主意書

第一問 今回ノ政變ニ關スル事態ホド不思議ナモノハナイ。廣田内閣ハ何故ニ辭職シタノカハッキリワカラナイ。世間ニ傳フル所ニ依レバ、一月二十一日ノ衆

議院ニ於テ一議員ノ質問ガアツタ後、寺

内陸相ガ突然辭職論ヲ主張シ其結果廣田首相ハ突然總辭職ノ決心ヲシタヤウデアアル。元來衆議院議員ハ民意ヲ代表スル爲ニ選舉セラレタモノデアアルカラ前ノ總選舉以後ニ於テ國民ノ意思ガ大ニ變化シ、現在ノ議員ガ民意ヲ代表シテキナイト云フ證據ガナケレバ議會ハ解散スベキモノデナイ。ヨシ理不盡ニ解散ヲ主張スルニシテモ、ソレハ議會ヲ再開前ニ爲スベキコトデアツテ平生ノ如ク議會ヲ開キ僅カニ質問演說ノ始マツタバカリノ所デ解散論ヲ提出スルガ如キハ常識外レノ言動デアアル。若シ閣僚中ニ此ノ如キ非常識ナ主張ヲ爲スモノガアツタナラ總理大臣タルモノハ親切丁寧ニ其心得違ヒヲ説キ諭シテ過ヲ改メサスベキデアアル。若シドウシテモ過ヲ改メナケレバ、其閣僚ダケヲ辭職セシメテ平生ノ如ク國務ヲ進行スベキデアアル。陸相ガ辭職スレバ其後任者ガ得ラレナイト云フガ如キハ、天皇陛下ノ任免大權ヲ蔑如スル所ノ思想デアツテ、苟モ帝國臣民タルモノハ聖意ニ背イテ就任ヲ拒ムガ如キ不臣ノ振舞ヲスル筈ガナイ。病氣其他萬止ムヲ得ザル場合ノ外ハ何人ト雖モ、陛下ノ任命ヲ拒否スルコトハ出來ナイ。殊ニ軍人タルモノハ、此觀念ガ一層強クナケレバナラス。故ニ陸相ノ後任ヲ撰定スルガ如キハ決シテ難事デハナイ。然ルニ廣田首相ガ内閣ヲ投ゲ出スニ至ツタノニ何カ隠レタ事實ト理由ガナケレバナラス。只表面ニ現レタ事態ダケデハ廣田内閣總辭職ノ理由モ原因モ一切ワカラナイ。新内閣ハ將來再ビ此ノ如キ不可解ナル政變ヲ惹起シ以テ上ハ宸襟ヲ惱マシ奉リ、下ハ國民ヲ困迷セシムルガ如キコトナカラシムル爲詳細

ノ顛末ヲ公表スベキデナイ乎。

第二問 民政、政友ノ兩大政黨ハ四名ノ大臣ヲ内閣ニ送ツテ居リ四大臣ハ政府案ニ總テ賛成シテ居ルカラ、タトヘ多少ノ波瀾ハアツテモ結局陸海軍ガ要求シテキル所ノ軍備充實ニ關スル議案ハ大體ニ於テ今回ノ衆議院ヲ通過スルニ相違ナイ。然ルニ解散スレバ總テノ議案ノ實行ハ少クトモ三四ヶ月後レルノミナラズ兩大政黨ノ正面ノ敵トシテ總選舉ニ臨メバ、如何ナル手段ヲ施シテモ、兩黨以上ノ政府黨議員ヲ得ルコトハ出來マイ。六十年間培養シ來ツタ政黨ノ地盤ハ二回ヤ三回ノ解散ニ依ツテ崩壊スルモノデナイ。其上ニ政府ガ之レヲ正面ノ敵トシテ挑戰スレバ元來政府案ニ賛成スル心算デアツタ所ノ兩大政黨モ多分之レニ反對スベク餘儀ナクサレルデアラウ。サスレバ軍備充實案ト其關聯法律案ハ、大ニ延期セララルバカリデナク或ハ實行スルコトガ出來ナクナルカモ知レナイ。海軍大臣ガ軍備充實案ヲ通過サセル爲ニ解散ニ反對シタノハ當然ノコトデアアル。故ニ陸相ガ強ヒテ解散ヲ主張シタトスレバ、軍備充實案以上ニ重大ナ國家的問題ガナケレバナラス。ソレハ果シテ何デアツタ乎。

解散ニ依ツテ其目的ヲ達シ得ベキ軍備充實以上ノ大問題モナイノニ濱田代議士相手ノ問答ニ於ケル言語ノ枝葉末節ニ囚ハレテ突然解散ノ決心ヲ起シタトセバ、ソレハ事ノ大小輕重ヲモ辨ヘザル人物ノ所行デアツテ苟モ國務大臣タル者ノ爲スベキ所デハナイ、寺内伯ガ此ノ如キ小人物デナイコトハ疑ヲ容レナイカラ、此ノ點ニ於テモ隠レタ重大ナ事實ガアツタノデアラウ。政府ハ國家ノ爲又寺内伯ノ名譽ノ爲ニ之ヲ公表スベキデハナイ乎。

第三問 内閣總辭職ノ後 陛下ハ常例ニ依ツテ後任首相ヲ推薦ヲ西園寺公ニ御諮詢ニナリ、公ハ宇垣大將ヲ推薦シタ。元來宇垣大將ニ對シテ、陸軍部内ニ反對ガアルコトハ世間周知ノ事實デアアル。故ニ西園寺公ガ大將ヲ推薦スルニ當ツテハ其反對ヲ押切ルダケノ手段方法ヲ考ヘタ後デナケレバナラナイ筈ダ。又宇垣大將モ十分ノ考慮ヲ費シテ大命ヲ拜受スベキデアツタ。一旦大命ヲ拜シタル後、陸軍部内ノ反對ニ會ツテ、大命ヲ奉行ニ支障ヲ生ズルガ如キ事アツテハ、畏レ多クモ 陛下ノ御威光ニ關係スルカラデアアル。然ルニ西園寺公モ宇垣大將モ此ノ注意ヲ怠リ、陛下ニ對シテ他ノ職司ニ比スレバ一層深く服從ノ義務ヲ負フ所ノ陸軍軍人ノ反對ヲ受ケテ内閣組織ノ大命ヲ奉行スル能ハズ、爲ニ陛下ノ御威光ニモ關ハルベキ事態ヲ招來スルニ至ツタコトハ、残念至極ナ次第デアアル。此ノ顛末ニ付テモ世間ニ知ラレザル事實ガアル筈デアアル。政府ハ一切ノ事實ヲ發表シテ國民ノ疑惑ヲ解クト同時ニ、陛下ノ御威光ヲ發揚シ奉ルベキデハナイ乎。

第四問 宇垣大將ノ組閣進行中陸軍ハ三

長官會議ニ於テ宇垣内閣ニ陸相ヲ送ラナイコトニ決定シタルガ如キ報道ガ屢々新聞紙上ニ現レタガ、陸相ノ任命ハ申スマデモナク 陛下ノ大權デアツテ、何人モ此ノ大權ノ運用ヲ阻止シテハナラナイ。陛下ガ宇垣大將ヲシテ内閣ヲ組織セシメントシ給フニ當ツテ陸軍ノ三長官ガ之レニ反對スルガ如キハ、軍職ニ居ル者ノ絕對ニ爲スベカラザル所ト思ハレル。又三長官トハ陸相、參謀總長、教育總監ノ事デアラウガ、此ノ場合ニ於テ主要ノ位置ヲ占ムル陸相寺内大將ハ、陛下寄託ノ職務ヲ奉

行スル能ハズシテ辭表ヲ奉リ、待命中ノ身分デアル。只管恐懼謹慎シテ罪ヲ闕下ニ待チ國家必要ノ常務以外ニハ何事ニ付テモ意見ナド述ブベキデナイ、一步退イテ此ノ場合陸相ハ恐懼謹慎スルコトヲ要セズ、平生ノ如ク職責ヲ執行シ得ベシトスルモ、三長官會議ニ於テ、内閣組織ノ大命奉行ヲ阻止スル結果トナル如キ決議ヲ爲スコトハ、陛下ニ對シテ畏レ多キ次第ト思ヘレハ。

若シ陛下下ガ限板内閣組織ノ時ノ如ク、陸海軍大臣ニ對シテハ、内閣組織ノ大命拜受者ノ奏薦ヲ待タズ、直接ニ任命大權ヲ御使用遊バサレタナラバ三長官ハ如何ニシテ其過ヲ謝スルデアラウ乎。只辭職スルダケデハ濟マナイデアラウ。又宇垣内閣組織中ニ陸軍ノ總意トカ、軍ノ意向トカ稱スルモノガ、屢々新聞紙上ニ發表セラレタガ、苟モ軍人タルモノハ内閣組織ハ無論ノ事、其他ノ政治問題ニ付イテモ、其意見ヲ公表スルコトハ陸軍刑法ヲ以テ禁ゼラレテ居ル。故ニ内閣組織ト云フガ如キ政治問題ニ關スル、陸軍ノ總意ト稱スベキ意見ハ絕對ニアリヤウ答ガナイ。所謂陸軍ノ總意ナルモノハ僅カニ數名若クハ數十名ノ意見ニ過ギナイモノト思ヘレハ、ソレニシテモ演説若クハ文書ヲ以テ之レヲ世間ニ公表スルコトハ、陸軍刑法第百三條ノ禁スル所デアル。政府ハ何故ニ之等ノ刑法違反者ヲ不問ニ付スル乎。

(參照)

陸軍刑法第百三條

政治ニ關シテ上書、建白其ノ他諸願ヲ爲シ又ハ演説若クハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第五問 單ニ外間ニ漏レタダケノ事跡ニ據レバ、天皇陛下ハ宇垣大將ヲシテ内閣ヲ組織セシメントシ給ヒ、陸軍ハ之

レニ反對シ遂ニ陛下ノ御希望ハ行ハレズシテ、陸軍ノ意見ガ行ハレタヤウニ見エル。即チ陛下ノ大命ヲ奉行セントスル者ト陸軍三當局者トノ間ニ確執ノ存シタル影響トシテ陛下ガ却ツテ御護歩遊バサレタヤウニモ見エル。帝國臣民タルモノ誰カ此ノ畏レ多キ事態ノ出現ニ對シテ長嘆大息セザルモノガアラウ、是レハ必ズ世上ノ憂懼ヲ一掃スルニ足ルベキ事實ト理路ガアルデアラウ。政府ハ速ニ之レヲ發表シテ世ノ忠臣義士ヲ安堵セシムベキデハナイ乎。

第六問 一月三十日及二月一日ニ於テハ聲明書若クハ當局談ノ形式ヲ以テ、陸海軍兩省ノ意見ト稱スルモノガ發表セラレタガ、此ノ意見ハ果シテ何人ノ意見ナル乎。

其大臣ハ何レモ待命中デアツテ、大臣以外ニハ省ヲ代表シテ、政治的意見ヲ發表シ得ベキ人ナク、發表スル者ハ各、刑法違反ノ行爲トナル。而シテ未ダ何人モ之レガ爲ニ處罰セラレタコトヲ聞カナイ。苟モ肅軍ト云フ以上ハ之等ノ刑法違反者ヲ處分シ、以テ將來ノ禍根ヲ芟除スルヤウニシナレバナラス。

陸海軍以外ノ各省官吏ト雖モ、其戴クベキ大臣ニ付テ多少ノ意見ヲ持タナイモノハナカラウガ、何レノ省ノ官吏モ、同志ヲ糾合シテ之レヲ公表シタ事ハナイ。然ルニ陸海軍兩省ノ將校ダケガ、ソレヲ爲スガ如ク頻々新聞紙上ニ公表サレテキル。他省ノ官吏ハ選舉權ノ行使ヲ許サレテ居リ、其仕事モ直接間接ニ政治ニ關係スルモノガ多イ。ソレデモ尙ホ新大臣ノ御任命ニ對シテハ意見ヲ公表シナイ。然ルニ政治ニハ最モ縁ノ遠カルベキ將校即チ選舉權ノ行使スラ許サレナイ所ノ軍人ガ大命拜受者ニ

向ヒ軍部ノ名ヲ藉リ、各種ノ要望ヲ爲シタガ如ク公表サレテキルガ、世評ニ敏感ナル當局者ハ未ダ其取消ヲ命ジナイ。若シ此ノ如キ事實アリトセバ、是レハ由々シキ大事デアツテ、殷鑑遠カラズ五・二五事件ニ在リ、二・二六事件ニ在リ、斯ノ如キ畢竟スルニ、政治ニ關與スベカラザル軍人ガ政治ニ關與シ、又ハ之レニ興味ヲ持ツタ爲ニ起ツタ不祥事ニ外ナラナイ。今ニシテ軍紀ヲ肅正セザレバ、將來モ亦類似ノ不祥事件ガ起ラストハ何人モ保證スルコトハ出來難イ。故ニ全國人民中ノ心アルモノハ何レモ右等ノ報道ヲ讀ンデ深ク憂慮シテキル。政府ハ世ノ浮説流言ヲ一掃スルニ足ルベキ事實ヲ發表スルト同時ニ、軍紀ヲ肅正シ、セメテハ普通文官ガ遵守シテキルダケノ規律ヲ軍人ニモ、遵守セシムル意圖ナキ乎。

第七問 内閣組織ノ大命ヲ拜シタ者ハ其奏薦スベキ大臣ト其擔當スベキ官省トノ關係ヲ考慮スルハ宜シイガ、公然其推薦方ヲ當該官省ニ依頼シテハ、組閣大命ノ一部ヲ他人ニ譲渡シタ事ニナル。是レ亦陛下ニ對シテ畏レ多イ事デアツテ、任免大權ノ輕視ト評セラレテモ、辯解ノ言葉ハナカラウ。然ルニ林大將ハ、陸海軍大臣ノ推薦ヲ辭表提出中ノ現任大臣ニ依頼シタト世間ニハ傳ヘラレテキル。マタ其上ニ待命中ノ兩大臣ガ提出シタ候補者ハ自己意中ノ候補者ト異ツテキタ爲ニ一時組閣ノ困難ヲ生ジ、其事ノ聖聽ニ達スルヤ、陛下ニハ宸機ヲ惱マセラレ深夜宮中ノ重臣ヲ御召シニナツタトモ傳ヘラレテキル。カクテ一時ハ行キ惱ンダガ、林大將ハ自己ノ意見ヲ屈シ、辭職待命中ノ兩相ニ讓步シテ漸ク組閣ノ大命ヲ奉行スルヲ得タト云ハレテキルガ、是レ亦

主客顛倒ノ甚シキモノデアツテ、任免大權ノ威嚴ニモ關係スベキ事柄デアル。口ニ國體明徴ヲ稱ヘル人々ガ斯ノ如キ過失ヲ犯スニ至ツタノハ、實ニ遺憾千萬デアル。

此事ニ就テモ、世上ノ誤解ヲ解クニ足ルベキ隱レタル事實ガアラウト思ヘレハ、首相ハ自己及陸海兩省ノ名譽ノ爲ニ之ヲ發表スベキデナイ乎。

第八問 任免大權ハ、天皇ノ大權中最モ大切ナモノデアル。他ノ大權ハ何レモ責任者ノ進言ヲ待テ御行使遊バサレル事ニナツデキルカラ、ソノ責任ハ輔弼ノ大臣ニ歸スルガ、内閣組織ノ場合ニ於テハ、諸大臣ガ總辭職シタ際デアラカラ輔弼ノ責任者ガナク、陛下自ラ直接ニ之ヲ御行使遊バサレル手續キトナル。我が國デハ元老ニ御諮詢ニナツテキルガ、之ハ藩閥政治時代ニ於ケル特殊ノ事情ニ由テ起ツタ慣例デアツテ、現在ノ如ク藩閥ガ既ニ消滅シテ、上御一人ト下萬民ノ間ニハ何人モ介在スル事ナク「義ハ君臣、情ハ父子」ト大正天皇ガ仰セラレタ通り君民一致ノ關係ヲ實現シテ居ル時代ニ於テハ、何人ニモ御諮詢ナク、天皇自ラ其事ニ當ラセ給フガ朝廷ノ爲ニモ、人民ノ爲ニモ好イヤウニ思ヘレハ、林首相ハ君國ノ爲メ從來ノ慣例ノ改善ヲ奏請スル意圖ナキ乎。

第九問

元老元老ナルモノハ、憲法ニモ法律ニモ何等ノ規定モナイ一種特別ノ重臣デアラカラ、ソノ進言ガ誤ツテモ制度上責任ヲ負ハセルコトハ出來ナイ。ソノ元老モ現在ハ西園寺公一人デアツテ、近年ノ公ノ奏薦ハ世人ニ満足ヲ與ヘテキナイ。殊ニ今回宇垣大將奏薦ノ結果ニ至ツテハ、實ニ慨嘆ニ堪ヘザルモノガアル。宇垣大將ニ對スル陸

軍ノ反對モ、若シソレガ極秘裏ニ行ハレタナラ、世間一般ハ知ラズニ過ギタデアラウガ、不幸ニシテ白晝公然萬衆環視ノ間ニ行ハレタ。而シテ雷ニ宸襟ヲ惱マシ奉レルノミナラズ、斯ノ如キ惡結果ヲ生ジタ以上ハ、西園寺公タルモノハ、タトヘ制度上責任ナキモ道義上其責ニ任ゼザルヲ得マイ。

遡ツテ考フルニ 明治天皇ノ聰明絶倫ナル新内閣組織ノ適任者ニ就テ、他人ニ御諮詢遊バサルベキ必要ハナカツタノデアル。唯、明治中興ノ大業ハ主トシテ 陛下ノ御稜威ト薩長ノ武力トニ依テ成就シタモノデアツテ、一步ヲ誤レバ建武中興ノ挫折ヲ再演スルノ憂モ絶對ニナイトハ保證出來ナカツタノデアル。武力ヲ以テ北條ヲ斃シタ後ハ、後醍醐天皇ノ英武ヲ以テスルモ、尙ホ尊氏ガ北條ニ代ルコトヲ防止シ得ラレナカツタ。明治天皇ノ英明ナルコト、後醍醐天皇ノ比デナク、又薩長人士ノ勤王心ニ富ムコト、尊氏等ノ比類デナカツタコトハ論ズルマデモナイガ、武力ヲ以テ武門政府ヲ斃シタ者ハ、動モスレバ斃サレタ者ニ代ル傾向ヲ持ツテキル。加之當時ノ長閑ハ陸軍ヲ、薩長ハ海軍ト警視廳ヲ掌握シテ、他縣人ノ進入ヲ許サナカツタカラ、明治天皇ガ此ノ兩藩閥ヲ駕御操縱シ給フ爲ニハ一方ナラズ御苦心遊バサレタコトハ申ス迄モナカラウ。此關係カラ、陸海軍ノ對立モ起リ、兩藩閥ノ首領等ニ元老ノ優遇ヲモ御與ヘニナツタノデアル。内閣組織ノ場合ニ方ツテハ、兩藩ノ權衡ヲ維持シ且ツ其歡心ヲ繋グタメ、元老ニ御諮詢ニナルコトガ、最モ賢明ナ御處置トシテ、人物選擇ノ必要ヨリモ寧ロ兩藩ノ權衡維持歡心收攬ノ爲ニ、此慣例ハ起ツタノデアル。然ルニ明治ノ末

年ニ至ツテハ、薩長兩藩閥ノ根柢ハ全ク崩壞シ、陛下ト國民トノ關係ガ直接ニナリ、其結果トシテ、全國ノ同志ヲ集メテ組織シタ政黨ノ首領タル伊藤公ヤ西園寺公ガ、三回マデモ内閣ヲ組織スル事ニナツタ。薩長人ニ限定サレテキタ總理大臣ハ、薩長以外ノ人物デモ之レニ就キ得ルヤウニナツタ。大正ノ中頃此ノ形勢ハ益々成熟シ、兩大政黨ノ首領ガ代ル内閣組織ノ大命ヲ拜スル事ニナツテ、勢ノ趣ク所遂ニ桂、田中兩大將ノ如キモ、薩長ノ殘孽ヲ捨テ政黨ノ人トナルニ至ツタ。言換レバ薩長ヲ土臺トセズ、國民ヲ土臺トスルヤウニナリ、又全國人民ハ薩長ト云フ中介物ヲ經ズシテ、直接ニ天皇ヲ奉戴スルコトニナツタノデアル。我が政界ハ明治年間ト大正以後ハ全クソノ趣キヲ異ニシテキル。斯ノ如ク内閣ガ國民ヲ基礎トシテ成立スルコトニナツタ以上ハ、藩閥時代ニ賢明ノ御處置デアツタ所ノ内閣組織者ヲ元老ニ御諮詢ニナル慣行ハ既ニ前世ノ遺物トナリ、現在ノ時勢ニハ適應シナイモノトナツタ。故ニ今日以後ハ元老ノ推薦ヲ待タズシテ、直接ニ任命大權ヲ御使用遊バサルベキデアラウ。若シ元老ニ御諮詢ニナラズ、陛下自ラ任命大權ヲ直接ニ御行使遊バサレタナラ、近來ノ如キ結果ハ起ラナカツタデアラウト思ハレハレ。政府ハ内閣總辭職ノ際ニ於ケル任免大權ノ御發動ニ關シスノ如ク奏請スルコトヲ時勢ニ適應スル臣節トハ思考セザル乎。

第十問 西園寺公ガ、元老ノ御優遇ヲ辭退サレタ後、新内閣組織ニ當リ、若シ世間ノ事情ヲ御聽取リニナル必要ガアル場合ニハ、將來ハ全國民ヲ代表スル所ノ、衆議院議長及貴族院議長ニ御諮詢ニナルコトガ、最モ適當ナ御處置カト思ハレハレ。但シ貴衆兩院議長ガ、從來ノ如ク政治的野心ヲ抱キ、若クハ一黨一派ノ人デアツテハ此ノ大任ニ當ラセラルコトハ出來ナイカラ、將來ハ兩院議長ニハ最モ公明正大ニシテ、政治的野心ノナイ人格者ヲ選任スルコトニ改メナケレバナラス。

衆議院議長候補者ヲ選舉スルニ方ツテハ全ク黨派の觀念ヲ捨テ、院中第一ノ人格者ヲ擧ゲ、全院一致シテ之ヲ選舉スベキデアル。英國ニ於テハ、多數黨ガ少數黨中ノ人格者ヲ物色シテ、之レヲ議長ニ推薦シタキ旨ヲ少數黨ニ交渉シ、滿場一致ヲ以テ選舉シタ實例スラアル。其議長ハ一切黨派の感情ヲ拭ヒ去ツテ、最モ公平嚴肅ニ職務ニ當リ議會ハ幾度代ツテモ議長ハ再選セラレルコトニナツデキル。我が國デモ、ソノ位ノ事ハ出來ソウナモノダ。將來ハ議長候補者選舉ノ際ニ於ケル從來ノ惡慣例ヲ變改シテ、現在ノ元老ニ代ツテ陛下ノ御諮詢ニ奉答シ得ル人物ヲ擧ゲルヤウニシタイモノデアル。但シソノ場合ニ於テモ、陛下ニ於カセラレテハ、止ムヲ得ザル必要アル時ノ外ハ、兩院議長ニモ御諮詢アラセラレナイ方宜シカラウカト恐察シ奉ル。陛下ノ英明ナル如何ナル人物ガ、新内閣組織者トシテ、最モ適當デアルカハ、必ズ御承知ノコトト思フ。然ルニ直接 聖斷ヲ下サズハ公然重臣ニ御諮詢ニナレバ、其奉答ガ多少 聖慮ニ協ハザル場合ニモ、之ヲ御採用ニナラナケレバナラナイ事情モ起リ得ルデアラウカト思ハレハレ。且ツ重臣等ノ奉答ト思ヘバコソ、之ニ反對スルモノモアラウガ、陛下直接ノ大命ニハ何人ト雖モ反對スルガ如キコトハナイ筈デアアル。

林首相ハ從來ノ慣例ノ御改易ヲ奏請シ奉ルベキ他ノ何等ノ方法モナシトスル乎。

右及質問候也

昭和十二年三月九日

内閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長 富田幸次郎殿

衆議院議員尾崎行雄君提出廣田内閣ノ辭職ト林内閣ノ成立ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

(別紙)

衆議院議員尾崎行雄君提出廣田内閣ノ辭職ト林内閣ノ成立ニ關スル質問ニ對スル答辯書

第一問、第二問、第三問及第五問ニ付テ質問ノ趣旨ハ何レモ現内閣ノ關知セザル事實ニ關スルモノニシテ、答辯ノ限ニ非ザルモノト思料ス

第四問ニ付テ

陸軍刑法第三百三條ノ罪ヲ犯シタル者アラバ之ヲ不問ニ付スルノ意思ナシ

第六問ニ付テ

一月三十日及二月一日發表セラレタリト稱セラルル陸海軍兩省ノ意見ハ如何ナルモノヲ指稱セラルルヤ判明セザルモ世ノ浮説流言ニ對シテハ之ガ一掃ニ付適切ナル方策ヲ講ズルト共ニ軍ノ紀律肅正ニ付テモ亦萬遺憾無キヲ期シ居レリ

第七問ニ付テ

陸海軍大臣任命ノ奏薦ニ關シ任免大權ヲ冒演シ國體明徴ノ精神ニ反スルガ如キ事無ク、又世上ノ誤解ヲ招クガ如キ隱レタル事實モ無シ

第八問、第九問及第十問ニ付テ

内閣組織ノ大命降下ニ關スル點ハ論議ヲ避クルヲ適當ト認ム

右及答辯候也

昭和十二年三月九日

內閣總理大臣 林 銑十郎
海軍大臣 米内 光政
陸軍大臣 杉山 元

精神的國防充實ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和十二年二月二十七日

提出者 中村 又一

一 精神的國防充實ニ關スル質問主意書
一 我カ國ノ經濟的國力ハ英米等ニ比シ
豐富ナラスト思料スルト同時ニ國防費
ノ負擔ハ亦頗ル輕カラスシテ際限ナキ
物質的軍備ノ擴張ハ國力ノ耐フル所ニ
非スト信ス然レトモ國防ハ世界ノ形勢、
隣國ノ狀況ヲ顧ミシテ我カ國獨リ軍
備ヲ制限遠慮シ得ヘキニ非サレハ帝國
現在ノ國防計畫ヘ其ノ必要ナル程度ヲ
超エ居ルモノトハ信セサルカ今後國防
ノ有形的設備ニ於テ出來ルタケ整理節
約ヲ爲シ而モ國防ノ完壁ヲ期スル上ニ
於テ精神的國防充實策ヲ實施スルノ意
思アリヤ如何

二 既往日露戰役ノ實際ニ徴スルニ同戰
役直前一九〇三年三月ノ露紙ハ日露戰
争ハ日本ノ自殺ヲ意味スト迄報道シ當
時露國軍備ノ有形的設備ハ我カ國ノ其
レニ比シ十倍二十倍ノ強大ヲ思ハセタル
程ナリシニ寧ロ天祐トモ觀ルヘキ戰勝
ヲ續ケタリ是レ陣中將卒ノ士氣全ク昂
リテ所謂金鵄勳章精神ノ活動旺盛ナリ
シニ因ルモノト思惟スルカ政府ニ於テ
ハ此ノ際精神的國防充實ノ根本策トシ
テ軍人精神ノ鼓舞作興、思想善導ノ爲
畏クモ明治二十三年二月十一日金鵄勳
章御創設ノ詔ニ「金鵄勳章ヲ創設シ將
來武功拔群ノ者ニ授與シ永ク天皇ノ威
烈ヲ光ニシ以テ其忠勇ヲ獎勵セントス」

ト宣ハセラレタル御趣旨ニ基キ戰役殊
勳者待遇改善ニ付相當ノ處置ヲ速ニ爲
ス意思アリヤ如何

三 戰役殊勳者ニ對スル金鵄勳章年金ハ
明治二十七年功七級ハ六十五圓ニ制定
セラレ翌二十八年貨幣價值ノ變動等ニ
依リ金百圓ニ改正シテ日清戰役論功行
賞ノ際實施シタルモノナルカ日露戰役
當時ヲ回顧スルニ出征軍人中例ヘハ恩
給年限ニ達シ恩給ヲ受領シタル一等卒
上等兵ハ四五十圓程度ノ恩給ヲ給與セ
ラレタルニ功七級年金ヲ受領シタル殊
勳者ノ一等卒ハ金百圓ノ年金ヲ受領シ
乃チ「恩給」年金ヲ受領シ「社會美譽」の
トナリ忠勇ノ鼓舞獎勵ニ資シタルモノ
ナルカ今日ニ於テハ恩給法數度ノ改正
ニ依リ前記一等兵ノ恩給カ金二百圓前
後ニ増額セラレ現在ニ於テ功七級年金
ハ百五十圓ニシテ「金鵄勳章」年金、恩
給ヲ受領シタルカ如キ狀態ニテ其ノ殊勳
者ノ待遇ハ總テノ點ニ於テ多年忘却セ
ラレ居ルコトハ誠ニ遺憾ノ次第ナルカ
政府ニ於テハ金鵄勳章御創設ノ詔ニ對
シ奉リ又金鵄勳章年金令ノ趣旨ニ副ヒ
居ルモノト信スルヤ如何

四 政府ハ戰役殊勳者ノ精神的待遇方法
ヲ考慮シツツアリト言フカ其ノ方法範
圍ハ如何ナルモノナリヤ具體的實施ノ
方策如何

五 金鵄勳章年金ノ増額改正ハ他ニ波及
スル點アリトノ言明ナルカ假令恩給亡
國論ヲ爲ス者ハ多少アリトシテモ國民
中金鵄勳章年金亡國論ノ意見ヲ持ツ者
ハ一人モナシト確信スルカ政府ノ所見
如何

六 林內閣總理大臣ハ陸軍大臣當時院外
ニ於テ殊勳者優遇ノ必要ヲ認メラレ當
時大角海軍大臣ト共ニ精神待遇方法ノ
一端トシテ國有鐵道乘車特典ノ實施ヲ

希望サレタルコトアリシカ今日殊勳者
ノ精神的待遇トシテ眞ニ實行セムトス
ル有效適切ナル具體案ヲ有スルヤ然リ
トセハ其ノ内容ノ要領如何
右及質問候也
昭和十二年三月九日

內閣總理大臣 林 銑十郎

衆議院議長 富田 幸次郎

衆議院議員中村又一君提出精神的國防充
實ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
〔別紙〕

衆議院議員中村又一君提出精神的國防
充實ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、精神的國防充實ハ之ニ努力中ナリ

二、昭和十二年一月二十一日提出質問第
三號戰役殊勳者待遇ニ關スル質問主意
書ニ對シ昭和十二年二月二十三日附ヲ
以テセル答辯書五、六ニ於テ答辯セル
通りナリ

三、五、前項答辯書一ニ答辯セル通りナ
リ

四、六、種々優遇ノ方法ヲ講ジツツア
リ、尙ホ引續キ研究中ニ屬ス

右及答辯候也
昭和十二年三月九日

內閣總理大臣 林 銑十郎

陸軍大臣 杉山 元

海軍大臣 米内 光政

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲
茲ニ掲載ス〕

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
（第一號）昭和十一年度歲入歳出總豫算追
加案

（特第一號）昭和十一年度各特別會計歳入
歳出豫算追加案

製鐵事業法案

大正九年法律第五十三號中改正法律案

（關稅法及關稅定率法等ノ朝鮮ニ於ケル
特例ニ關スル件）

地方鐵道補助法中改正法律案

大正九年法律第五十六號中改正法律案
（北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件）

（以上三月八日提出）

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
恩給法中改正法律案

提出者

宮脇 長吉君

八角 三郎君

蠶絲業組合法中改正法律案

提出者

清水留三郎君

門田 新松君

小山邦太郎君

傷痍軍人及戰傷病死者遺族等ノ鐵道船
舶等乘車船優遇ニ關スル法律案

提出者

中村 又一君

江藤源九郎君

一松 定吉君

原口初太郎君

川橋豐治郎君

蔭山 貞吉君

衆議院議員選舉法中改正法律案

提出者

牧野 賤男君

小林 錦君

牧野 良三君

名川 侃市君

益谷 秀次君

紅露 昭君

宮崎 一君

篠原 義政君

青木雷三郎君

中井 一夫君

立川 太郎君

立川 平君

阿波池田川之江間鐵道敷設ニ關スル建議
案

提出者

本多眞喜雄君

田村 秀吉君

小野 寅吉君

武知 勇記君

松田喜三郎君

村上紋四郎君

尾崎 重美君

高島 兵吉君

利根川沿岸築堤ニ關スル建議案

提出者

豐田 豐吉君

新居濱ヨリ別子ヲ經テ伊野ニ至ル鐵道建
設ニ關スル建議案

提出者

小野 寅吉君

私立大學總長學長及教職員優遇ニ關スル建議案

提出者 永山 忠則君

私立大學國庫補助ニ關スル建議案

提出者 永山 忠則君

霧島國立公園ノ施設促進ニ關スル建議案

提出者 陣 軍吉君

宮崎小林間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 陣 軍吉君

釜石本莊間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 陣 軍吉君

信太儀右衛門君 小山田義孝君

雪國地帯ノ鐵道敷設速成ニ關スル建議案

提出者 八田 宗吉君

野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 八田 宗吉君

湖南鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 八田 宗吉君

野澤柳津間田島只見間坂下喜多方間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 八田 宗吉君

磐梯山猪苗代湖ヲ中心トスル國立公園指定ニ關スル建議案

提出者 八田 宗吉君

水澤遠野間鐵道建設ニ關スル建議案

提出者 八田 宗吉君

水澤大船渡間省營バス運轉ニ關スル建議案

提出者 八田 宗吉君

志賀和多利君 松川 昌藏君

國際競馬場設置ニ關スル建議案

提出者 松川 昌藏君

倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

長崎港ニオイルステーション建設ニ關スル建議案

提出者 倉成庄八郎君 佐保 畢雄君

西岡竹太郎君

竹内式部山縣大貳ヲ尋常小學校教科書ニ復活ニ關スル建議案

提出者 今井 新造君

巡查及看守ノ待遇改善ニ關スル建議案

提出者 松本治一郎君

小開墾助成ニ關スル建議案

提出者 松本治一郎君

家畜商組合法制定ニ關スル建議案

提出者 岡田 春夫君 坂東幸太郎君

書道振興獎勵ニ關スル建議案

提出者 手代木隆吉君

川崎 克君 安藤 正純君

大竹 貫一君 安部 磯雄君

鹽賠償價格引上ニ關スル建議案

提出者 岡本實太郎君

私立大學總長學長及教職員優遇ニ關スル建議案

提出者 岡本實太郎君

內ヶ崎作三郎君 野村 嘉六君

荒川 五郎君 原 夫次郎君

平川松太郎君 一松 定吉君

私立大學國庫補助ニ關スル建議案

提出者 野村 嘉六君

官幣大社阿蘇神社造營ニ對シ國費支辨ニ關スル建議案

提出者 野村 嘉六君

安達 謙藏君 伊豆 富人君

松野 鶴平君 三善 信房君

大原 唯男君 藏原 敏捷君

中野 猛雄君 石坂 繁君

木村 正義君

鐵道豫定線追加ニ關スル建議案

提出者 植原悦二郎君

鐵道豫定線追加ニ關スル建議案

提出者 服部 崎市君

敦賀武生間海岸鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者 服部 崎市君

猪野毛利榮君 添田敬一郎君

齋藤 直橋君 熊谷五右衛門君

福田 耕君

浮世繪美術館建設ニ關スル建議案

提出者 窪井 義道君 眞鍋 儀十君

土倉 宗明君 木村 武雄君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

林野整備案ニ關スル質問主意書

提出者 小坂 梅吉君

財政經濟軍備及外交ニ關スル質問主意書

提出者 尾崎 行雄君

宮崎縣下各河川發電水利使用及官有林野解放等特種財源保有ニ關スル質問主意書

提出者 伊東 岩男君

千葉縣綠海村ニ於ケル縣警察隊ノ部落封鎖小學校舍破壞教育勸誘費負擔無政府村ノ出現及學童迫害ニ關スル質問主意書

提出者 土屋清三郎君

一昨八日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

樺太市制案(政府提出、貴族院送付)委員

理事 服部 教一君 門田 新松君

一昨八日特別委員補選ノ結果左ノ如シ

關稅定率法中改正法律案(政府提出)外四件委員

理事 西村金三郎君(理事中山福藏君本月四日委員辭任ニ付其ノ補闕)

理事 上田孝吉君(理事蔭山貞吉君昨八日理事辭任ニ付其ノ補闕)

一昨八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

關稅定率法中改正法律案(政府提出)外四件委員

辭任渡邊玉三郎君 補闕中 亥藏男君

辭任松山常次郎君 補闕松岡 俊三君

辭任田中 養達君 補闕馬場 元治君

郵便法中改正法律案(政府提出)委員

辭任綾部健太郎君 補闕西方 利馬君

一般會計歲出入金ニ關スル法律案(政府提出)外二件委員

辭任今井 新造君 補闕田川大吉郎君

○議長(富田幸次郎君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、本日ノ日程ニ掲ゲマシク質問一乃至五ハ、何レモ政府ヨリ答辯書ヲ受領致シマシタ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キマス、尙ホ質問ノ答辯ニ對スル意見陳述ノ申出ガアリマシマス、是ハ適當ノ機會ニ許可スルコトニ致マス、日程第一乃至第三ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、國民健康保險法案、日程第二、保健所法案、日程第三、結核豫防法中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、國務大臣河原田稼吉君

第一 國民健康保險法案(政府提出)

第一讀會

第二 保健所法案(政府提出)

第一讀會

第三 結核豫防法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

提出

提出

提出

提出

提出

提出

提出

提出

提出

提出

國民健康保險法案

第一章 總則

第一條 國民健康保險ハ相扶共濟ノ精神ニ則リ疾病、負傷、分晩又ハ死亡ニ關シ保險給付ヲ爲スヲ目的トスルモノトス

第二條 國民健康保險ハ國民健康保險組合以下組合ト稱ス之ヲ行フ

第三條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受ケル權利及保險給付ヲ受ケル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス

組合ガ規約ノ定ムル所ニ依リテ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第五百三十三條ノ規定ニ拘ラズ時効中斷ノ效力ヲ有ス

第四條 國民健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第五條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ

第六條 保險給付ヲ受ケル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第七條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ保險給付ヲ受ケベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ組合ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ組合ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スベシ

市町村ガ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セズ又ハ

九十日以内ニ之ヲ結了セザルトキハ組合ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制第一百十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第一項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ぎ他ノ公課ニ先ツモノトス

第九條 營利ヲ目的トセザル社團法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ組合ノ事業ヲ行フコトヲ得

第十條 本法中地方長官トアルハ二以上ノ道府縣ニ跨ル組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ國民健康保險組合聯合會ニ付テハ之ヲ主務大臣トス

第十一條 本法中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章 國民健康保險組合

第一節 總則

第十二條 組合ハ左ノ二種トス

一 普通國民健康保險組合

二 特別國民健康保險組合

組合ハ法人トス

第十三條 普通國民健康保險組合ハ其ノ地區内ノ世帯主ヲ組合員トシ、特別國民健康保險組合ハ同一ノ事業又ハ同種ノ業務ニ従事スル者ヲ組合員トシ之ヲ組織ス

第十七條 第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タル資格ナキ者ハ組合員タルコトヲ得ズ但シ其ノ世帯ニ被保險者タル資格アル者アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

普通國民健康保險組合ノ地區ハ市町村ノ區域ニ依リ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第十四條 組合ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ規約ヲ作り組合員タラントス

ル者ノ同意ヲ得テ地方長官ノ認可ヲ受ケベシ

組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第十五條 組合ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 組合ノ名稱

二 事務所ノ所在地

三 組合ノ地區(特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合員ノ範圍)

四 組合員ノ加入及脱退ニ關スル事項

五 被保險者ノ資格ノ得喪ニ關スル事項

六 其ノ他重要ナル事項

第十六條 普通國民健康保險組合ニ付其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上組合員タル場合ニ於テ地方長官必要アリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者(特別ノ事由アル者ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク)ハ總テ組合員ト爲ルモノトス

第十七條 組合ハ組合員及組合員ノ世帯ニ屬スル者ヲ以テ其ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 健康保險ノ被保險者

二 他ノ組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ノ被保險者

三 特別ノ事由アル者ニシテ規約ヲ以テ定ムルモノ

前項ノ規定ニ拘ラズ組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ世帯ニ屬スル者ヲ包括シテ被保險者ト爲サザルコトヲ得

第十八條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ規約違反者ヨリ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

施設ヲ利用セシムルコトヲ得

組合ハ前項ノ規定ニ依リ組合ノ施設ヲ利用スル者ニ對シ規約ノ定ムル所ニ依リ利用料ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 本法ニ規定スルモノノ外組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 事業

第二十一條 組合ハ被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付、分晩ニ關シテハ助産ノ給付、死亡ニ關シテハ葬祭ノ給付ヲ爲ス但シ特別ノ事由アル組合ハ助産ノ給付又ハ葬祭ノ給付ヲ爲サザルコトヲ得

組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ給付ニ併セテ其ノ他ノ保險給付ヲ爲スコトヲ得

特別ノ事由アル組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ給付ニ代ヘテ療養費、助産費又ハ葬祭費ヲ支給スルコトヲ爲スコトヲ得

第二十二條 療養ノ給付、助産ノ給付又ハ葬祭ノ給付ヲ爲ス組合其ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合其ノ他必要アル場合ニ於テハ其ノ都度之ニ代ヘテ療養費、助産費又ハ葬祭費ヲ支給スルコトヲ得

第二十三條 組合ハ療養ノ給付ニ要スル費用ノ一部ヲ其ノ給付ヲ受ケル者(給付ヲ受ケル者組合員ニ非ザル場合ニ於テハ其ノ屬スル世帯ノ組合員)ヨリ徵收スルコトヲ得

第二十四條 組合ハ被保險者ノ健康ヲ保持増進スル爲メ左ノ施設ヲ爲スコトヲ得

一 疾病又ハ負傷ノ豫防ニ關スル施設

二 健康診斷ニ關スル施設

三 保養ニ關スル施設

四 其ノ他健康ノ保持増進ニ關スル施設

第二十五條 組合ハ其ノ事業ニ要スル費用ニ充ツル爲組合員ヨリ保險料ヲ徵收ス

組合ハ特別ノ事由アル者ニ對シ保險料ヲ減免シ又ハ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十六條 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定期間保險給付ヲ受クル者ナカリシ世帯ノ組合員（組合員ノミヲ被保險者トスル組合ニ在リテハ保險給付ヲ受ケザリシ組合員）ニ對シ其ノ期間ノ保險料ノ一部ヲ拂戻スコトヲ得

第二十七條 保險給付ノ種類範圍支給期間及支給額、保險料ノ額徵收方法及減免其ノ他保險給付及保險料ニ關シ必要ナル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三節 管理

第二十八條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合會議長及組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

組合會議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ理事長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

組合會議員ハ組合員ニ於テ之ヲ互選ス

第二十九條 組合會ノ議決スベキ事項左ノ如シ

一 收入支出ノ豫算

二 事業報告及決算

三 收入支出ノ豫算ヲ以テ定ムルモノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄

四 準備金其ノ他重要ナル財産ノ處分

五 組合債

六 規約ノ變更

七 其ノ他重要ナル事項

前項第一號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル

書類ヲ檢閲シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十一條 組合ニ理事數人ヲ置ク

理事ハ組合會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非ザル者ノ中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

普通國民健康保險組合ニ在リテハ特別ノ事由ナキ限り前項ノ規定ニ拘ラズ理事中ニ關係市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル吏員ヲ加フルモノトス

第三十二條 理事ノ中一人ヲ理事長トス

理事長ハ理事ニ於テ之ヲ互選ス但シ前條第三項ノ規定ニ依リ理事アルトキハ特別ノ事由ナキ限り之ニ付選任ス

理事長ハ組合ヲ代表ス

理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十三條 組合會成立セズ又ハ其ノ議決スベキ事項ヲ議決セザルトキハ理事ハ地方長官ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スベキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第三十四條 組合會ニ於テ議決スベキ事項ニ關シ臨時急務ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セザルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得

第三十五條 前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スベシ

第三十六條 組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ理事長及理事以外ノ役員ヲ置クコトヲ得

第四節 分合及解散

第三十七條 組合分合、合併又ハ解散ヲ爲サントスルトキハ組合會ニ於テ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三十八條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存続スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三十九條 組合ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存続スルモノト看做ス

第四十條 組合解散シタルトキハ理事清算人ト爲ル

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ地方長官清算人ヲ選任ス清算人缺ケタルトキ亦同ジ

清算人ハ組合ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財產處分ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ清算方法及財產處分ノ變更ヲ命ジ又ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三章 國民健康保險組合聯合會

第四十一條 組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲國民健康保險組合聯合會（以下組合聯合會ト稱ス）ヲ設立スルコトヲ得

組合聯合會ハ法人トス

第四十二條 組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ規約ヲ作り地方長官ノ認可ヲ受クベシ

組合聯合會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第四十三條 組合聯合會ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 組合聯合會ノ目的及事業

二 組合聯合會ノ名稱

三 事務所ノ所在地

四 加入及脱退ニ關スル事項

五 經費ノ分賦ニ關スル事項

六 其ノ他重要ナル事項

第四十四條 組合聯合會ニ總會、理事長及理事ヲ置ク

總會ノ組織並ニ理事長及理事ノ選任ニ關スル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第四十五條 本章ニ規定スルモノノ外組合聯合會ニ關シテハ第十八條乃至第二十二條第三項第四項及第三十三條乃至第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四章 監督及補助

第四十六條 主務大臣及地方長官ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ニ對シ其ノ事業及財産ニ關シ報告ヲ爲サシメ、其ノ狀況ヲ檢査シ、規約ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ其ノ役員其ノ執行スベキ職務ヲ執行セザルトキハ地方長官ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ負擔トス

第四十八條 地方長官ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、規約、主務大臣若ハ地方長官ノ命令若ハ處分ニ違反

シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ其ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合若ハ組合聯合會ノ解散ヲ命ジ若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ第九條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四十九條 國庫ハ豫算ノ範圍内ニ於テ組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

道府縣及市町村ハ組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五章 審査、斡旋、訴願及訴訟

第五十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ國民健康保險委員會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキ民事訴訟ヲ提起スルモノトス

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第五十一條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ト、醫師、齒科醫師、藥劑師其ノ他ノ者又ハ其ノ團體トノ間ニ於ケル保險給付ニ關スル契約ニ關シ紛爭ヲ生ジタルトキハ國民健康保險委員會ハ當事者ノ請求ニ依リ其ノ解決ニ付斡旋ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 國民健康保險委員會ノ組織、審査及斡旋ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十三條 組合ノ爲シタル保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第八條ノ規定ニ依ル滯納處分ニ不服アル者ハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ二以上ノ道府縣ニ跨ル組合ニ關スルモノニ在リテハ内務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルモノトス

第五十四條 本章ニ規定スル審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分又ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第五百八條第二項及第五百九條ノ規定ヲ準用ス

第六章 罰則

第五十五條 組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會第四十條第五項又ハ第四十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ゲタルトキハ其ノ役員又ハ清算人ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

保健所法案

保健所法

第一條 保健所ハ國民ノ體位ヲ向上セシムル爲メ地方ニ於テ保健上必要ナル指導ヲ爲ス所トス

第二條 保健所ニ於テハ左ノ事項ニ付指導ヲ行フ

- 一 衛生思想ノ涵養ニ關スル事項
- 二 榮養ノ改善及飲食物ノ衛生ニ關スル事項
- 三 衣服、住宅其ノ他ノ環境ノ衛生ニ關スル事項
- 四 妊娠婦及乳幼児ノ衛生ニ關スル事項
- 五 疾病ノ豫防ニ關スル事項
- 六 其ノ他健康ノ増進ニ關スル事項

第三條 保健所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ北海道府縣之ヲ設置スルモノトス但シ勅令ヲ以テ指定スル市ノ區域ニ在リテハ市之ヲ設置スルモノトス

保健所ニハ其ノ事業ノ執行ヲ便ナラシムル爲メ支所ヲ置クコトヲ得

内務大臣必要アリト認ムルトキハ第一項ノ公共團體ニ對シ保健所ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第四條 本法ニ依ル保健所ニ非ザレバ其ノ名稱中ニ保健所タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得但シ内務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 保健所ノ設備ノ使用又ハ保健所ニ於テ行フ業務ニ付テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外使用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得ズ

第六條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保健所ニ關スル經費ノ支出ヲ爲ス公共團體ニ對シ其ノ支出額ノ二分ノ一以內ヲ補助ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

結核豫防法中改正法律案

結核豫防法中左ノ通改正ス

第一條 醫師結核患者ヲ診斷シ環境上病毒傳播ノ虞アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ速ニ行政官廳ニ届出ヅベシ

第二條 第一項及第三條中「結核患者」ヲ「病毒傳播ノ危險アル結核患者」ニ改ム

第六條 主務大臣ハ結核患者ニシテ環境上病毒傳播ノ虞アルモノヲ收容セシムル爲メ北海道府縣市其ノ他必要ト認ムル公共團體ニ對シ結核療養所ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第七條 第一項ヲ左ノ如ク改ム

地方長官ハ環境上病毒傳播ノ虞アル結核患者ニシテ豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル結核療養所ニ入所セシムルコトヲ得

第十條中「療養ノ途ナキ結核患者」ヲ「環境上病毒傳播ノ虞アル結核患者」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（國務大臣河原田稼吉君登壇）

○國務大臣（河原田稼吉君） 茲ニ國民健康保險法案ヲ提出スルニ當リマシテ提案ノ理由ヲ説明致シマス、國民ノ健康ガ國力進展ノ原動力デアリマスコトハ申ス迄モナイコトデアリマシテ、其保持増進ヲ圖ルコトハ極メテ必要デアルト考ヘマス、而シテ是ガ爲ニハ幾多ノ方法ガアリマセウガ、傷病ニ際シ必要ナル醫療ヲ受ケシメ、速ニ健康ノ恢復ヲ圖ルコトハ、最モ肝要ナコトデアリマス、然ルニ醫療ヲ受ケルコトニ關シ、第一ニ問題トナルノハ醫療費ノ負擔デアリマシテ、一度傷病ニ際會スルヤ、一時ニ多額ノ失費ヲ要スルコトハ、一般國民ニ取リマシテ洵ニ苦痛トスル所デアリマス、其結果十分ナル醫療ヲ受ケルコトガ出來ナイト云フコトハ、國民保健及ビ國民生活安定ノ見地ヨリ觀テ、忽ニスベカラザル重大事デアリマス、殊ニ最近ニ於ケル農山漁村居住民、都市中小商工業者等ノ疲弊ハ深刻ナルモノガアリ、斯ル人々ニ取ッテ醫療費ハ相當經濟的重壓トナツテ居ルデアリマス、此醫療費問題ヲ根本的ニ解決スルニハ、共同ノ力ト平素ノ用意トニ依ル保險組織ヲ以テ、最良ノ策タルコトヲ認メルノデアリマス、國民健康保險制度案ヲ作成シマシテ、社會保險調査會ニ諮問致シマシタ所、現下ノ社會情勢ニ照シ必要ナル施設トシテ、滿場一致ヲ以テ可決セラレタノデアリマス、更ニ第六十九議會ニ於キマシテ、國民健康保險法制定ニ關スル建議ガアリ、又昨年六月社會事業調査會ニ於テモ、本制度ノ速カナル施行ヲ要望セラレタノデアリマス、仍テ政府ハ是等ノ建議及ビ答申ニ基キマシテ、鋭意研

究ノ結果、茲ニ本法案ヲ提出スルニ至ツタ
ノデアリマス、本法案ノ骨子トスル所ハ、
相扶共濟ノ精神ニ則リ國民健康保險組合ヲ
設置セシメ、此組合ヲシテ健康保險事業ヲ
爲サシメントスルデアリマス、本組合ハ
原則トシテ、從來郷土の團結ヲ有スル市町
村ノ區域ニ依ルコトトシ、補充的ニ職業的
組合ヲ組織スル途ヲモ開イテ居ルデアリ
マス、本組合ノ事業トシテハ、療養ノ給付
ヲ中心ト致シマスガ、組合ノ事業及ビ經營
方法ハ、各組合ノ實情ニ應ズルコトガ肝要
デアリマスノデ、事業ノ内容ハ概ネ組合ヲ
シテ自治的ニ決定セシムルコトトシテ居リ
マス、尙ホ本制度ハ右ノ如キ趣旨ニ依リマ
シテ、醫療費問題ヲ解決シ、以テ國民ノ健
康ヲ保持増進セントスルデアリマスガ、
醫療機關トノ關係ハ最重要デアリマスノ
デ、是ガ實施ニ當リマシテハ、可及的ニ從
來ノ醫療制度ニ急激ナル影響ヲ與フルガ如
キコトナキヤウ、十分指導スル考デアリマ
ス、健康ニ關スル保險ニ付キマシテハ、既
ニ勞働者ノ健康保險制度ヲ實施シテ居リマ
スガ、其ノ實績ニ顧ミ、又農山漁村居住民、
及ビ都市中小商工業者等ノ實情ヲ考慮シ、
本制度ヲ制定スルニ至ツタデアリマシテ、
斯ノ如キ制度ニ依リマシテ、國民ノ健康ヲ
保持増進シ、以テ國民生活ノ安定ヲ期スル
ハ、時局ニ鑑ミ喫緊ノ要務ナリト考ヘルノ
デアリマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛ア
ランコトヲ切ニ望ム次第デアリマス

續イテ保健所法案ニ付テ提案ノ理由ヲ御
説明申上ゲマス、我方國民ノ健康狀態ヲ觀
マスルニ、近時稍、改善ノ跡ヲ認メ得ルノ
デアリマスガ、之ヲ歐米主要國ニ比較スレ
バ、尙ホ著シキ遜色ガアルバカリデナ
ク、結核ノ蔓延ノ如キ、洵ニ寒心ニ堪
ヘザルモノガアリマシテ、國民體位ノ
向上ヲ圖ルコトハ、當ニ喫緊ノ時務ト
存ズルデアリマス、我國ノ醫學ハ近年著

シキ進歩ヲ遂ゲツ、アルニモ拘ラズ、國民
保健ノ狀態ガ鋭上ノ如クデアリマスノハ、
他ニモ種々ノ原因ノ存スルコトト思ヒマス
ガ、國民ノ健康ヲ保持増進スベキ衛生上ノ
施設ニ於テ、尙ホ足ラナイト云フ點ニ、大
キナ原因ガ潜在シテ居ルト思ハレルデア
リマス、隨テ國民ノ體位ヲ向上セシムルニ
ハ、健康ノ増進乃至疾病ノ豫防ニ關シマス
ル指導扶掖、即チ積極的指導衛生ノ方面ニ
於キマシテ、一段ノ努力ヲ致サナケレバナ
ナイト考ヘルデアリマス、以上申述べマ
シタ事情ヲ篤ト考慮シマシテ、今回政府
ハ一般國民ニ對シ、保健上萬般ノ指導ヲ爲
ス機關タル保健所ノ設置ヲ企畫致シマシテ、
茲ニ保健所法案ヲ提出シタ次第デアリマス、
保健所ハ國民體位ヲ向上セシムル爲メ衛生
思想ヲ啓發シ、衣食住其他日常生活ノ衛生
的改善ヲ指導シ、結核其他疾病豫防ノ指示
ヲ爲ス等、有ユル角度カラ保健上ノ指導ヲ
爲ス機關デアリマシテ、保健所ニハ醫師、
藥劑師、衛生指導員、公衆衛生看護婦等ヲ
置き、是等ノ職員ハ所内ニ於テ衛生各般ノ
相談ニ應ズルノ外、擔任區域内ヲ巡回シテ
實地指導ヲ爲シ、或ハ關係官公署團體等ト
連絡協力シテ、以テ指導事業ノ徹底ヲ期セ
ントスルモノデアリマス、保健所ハ大體人
口二十万乃至十二三万ニ付キ一箇所ノ割合
ヲ以テ全國ニ之ヲ設置シ、必要ノ地ニハ支
所ヲ設ケシムル豫定デアリマシテ、是ガ設
置經營ノ主體ハ北海道、府縣又ハ特定ノ市
デアリマスガ、國庫ハ其創設費ニ對シ二分
ノ一以内、經常費ニ對シ三分ノ一以内ヲ補
助スル考デアリマス、以上ハ保健所法案ノ
提出理由ト其要旨デアリマス、何卒御審議
ノ上速ニ御協賛アランコトヲ御願申上ゲル
次第デゴザイマス

更ニ第三ノ結核豫防法中改正法律案ノ提
案ノ理由ヲ御説明申上ゲタイト思ヒマス、
現行結核豫防法ハ大正八年ニ制定セラレタ

ノデアリマスガ、結核豫防ノ目的ヲ達成致
シマス爲ニハ、現行法ノ規定デハマダ不十
分ナル點モアルヤウニ存ゼラレマスノデ、
結核豫防施設ノ擴充ヲ期セントスル此機會
ニ於キマシテ、本法ヲ改正シテ豫防上遺憾
ナキヲ期シタイト存ズル次第デアリマス、
今回ノ改正法律案ニ於キマシテ、改正シタ
イト云フ主要ナル點ヲ申上ゲテ見マス、第
一ハ、現行法ニアリマス結核ノ定義ヲ削除致
シマシテ、結核豫防法ノ適用ハ肺結核又ハ
喉頭結核デアツテ、病毒傳播ノ危險アルモノ
ニ限ルコトナク、其他ノモノニ對シマシテ
モ之ヲ適用シテ、必要ナル豫防措置ヲ講ズ
ルノ趣旨ヲ明ニスルコトデアリマス、第二
ハ、醫師ガ結核患者ヲ診斷シタル場合ニ於
キマシテ、當該患者ニシテ環境上病毒傳播
ノ虞アリト認メマスル時ニハ、其醫者ニ對
シマシテ、之ヲ行政官廳ニ届出ヅルノ義務
ヲ課シ、行政官廳ヲシテ豫防上適切ナ措置
ヲ講ゼシメタイトスル趣旨デアリマス、第
三ハ、公立結核療養所ニ入所セシムル患者
ノ範圍ヲ擴張致シマシテ、環境上病毒傳播
ノ虞アル結核患者ハ、療養ノ途ナキ者ハ勿
論、其外ノ者ヲモ入所セシメ得ルコトニ改
メントスルデアリマス、第四ハ、現行法
ニハ結核療養所ノ設置ハ、人口五万以上ノ
市ヲ原則トスルガ如キ規定デアリマスガ、
寧ろ道府縣モ市ト相並シデ之ヲ設置スルコ
トガ適當ト認メラル、ノデ、主務大臣ハ北
海道、府縣、市、其他必要ト認メマスル公
共團體ニ、療養所ノ設置ヲ命ジ得ルコトニ
改メントスルデアリマス、以上ガ今回ノ
改正案ニ於キマスル主要ナル點デアリマス、
何卒御審議ノ上速ニ御協賛ヲ賜ハラント
御願申上ゲマス

○議長(富田幸次郎君) 諸君、此際一言致
シマス、本案ニ對スル質疑ノ通告ハ頗ル多
數ニ上ツテ居リマス、質疑ヲナサル諸君ニ於
テハ、質疑ノ範圍ヲ越エ、討論ニ涉ル等ノ

コトナキヤウ十分御注意アラントヲ望ミ
マス、尙ホ各派協議會ノ申合セモアリマス
カラ、質疑時間ハ三十分ヲ超エザルヤウ併
セテ御注意アラントヲ望ミマス(拍手)是
ヨリ通告願ニ依リ質疑ヲ許可致シマス
清水留三郎君
(清水留三郎君登壇)
○清水留三郎君 國民健康保險法案ニ付キ
マシテ總理大臣、内務大臣、農林大臣、商
工大臣ニ質疑ヲ致シタイノデアリマス、總
理大臣、農林大臣、商工大臣ハ、貴族院ノ
豫算總會ニ出席中トノコトデアリマスルカ
ラ、總理大臣ニ屬スル部分ハ、國務大臣ト
シテノ内務大臣ヨリ、農林大臣、商工大臣
ニ屬スル部分ハ、政府委員ヨリ答辯ヲ希望
スルデアリマス
第一ニ御伺致シタイノハ、國民健康保險
ノ根幹ヲ成シマスル醫藥給付ノ問題デアリ
マス、日本人ノ死亡率ハ歐米人ニ比シ著シ
ク多イデアリマス、最近ノ統計ニ依リマ
ス、人口千人ニ對シマシテ、和蘭ハ八・四、
獨逸ハ一〇・九、亞米利加ハ一〇・七、白耳
義ハ一・七、英吉利ハ一・〇、伊太利ハ
一・三・八、佛蘭西ハ一・五・一・六・八ニ該當ス
ルデアリマス、又平均壽命ニ於テ見マス
ルノニ、日本人ハ歐米人ニ比シ約十年短命
ナノデアリマス、斯ウ云フ風ナコトハ一體
何ニ原因シテ居ルノデアリマセウカ、日本
人ノ體格ガ歐米人ヨリ著シク劣ッデ居ルト
ハ思ハレマセウ、日本人ノ食物、榮養量ニ
於テ、サウビドク惡イトハ感ジナイノデア
リマス、尤モ保健思想ノ幼稚ナル點、衛生
施設ノ不十分ナル點、醫療機關ノ都市偏重
等ト云フコトニ付テハ、多少考慮シナケレ
バナラナイト思ヒマス、併シ其最大ノ原因
ヲ成スモノハ、日本人ノ生活程度ニ比較致
シマシテ、醫療費ノ負擔ガ多イト云フコト
ト、醫療ガ合理化ナラザルト云フ點ニ歸著

ト、醫療ガ合理化ナラザルト云フ點ニ歸著

スルノデハアルマイカト感シテ居リマス、最近數年ノ間ニ於キマシテ、簡易保險局ノ健康相談所ハ各地ニ設置セラレマシタ、産業組合ノ醫療利用組合ハ到ル處ニ普及サレマシタ、實費診療所ハ各都市ニ増設セラレマシタ、隨テ醫療費ハ漸次遞減ヲ來シテ居ルノデアリマス、更ニ健康保險ノ組織ニ於キマシテ、或ハ工場、鑛山ノ労働者ハ、其恩典ニ浴シテ參リマシタ、今茲ニ國民健康保險ノ創設ニ依リマシテ、農民並ニ中小商工業者ハ保險組織ニ依ツテ、此醫療費ノ重壓カラ除去シ得ラレルト思フノデアリマス、更ニ進ンデハ「サラリーマン」ニ對スル所ノ健康保險ヲ創設シテ、以テ一般國民ヲシテ此安キ醫療費ノ負擔ヲ濟ムヤウニシナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、併シドウモ醫療ノ合理化ト云フ問題ニ付キマシテハ、今日遺憾ノ點ガ多クイノデアリマス、診療ハ醫者ニ、調劑ハ藥劑師ニ、各、専門的ニ研究シタ者ニ分業セシムルト云フコトガ必要ナノデアリマス、歐羅巴ニ見マスルト、獨逸ニ於テモ、佛蘭西ニ於テモ、伊太利ニ於テモ、白耳義ニ於テモ、到ル處法律ヲ以テ分業ヲ強制シテ居ルノデアリマス、亞米利加ト英吉利ト「チエッスロバキヤ」ニ於テハ、法律ヲ以テ分業ヲ強制シテハ居リマセスガ、強制スルノ必要ナキ程、分業ト云フモノガ行渡ッテ居ルノデアリマス、然ルニ日本ニ於キマシテ、健康相談所、或ハ陸海軍ノ病院、三人以上ノ醫師ヲ有スル病院、診療所等ニ於テハ、分業ガ行ハレテ居リマス、併シ一般ノ開業醫及ビ健康保險醫ノ大部分ト云フモノハ、舊來ノ習慣ニ從ヒマシテ、醫師ガ診察モ、スレバ調劑モ爲シテ居ルノデアリマス、醫師ガ調劑スルナラバマダ宜シイ、甚シキニ至リマシテハ、藥ニ經驗ノナキ女中ナリ、看護婦ナリガ平然トシテ調劑シテ居ル、此問題ガ嘗テ健康保險ノ委員會ニ於テ討議セラレマ

シタ時ニ、時ノ衛生局長ハ、醫師ノ監督指導ノ下ニ於テスルナラバ差支ナイト云ツテ、此藥學ニ經驗ノナイ所ノ女中ナリ、看護婦ナリノ調劑ト云フコトヲ、何等取締ッテ居ラナイノデアリマス、今ノ日本ノ制度ニ於キマシテハ、診察スル者ハ醫者デアリマス、調劑スル者モ醫者デアリマス、死亡證明書ヲ書ク者モ醫者デアリマス、是ガ多クノ場合同一人デアアル、サウ致シマスルト云フト、當然助カルベキ所ノ病人ガ、誤診ノ結果死スカ、誤藥ノ結果死スカ、其責任ノ歸著ト云フモノガ明カデナイ、若シ分業ヲ實施サレタ場合ニ於キマシテハ、醫者ハ必ズ處方箋ヲ發行スル、藥劑師ハ其處方箋ニ依ッテ調劑致シマスルガ故ニ、茲ニ若シ醫者ノ診察ガ誤ッテ居ッテ、異タル處方箋ヲ書イタ場合ニ於テハ、藥劑師ハ之ニ注意ヲ與ヘ、藥劑師ガ誤ッテ藥ヲ盛ッテ、直チニ病氣ニ變動ヲ生ジタ場合ニハ、醫者ガ注意ヲスルト云フノデ、オ五ニ注意ヲ致シマスルカラ、茲ニ粗診粗療ト云フモノハ無クナリマシテ、完全ナル醫療制度ト云フモノガ行ハレルノデアリマス、政府ガ新シイ計畫ヲ樹テマスル場合ニ於テハ、從來ハ分業ハ任意分業ニナツテ居ルノデアリマス、此新シイ制度ヲ樹テル場合ニ於テハ、強制分業ニスベキガ當然デアアル、英吉利ノ如キニ於キマシテハ、一般ニ於テハ任意分業デアリマスガ、政府ノヤツテ居リマスル健康保險其他ニ於テハ、強制分業ヲヤツテ居ル、而シテ此政府ノ立前ト致シマスルト云フト、強制分業其モノハ時期ガ早イ、政府ノ立前ハ任意分業ダト云ツテ居リマス、任意分業結構デアアル、併シ任意分業ガ日本ニ於テ徹底サレテ居リマスルカ、任意分業ノ障礙ヲ爲スモノハ處方箋料ノ問題デアアル、五十錢カ、六十錢ノ藥ヲ貰ヒマスル場合ニ、處方箋料トシテ、東京醫師會ナドニ於テハ二圓以上ヲ規定シテ居リマス、僅ノ藥ヲ貰フ爲ニ、高イ處方箋

料ヲ拂フノハ堪リマセスカラ、一部ノ「インテリ」階級以外ヲ除キマシテハ、ヤハリ同ジ醫者カラ調劑ヲ受ケテ居ルノデアリマス、此處方箋料ヲ撤廢スルト云フコトガ重大ナル問題デゴザイマス、嘗テ健康保險ノ委員會ノ席上、私ヨリ此事ヲ質問致シマシタ、政府ノ答辯ハ、歐米ニ於テハ處方箋料ト云フモノハ診察料中ニ當然含ムベキモノデアアル、又含シムルノガ適當デアルト思フ、日本ニ於テハ多年ノ習慣ニ從ッテ居ルト云フダケノ答辯デゴザイマシタ、故ニ政府ノ立前デアリマスル任意分業デアラナラバ、任意分業ヲシテ徹底セシムベク、先ヅ處方箋料ト云フモノヲ撤廢スルコトガ必要ノ問題デアアル、更ニ藥價ニ付テ考慮スルコトガ必要ト思フ、今日ノ一般開業醫ノ實際ヲ見マスルト云フト、直接税ニ比スベキ所ノ診察料ニ依ッテ生活スル者ハ少イ、間接税トモ云フベキ所ノ藥ノ儲ケニ依ッテ生活シテ居ル所ノ醫者ガ多クイノデアリマス、是ハ實際ノ問題デアリマス故ニ、先ヅ私共ハ現在獨逸ガヤツテ居リマスルヤウナ、國定ノ藥價令、國ノ法律ヲ以テ藥ノ値段ヲ一定セシムルコトガ必要タト思フ、サウスレバ醫師ガ間接税ニ比スベキ藥ノ儲ケヲ轉ジテ、直接税ニ比スベキ診察料ニ依ルト云フコトニナレバ、茲ニ分業ガ行ハレ、其結果死亡率モ少クナリ、壽命モ長クナルノデアアルマイカ、サウ云フ點ヲ考慮シタ場合ニ於テハ、政府ガ任意分業ヲ立前トシテ居ル、其任意分業ト云フモノヲ徹底セシムル爲ニ、處方箋料ノ撤廢、藥價令ノ制定ト云フコトニ付テ、政府ハ如何ナル考ヲ持ッテ居ルカト云フコトヲ第一ニ伺ヒタイ

更ニ此法案直接ノ問題ト致シマスルナラバ、此法案ニ於テハ無論組合ノ任意行爲ヲラシムルト思ッテ居リマス、組合ニ於テ或ハ處方箋ヲ發行シテモ宜イ、組合ノ任意行爲ト私共感シテ居リマスガ、少クトモ政府ノ指導精神トシテ希望致シマスルノハ、醫者ハ其診察シタ患者ニ對シテハ、必ズ處方箋ヲ發行セシムルノ義務ヲ負ハシムルコトガ必要デアアル、無料デ處方箋ヲ發行スル、患者ガ其處方箋ヲ持ッテ、其醫者カラ調劑ヲ受ケヤウガ、藥劑師カラ受ケヤウガ、ソレハ患者ノ自由行爲ヲラシメレバ宜シイ、少クトモ今回ノ此法案制定ニ於テハ、サウ云フ風ヲ指導精神ヲ持ツコトガ宜イト考ヘテ居リマスガ、政府ノ之ニ對スル御考ハドウデアアルカト云フコトヲ御同致シタイノデアリマス

次ニ第二ニ御同致シタイノハ、此國民健康保險ニ於キマシテハ、健康相談所ノヤツテ居ル如ク、專屬醫ヲ置イテ、サウシテ診察セシムルノデアリマスルカ、或ハ健康保險組合デヤツテ居リマスル如ク、開業醫ニ囑託シテ、開業醫ニ診察並ニ調劑ヲセシムルノデアリマスルカ、其根本ヲ承リタイノデアリマス、健康保險ノ實際ヲ見マスルト、被保險者ト云フモノハ非常ニ不平等ヲ言フ、ナゼ不平等ヲ言フテ居ルカ、例ヘテ見レバ健康保險醫ノ所ヘ參リマスルト、ドウモ一般患者ヨリ、健康保險ノ被保險者ト云フモノハ、診察ヲ後廻シニスル、一般患者ヲ診タ後デナケレバ診ナイト云フ場合ガ多イト云フ不平等吾々ハ聞イテ居ル、又健康保險醫ニ於テ藥ヲ二通りニシテ居ッテ、健康保險ノ患者ニ對シマシテハ、「ホ」印藥品ト云フ二等品ヲ分類シテ居ル、之ヲ特ニ使ッテ居ルト云フ醫者ガアルト云フコトヲ聞イテ居ル、是ガ健康保險ガ日本ニ於テ成績ガ惡イ、治療日數ガ歐米カラ見ルト非常ニ長イト云フ、其長イノモサウ云フ結果デハナイカト思ッテ居リマス、政府ガ此案ヲ成スニ際シマシテ、先ヅ開業醫ニ囑託セシムル方針デアアルカ、或ハ專屬醫ヲ置イテモ差支ナイノデアアルカ、之ニ付テノ御方針ヲ承リタイ

第三ニ御同致シタイノハ、日本醫師會ト

ノ間ニ團體契約ヲ結バシムル方針デアアルカ
ドウカノ問題、所謂團體契約ヲシテ、被保
險者ニ自由選擇主義ヲ採ラシムル方針デア
ルカドウカノ點デアアル、團體契約ヲ致サセ
マスト、被保險者ト醫者トノ間ニ於キマシ
テ、一種ノ中間機關ガ出來ルノデアリマス、
大日本醫師會ト契約ヲセシメル、サウスル
ト醫師會ノ國民健康保險ニ於ケル所ノ事務
費ト云フモノハ、結局被保險者及ビ診察ス
ル醫者ガ分擔スルノデアリマス、サウスル
ト被保險者カラ申シマスルナラバ、餘計ノ
費用ヲ要スル、診察スル醫者カラ申シマス
ルナラバ、餘計ノ費用ヲ要スル、ソレガ非常
ノ不利益ニナルノデアアルマイカ、ノミナ
ラズ此保險組合ト云フモノハ、村々ニ出來
ルトカ、同業者間ニ出來ルト云フノデ、極
ク小サナル團體デアアル、小サナル團體ト
一面ニハ日本醫師會ト云フ大キナ團體トガ
契約スルト云フト、大キナ團體ノ爲ニ常ニ
壓迫サレマシテ、小ナル組合ト云フモノハ、
全ク如何トモ處置スルコトガ出來ナイヤウ
ナ状態ニ陥ルコトハ、今ノ健康保險ニ於テ
モ、醫師會ノ我儘ノ爲ニ弱ッテ居ル實例ヲ見
テモ分ルノデアリマス、故ニ是等ノ點ニ付
キマシテ、政府ハ果シテ日本醫師會トノ間
ニ團體契約ヲ結ビ積リデアアルカ、無論法制
上ハ之ヲセスト申シマセウ、現在ノ健康保
險ニ於テモ、法制上ハ日本醫師會ト何等
ノ契約ノ條項ハナイ、併シ實際ハ日本醫師
會ト契約ヲシテ居ルノデアアル、若シ此法案
實施ノ曉ニ於テ、政府ハ日本醫師會ト契約
ヲスル考デアアルカドウカ、此根本ノ問題ヲ
承リタイ

第四ニ承リタイノハ、醫師、藥劑師、賣
藥業者ノ失業問題ガ起ル、之ニ對シテ如何
ナル所ノ救済ノ策ヲ講ジテ居ルカ、醫師ノ
點カラ申シマスルナラバ、無論收入ノ減ル
ト云フコトハ爭フベカラザル事實デアアル、
ノミナラズ醫師カラ言ヒマスルナラバ、組

合ノ幹部ノ爲ニ常ニ種々ナル所ノ壓迫ヲ受
ケル、組合幹部ノ數心ヲ得ルニアラザレバ、
或ハ患者ハ寄越サレナイト云フ状態ニナッ
テ、醫師其者ノ種々ナル所ノ信用ヲ失墜ス
ル場合ガ多カラウ、更ニ藥劑師ノ方面カラ
申シマスルナラバ、健康保險實施ノ時ニ於
テ、工場附近ノ藥劑師ハ、從來賣ッテ居ッ
賣藥其他ガ賣レナイ爲ニ、非常ニ困ッテ失業
致シマシタ、若シ此法案實施ノ曉ニ於テハ、
同様ノ結果ヲ示シハシナイカ、殊ニ開業醫
ニ對シテ囑託ヲスルト致シマスルナラバ、
開業醫ノ多クハ分業ヲ喜バス、處方箋ノ發
行ハシナイ、サウスルト云フト、藥劑師ト
云フモノハ、茲ニ失業状態ニ陥ルノデ、之ニ
對シテ如何ニスルカ、殊ニ甚シイノハ賣藥
ノ所ヘ參ルノニ非常ニ遠イ、又實際上不便
デアアル、斯ウ云フ場合ニ於テ、富山縣其他
ノ多クノ賣藥業者ハ、主トシテ山村ニ入り
込ミマシテ、賣藥ヲ農村ノ各戸ニ配付スル、
ソレハ半年ナリ一年ノ後ニ於テ、殘ッタモノ
ト使ッタモノトヲ調べ、サウシテ使ッタモノ
ニ對スル現金ヲ受取ッテ、新シイ藥ヲ置イテ
來ルト云フノガ現在ノ習慣デアアル、又是等
賣藥業者ハ其預ケテ來タ所ノ賣藥、之ヲ擔
保トシテ融通ノ方法モ講ジテ居ルノデアアル、
間ク所ニ依リマスルト、政府ハ組合ニ對シ
マシテ、丁度全購聯ガヤッテ居ルガ如ク、賣
藥ヲ給付スルト云フ風ノ噂ヲ聞イテ居リマ
スルガ、政府ハ果シテ組合ニ賣藥給付ノ權
利ヲ與ヘルノデアアルカドウカ、即チ賣藥ヲ
組合ニ委シテ、農村ノ各戸ニ組合カラ給付
セシメタ場合ニ於キマシテ、ドウ云フ結果
ヲ生ズルカ、其場合ニ被保險者ニ對シマシ
テ賣藥ニ對スル選擇權ヲ與ヘルカ、被保
險者ヲシテ好キナ賣藥ヲ買ハシムベ
ク、現金給付ノ策ヲ講ズルカドウカ、政
府ノ所見ヲ承リタイ、政府ハ組合ノ自治ニ
委スト申シマスルガ、結局ハ若シ賣藥ヲ農

村其他ハ悉ク給付シタ場合ニ於テハ、ソレ
コソ賣藥業者ト云フモノノ失業ヲ生ズル、
是ハ重大問題デアアル、之ニ對シテ政府ガ賣
藥給付ヲ制限スル積リデアアルカドウカ、獎
勵スル積リカ、或ハ禁止スル積リカ、政府
ノ方針ヲ承リタイ

大臣ハ産業組合ノ爲シテ居リマスル行動ニ
向ッテ、之ヲ等閑視シテ居ルノカ、サウナレ
バ商工業者ト云フモノハ到底營業ハ出來
ス、中間配給機關ヲ排除セヨト云フコトヲ
産業組合ノ人々ハ言ッテ居ル、其場合ニ於
テハ中小商工業ノ失業問題ガ起ル、是等ニ
付テ商工大臣トシテ如何ナル對策ヲ持ッテ
居ルカ、之ニ付テ私ハ商工大臣ノ御意見ヲ
承リタイノデアリマス

此場合私ハ農林當局ニ向ッテ承リタイコ
トガアリマス、ソレハ全購聯ノ賣藥製造販
賣ニ關スル問題デアリマス、昨年ノ特別議
會ノ豫算分科會ニ於テ、私ハ政府委員ニ對
シテ此點ヲ質問致シマシタ、其時小平政府
委員ノ答辯ニ依リマス、全購聯ハ自ラ製
藥ハシテ居リマセスト云フコトヲ申サレマ
シタ、併シ實際ヲ見ルト云フト、全購聯ガ賣
藥ノ製造販賣ヲシテ居ルノデアリマス、即
チ明ニ製造販賣元全國購買組合聯合會ト銘
打ッタル賣藥ヲ到處ニ配付シテ居ルノデ
アル、最近ニ於キマシテハ、ツイ先月ノ間
題デゴザイマシタ、靜岡縣ニ於テ全購聯ガ
青年團ヲ組織致シマシテ、村々ニ配付致シ
テ居リマスル賣藥ヲ全部集メテ、サウシテ
自分ノ賣藥ト取換ヘ、此集メタ賣藥ヲ富山
縣ノ賣藥業者ニ繼メテ送り返シタ、是ガ現
在問題トナッテ居ルノデアアル、全購聯ガ斯
ウ云フ風ニ賣藥ニ對シテ製造販賣スルト云フ
コトガ、果シテ善イカ惡イカ、一面ニ於テ
ハ營業收益稅ヲ納メテ居リ、有ユル所ノ負
擔ヲシテ居リマスル中小商工業者、他面ニ
於テハ政府ノ恩典ヲ受ケ、低利資金ノ融通
ヲ受ケ、運賃ノ割引ヲ受ケテ居リマスル產
業組合ガ、商工業ノ範圍ニ侵入シ、ノミナ
ラズ組合員ダケニ配付スルナラ宜シイガ、
實際問題トシテハ、組合員以外ニモドン
ドン配付シテ、商工業者ノ販路ヲ侵シテ居
ル、是ハ現在ノ實際問題デアリマス、是ハ
農林大臣ハ構ハスデ置クノデアアルカドウ
カ、農林大臣ノ之ニ對スル御方針ニ付テ御
同致シタイ

次ニ商工大臣ニ御同致シタイノハ、商工

大臣ハ産業組合ノ爲シテ居リマスル行動ニ
向ッテ、之ヲ等閑視シテ居ルノカ、サウナレ
バ商工業者ト云フモノハ到底營業ハ出來
ス、中間配給機關ヲ排除セヨト云フコトヲ
産業組合ノ人々ハ言ッテ居ル、其場合ニ於
テハ中小商工業ノ失業問題ガ起ル、是等ニ
付テ商工大臣トシテ如何ナル對策ヲ持ッテ
居ルカ、之ニ付テ私ハ商工大臣ノ御意見ヲ
承リタイノデアリマス

次ニ此制度ハ被保險者ガ保險料ヲ拂ヒマ
スル以外ニ、診察ヲ受ケニ參リマスル場合
ニ、一部ノ金ヲ持ッテ行クノデアアル、所謂一
部負擔制度ニナッテ居リマス、然ラバ貧困ナ
人ニ向ッテハ如何ナル處置ヲ執ラル、カ、尤
モ救護法ニ依リマス所ノ極貧者ト云フモノ
ハ、自治ノ能力ナキモノデアリマス、カ、尤
自助的ノ施設デアアル國民保險ニハ加入シ
イモノト吾々ハ考ヘテ居ル、更ニ金持階級
ヲドウスルカ、外國ノ立法例ニ依リマスナ
ラバ、金持ト云フモノハ除外シテ居ルノデ
アル、即チ自ラ金ヲ持ッテ十分醫療ガ爲シ得
ラレル所ノ金持階級ト云フモノハ、社會施
設デアリマス斯ウ云フ風ナ立法カラ除外シ
テ居ルト云フコトガ各國ノ實例デアアル、今
回ノ此制度ハ社會立法デアリマスル以上、
金持階級マデモ組合員タラシムル考デアアル
カドウカ、更ニ救護法ニ依ル極貧者以外ニ、
事實上農村都會ニ於キマシテモ、組合員ノ
中ニハ貧富ノ懸隔ガ相當ニアル、之ニ對シ
テハ社會政策的ノ立場カラ階級ヲ設ケル
カ、マサカニ戸數割ト云フ風ニハ行キマス
マイガ、二階級カ三階級カニシテ、或ハ保
險料ニ差別ヲ設ケ、或ハ持ッテ參リマスル現
金ニ差別ヲ設ケ、貧富ノ間ニ於ケル所ノ
一種ノ社會政策的ノ行動ヲ執ル考デアアル
カドウカ、此點ヲ御同致シタイノデアリマス

次ニ第六ニ御同致シタイノハ、時間ガ切
迫シテ居リマスカラ、簡單ニ要點ダケ申上
ゲテ置キマス、第九條ノ規定デアリマス醫

次ニ商工大臣ニ御同致シタイノハ、商工

次ニ商工大臣ニ御同致シタイノハ、商工

次ニ商工大臣ニ御同致シタイノハ、商工

療利用組合ノ問題デアリマス、此法案ニ依リマスルト、營利ヲ目的トセザル社團法人ヲ以テ代用セシムルアリマスガ、是ハ産業組合ノ療利用組合ヲ指スモノト私ハ考ヘテ居ル、併シ療利用組合以外ニ代用セシムル所、他ノ組合ガアルカドウカト云フ問題ヲ伺ヒタイ、又此療利用組合ヲシテ代行セシムルコトニ付テハ、今日贊否兩論ガアル、醫師會ハ反對シ、産業組合ハ贊成シ、世論囂々タル問題アル、私共ハ公平ノ立場カラ見ルナラバ一利一害ト思フ、併シ利用組合中ニハ赤字ニ憊シテ、解散ノ運命ニ陥ラントシテ居ルモノモ少クナイノデアル、一部ニ於テハ、是ハ赤字ニ困ッテ居ル療利用組合ノ救済策ヲ言フテ居ル、療利用組合ヲシテ代用セシメル場合ニ於テ、國民保險ト組織ヲ合致セシメルヤウニ變更ヲ強制スル考デアアルカドウカ、即チ今日ノ療利用組合ハ會員組織ニヤッテ居ル、今回ノ案ハ保險組織ニヤッテ居ル、悉ク此法案ノ中ニ合致セシメルヤウナ總テノ改正ヲ企テ、而モ其中ニ於テ堅實ナルモノノミヲ許スト云フ御考デアアルカドウカ、其點ヲ御伺致シテ置キタイ、更ニ利用組合ハ農林省ノ所管デアリマス、此國民健康保險ハ内務省ノ所管デアリマス、若シ之ヲ代用セシメル場合ニ於テハ、内務省ノ所管ニ變ヘルノデアルカ、其儘産業組合ノ一體トシテ農林省ノ管轄ニ置クノデアルカ、其管轄ノ問題ニ付テ御伺シテ置キタイノデアリマス

最後ニ私ハ内務大臣竝ニ總理大臣ニ御伺シテ置キタイノハ、此法案實施ノ曉ニ於テ、政府ハ「サラーリマン」階級ニ對スル所ノ健康保險ノ法案ヲ提出スル考ガアルカドウカ、若シ提出スル場合ニ於テハ、是ハ強制加入セシメルコトガ必要ト思ヒマスガ、強制加入ノ方針ノ下ニ於テ提出スル考デアアルカドウカト云フ點ヲ伺ヒタイ
更ニ内務大臣ニ御伺シテ置キタイノハ、

今日醫療全般ニ對シマシテ種々ノ問題ガアル、分業問題ヲ中心ト致シマシテモ、醫師ト藥劑師トノ間ノ軋轢ガアル、其他醫療全般ニ互ッテノ根本策ヲ解決スルコト云フコトハ、今日必要ナ問題デアル、ソレニ付テハ此醫療制度ニ對スル所ノ委員會組織——官民各方面カラ委員ヲ選シテ、醫療國策ニ對スル根本ヲ決メル爲ニ、委員會組織ノ計畫アリヤ否ヤト云フ點デアル

是ハ内務大臣トシテ御答辯ヲ願フヨリハ、總理大臣トシテノ御答辯ヲ願ヒタイガ、國務大臣トシテノ内務大臣ニ伺ッテ置キタイノハ、政府ハ保健省ト云フ風ノモノヲ設ケ、此醫療全般ニ對スル國策ヲ爲シ、之ヲ統一スル考ガアルカドウカ、保健省ヲ設ケルコトニ付テ何カ考ヲ持ッテ居ルカドウカ、更ニ醫療問題ニ對スル最後ノ歸著點ハ、醫療國營ニ及バナケレバ解決出來スト思フ（拍手）最後ハ醫療國營ニシナケレバナラスカト思フ、醫療國營ハ第二ト致シマカ考ガアルカ、醫療國營ハ第二ト致シマシテモ、少クトモ製藥ノ國家管理ト云フ問題ニ付テハ研究シナケレバナルマイ（ソレハ必要ダト呼フ者アリ）今藥ハ藥九層倍ト申シテ、而モ其半分以上ハ廣告費ニ取ラレ、其爲ニ國民ノ實際上ニ於ケル負擔ト云フモノハ、非常ニ重課サレテ居ル、結局ハ製藥ノ國家管理マデ進マナケレバナルマイ、斯ウ云フ點ニ付テ何カ政府ハ御考ヲ持ッテ居ルカドウカ、私ノ質問ハ多岐ニ互ッテ居リマス、併シ時間ガアリマセヌノデ、内容ニ付テ詳シク申スコトハ出來マセヌガ、唯私ノ質問ノ概要ダケヲ御酌取リ下サイマシテ、政府ノ之ニ對スル御答辯ヲ承リ、尙ホ尋ネルベキ點ガアリマスナラバ、重ネテ御尋致シタイト思フノデアリマス（拍手）
（國務大臣河原田稼吉君登壇）
○國務大臣（河原田稼吉君） 只今清水サンカラノ御尋ニ付キマシテ、段々ト御答ヲ申

上ゲタイト思ヒマス、第一ハ醫藥分業ヲ強制スルカドウカ、隨テ處方箋料ヲ徴收スルヤ否ヤ、斯ウ云フ風ナ御尋ノヤウニ諒解致シマシタ、根本ノ問題トシテ、醫藥分業ノ問題ハ、是ハ可ナリ面倒ナ重要ナ問題デアリマスガ、面倒ナ問題デアリマスコトハ、私ハ此處デ事新シク申上ゲルマデモナイコトト思ヒマス、隨ヒマシテ今回ノ國民健康保險組合ノ制度ニ於キマシテモ、直チニ此制度ヲ採用スルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、容易ニ決定シ兼ねルノデアリマス、先ヅ大體ハ今日國民ノ風習ト云フモノニ從ヒマシテ、餘リ理想的ニ走ルト云フコトハ如何カト思フノデアリマス、且又處方箋ヲ無料デ出シタラドウカト云フコトニ關聯致シマシテモ、是亦御承知ノ通り、我國ニ於キマシテハ餘リ斯ウ云フ問題ニ對シテハツキリシテ、區別ガ國民ノ間ニナイノデアリマス、例ヘバ藥價ノ中ニ自然ト處方箋ノ料金モ入ッテ居ルト云フヤウナ風習デアリマスノデ、是等ノ風習ハヤハリ、一面ニ於テ考ヘナケレバナラスノデアリマスカラ、此國民健康保險組合ノ制度ニ於キマシテモ、ヤハリ大體ニ於テハ現在行ハレテ居ル風習ニ從ハセルヤウニシタイ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス

ソレカラ第二ハ、國民健康保險組合ニ於テハ、專屬ノ醫師ヲ置クカ、或ハ從來ノ開業醫ニ診療セシムルカドウカ、斯ウ云フ御尋ト伺ヒマシタ、是ハ法文ニ掲ゲテアリマサヤウニ、大體ニ於テ組合ノ自治ニ委シテ居ル次第デアリマスガ、實際ニ於キマシテハ、成ベク廣キ範圍ニ於ケル醫者ニ掛ラセルト云フコトガ、組合員ノ便利ト考ヘマサルノデ、成ルベク廣キ範圍ノ醫者ニ掛ラセルヤウニ致シタイト思ヒマス、專屬ノ醫者ヲ置キマスルノハ、隨テ特別ノ場合、斯ウ云フコトニナルノデアラウト云フ風ニ考ヘ

第三ノ團體契約ノ問題デアリマスガ、是亦大體ニ於テ組合ノ自治ニ委セル積リデアリマスガ、併シ土地ノ狀況、竝ニ諸般ノ狀況ヲ顧ミマシテ、サウ云フ風ナ或ル地方ノ醫者ノ團體ト約束スル方ガ、便利ナ場合ガ多アルト思フノデアリマス、隨ヒマシテ斯ウ云フ場合ニハ、サウ云フ風ニ仕向ケルコトモ必要デハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘマス
第四ニ此制度ヲ布イタ場合ニハ、醫師、藥劑師、賣藥業者等ノ失業問題ヲ生ズルコトガナイカ、斯ウ云フ御尋デアリマシタ、所謂成ベク國民ノ今マデ醫者ニモ掛リ得ナカタヤウナ人々、即チ農漁山村ノ比較的困ッテ居ル人々、竝ニ都市ニ於ケル中小商工業者ト云フ者ヲ目途ニ致シテ居リマシテ、サウ云フ人々ガ若干ノ掛金ヲシテ、平素カラ多少ノ準備ヲシテ、何時デモ病氣ニナツタ時、醫者ニ掛リ得ルト云フ仕組デアリマスカラ、從來ヨリ寧ロ所謂御醫者ニ掛ル病人ト云フ者ハ多クナル、病人ノ數ハ同ジデアリマシテモ、御醫者ニ診テ貰フ人ガ多クナルノデアリマスカラ、御醫者サンノ仕事ハ却テ殖エルデアラウ、斯ウ云フ風ニ私共ハ考ヘルノデアリマス

賣藥業者ノ問題ニ付キマシテハ、是ハ清水サンノ御意見ノヤウナ次第モアラウト思ヒマスガ、併シ是亦無理ヲ致サナイ積リデアリマシテ、從來賣藥業ト云フモノハ、我國ニ於テ相當發展シテ居ルノデアリマスカラ、急激ニ其業者ノ妨害ニナルヤウナコトハ成ベク致サセタクナイ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、隨ヒマシテ組合ニ於テ賣藥ヲ備ヘテ、組合員ニ配付スルト云フヤウナコトハ、サセナイ方ガ宜イヤウニ思フノデアリマス、デアリマスカラ從來ノ慣習ニ依ッテ、賣藥ヲ田舎ナドハ尊重サレテ居ルノデアリマスカラ、假令國民健康保險組合ガ出來マシテモヤハリマダ暫クノ間ハ、

此賣藥ノ需要ノ餘地ガアリマシテ、急激ニ此組合ノ成立ト共ニ無クナルコトハナカラウ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、唯社會ノ情勢ニ從ヒマシテ、世ノ中ハ段々進歩スルノデアリマスカラ、卑近ナ例ヲ申シマスト、例ハバ段々自動車ナリ、交通ガ發達シマスト、從來ノ人力車ト云フモノハ、自ラ何處カハ轉業スルト云フヤウナコトニナリマスノデ、ヤハリ是ハ賣藥業者ニ於カレマシテモ、此時勢ノ進運ニ顧ミマシテ、或ハ藥ノ品質ヲモット良クスルトカ、或ハ他ノ適當ナル方法デ、其需要ヲ喚起スルト云フ風ニ、ヤハリ社會ノ進歩ト共ニ、ソレノノ工夫ヲ凝サレシムコトヲ希望スルノデアリマス、唯國民健康保險組合ガ、一舉ニ日本全國ニ直グ行ハレルト云フコトハ、中々困難ナコトデアリマシテ、初メハ國家ガ固ヨリ補助ヲ致シマスルガ、豫算ニ於テ掲ゲマシタヤウニ、若干數ノ補助ヲ見込シテ居ルヤウナ位デアリマシテ、一舉ニ日本全國ニ此健康保險組合ガ普及スルト云フ譯ニモ行カスト思ヒマス、其間ニハ若干ノ年月ヲ要スルノデアリマスカラ、田舎ニ於キマシテモ急激ニ、此賣藥業者ト云フ者ガ直グ困ルト云フヤウナコトハ、私共ナカラウト云フ見込デアリマス

ソレカラ第六ニ、法案ノ第九條ノ規定ノ、所謂國民健康保險組合ニアラザル他ノ組合ト云フノハ、醫療組合ヲ指スノカ、或ハ其他ニアルノカト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ御示ノヤウニ醫療組合ヲ指スノデアリマシテ、其他ノ組合ヲ豫想シテ居ラヌノデアリマス、醫療利用組合ニ付キマシテ、第九條ヲ置ク趣旨ハ、從來醫療利用組合ハ可ナリアルガ、其中ニハ隨分成績ノ惡イモノガアル、赤字ノ隨分出テ居ルモノガアル、是等ヲ救済スル意味デハナイト云フヤウナ御尋デアリマシタガ、サウ云フコトハ決シテ致サス積リデアリマス、醫療利用組合ニ於キマシテモ、之ヲ國民健康保險組合ノ代

行トシテ認メマスルノハ、地方長官ニ於テ相當ノ審査検査ヲ致シマシテ、適當ナリト認ムルモノノミニ付テ、其代行ヲ認メマスノデアリマスルカラ、從來ノ醫療組合ガ全部第九條ニ依ッテ認メラレルト云フ趣旨デハナイノデアリマシテ、此點ニ付キマシテハ、相當十分ナル調査ヲ致シタイト思フ積リデアリマス

ソレカラ第七ノ將來所謂「サラリーマン」ニ關スル社會保險等ニ付テノ工夫ガアルカ、斯ウ云フ御尋デアリマスガ、從來御承知ノ通り工場礦山等ニ於キマスル労働者ノ健康ニ關スル保險ガ實行セラレテ居ルコトハ、御承知ノ通りデアリマシテ、或ハ船員ニ關スル保險、斯ウ云フヤウナモノガアリマスガ、尙ホ更ニヤハリ國民生活安定ノ一ツノ方法トシテ、將來益、斯ウ云フ方面ノ安定ノ方策トシテ、種々ナル社會保險ト云フモノガ行ハレナケレバナラヌト思ヒマス、是等ニ付キマシテ出來ルダケ調査研究ヲ重ネテ、其方面ニ向ヒタイト思フノデアリマス、之ヲ強制スルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、尙ホ其內容手段等ニ付キマシテ、モット十分ニ研究ヲ致シテ行キタイト思ヒマス

第八ニ醫師ト藥劑師トノ軋轢、其外醫療全般ニ對スル根本策、是等ヲ解決スル爲ニ官民兩者ヲ合セテ委員會等ヲ作ル意思アリヤ否ヤ、斯ウ云フ御尋デアリマスガ、是ハ醫師ト藥劑師トノ關係ハ、我國ニ於キマシテ醫療ノ關係ト云フモノハ、長年間ノ傳統ト習慣ガアルノデアリマシテ、是等ニ對シマシテ急激ナル變化ヲ與ヘルト云フコトハ、却テ社會上宜シクナイノデアリマスカラ、是等ノ根本問題ニ付キマシテハ、慎重ニ考究ヲ重ネル必要ガアルト思フノデアリマス

バナラスノデアリマスカラ、此處デ一寸直チニ御答申上ゲ兼ネルノデアリマス
尙ホ此際御斷リヲ申上ゲテ置キタイノハ、商工省ノ所管ニ付テノ御尋ガゴザイマシタガ、生憎商工省ノ大臣並ニ政府委員ハ、貴族院ニ於ケル豫算總會ニ出席致シテ居リマスルノデ、私ハ只今ノ御質問ノ趣旨ヲ能ク傳ヘマシテ、適當ノ機會ニ御答辯致サセルコトニ致シマス

○清水留三郎君 簡單デアリマスカラ……
○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス
○清水留三郎君 農林省ノ答辯ヲ願ヒマス
(政府委員小平權一君登壇)
○政府委員(小平權一君) 全購聯ノ關係ニ付テ御答致シマス、全國購聯組合聯合會ハ、藥ノ製造工場ヲ持ッテ居リマセヌノデ、藥劑師ヲ置キマシテ嚴重ナル監督ノ下ニ、他人ノ工場ニ於テ製造シタモノヲ受入レテ居ルノデアリマシテ、其實質ニ於テハ、全購聯ガ自ラ製造シテ居リマセヌ、此場合ニ御答致ス次第デアリマス、次ハ一括返上シタト云フコトニ付キマシテハ、最近各地方長官ヲ通ジテ調べマシタ所ガ、一二例ガアリマシテ、是ハ嚴重ニ左様ノ事ノナイヤウニ取締ッテ居ル次第デアリマス、尙ホ組合員外ニ取出來ナイコトデアリマシテハ、是ハ法令上リトスレバ、是ハ嚴重ニ取締ラナケレバナラヌノデアリマシテ、今後共員外ニ賣却スルコトハ、組合監督制度ノ完成ト相俟ッテ、嚴重ニ取締ル積リデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○清水留三郎君 簡單デアリマスカラ此席カラ御許シ願ヒマス
○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス
○清水留三郎君 只今ノ内務大臣ノ答辯ノ中ニ於テハ、私ノ質問ニ對スルハッキリシタ答辯ノナカッタ點モアリマス、又答辯全體ヲ見マスルト、此法案ニ付テ或ル勢力ニ壓迫セラレマシテ、段々改惡ニナリツ、ア

ルヤウナ傾向ガアルノデアリマス、故ニ何レ他ノ機會ニ於テ御同致シマスルガ、私ハ他ハ議論ニ互ル處モアリマスカラ、此程度デ私ノ質問ハ打止メマス
○議長(富田幸次郎君) 川島正次郎君
(川島正次郎君登壇)
○川島正次郎君 只今上程セラレマシタ國民健康保險案ニ關シマシテハ、現在ノ國內情勢ニ鑑ミマシテ、私共ハ法案ノ趣旨ニハ滿腔ノ贊意ヲ表スルモノデアリマス、併ナガラ本案ハ醫療施設ニ於ケル劃期的ノ事業デアリマシテ、運用ノ如何ニ依リマシテハ、我國ノ醫療界ニ一大革命ヲ來スベキ内容ヲ有スルノデアリマス、本案ノ内容ニ關シマシテハ、幾多ノ疑義ヲ持ッテ居ルノデアリマスルケレドモ、其中重要ナル點二三ニ付キマシテ、茲ニ政府當局ニ對シテ疑ヲ質シテ置キタイト存ズルノデアリマス

現在診療制度ノ狀態ヲ通觀致シマスルト、階級的ニ見テモ、亦之ヲ地方的ニ見テモ、偏在ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、疾病ニ罹リ或ハ負傷シナガラ、貧困ニシテ診療費ガナイガ爲ニ、醫療ヲ受クルコトヲ得ズシテ疾病ガ長引キ、或ハ死亡者ヲ出ス等ノ事柄ハ、幾多ノ事例ガアルノデアリマス、又一面地方的ニ之ヲ見マスルト、現在醫者ノナイ町村ガ千四百ニ達シテ居ルノデアリマスルカラシテ、實ニ日本全町村一万二千ノ三割ニナルノデアリマス、社會的ニ見テ醫療ガ偏在シテ居ルト云フコトハ、國民保健ノ立場カラ極メテ不合理デアリマシテ、此狀態ヲ矯正シヨウトスル本案ニ對シテハ、恐ラク反對スル所ハナイト考ヘルノデアリマスルガ、一體本案ハ何ヲ目標ニシテ居ルノカ、即チ醫療費ノ低減ヲ圖ルノガ其主タル目的デアアルカ、或ハ保險ノ形式ニ依ッテ醫療費負擔ノ方法ヲ改メルノガ其主タル目的デアアルカ、法案ヲ通ジテハ遺憾ナガラ判明ヲ致サナイノデアリマス、社會局ガ最近私共ニ配付シマシタ文書ニ依リマスル

最近私共ニ配付シマシタ文書ニ依リマスル

ト、組合カラ醫師ニ支拂フ料金ハ、其地方ニ於ケル實際ノ醫療料金ヲ參酌シテ、適當ニ之ヲ定メル方針デアリ、不當ニ之ヲ値切ルヤウナコトハアリ得ナイ、當局トシテモ醫療料金及ビ診療内容ニ關シテハ、嚴重ニ組合ヲ指導監督スル方針デアルト、斯様ニアル所ヲ見マスルト、法案ノ目的ハ、醫療費ノ低減ト云フコトヲ全然除外ヲ致シテ居ルノガモ知レマセヌガ、凡ソ斯様ナ社會立法ニ於テ、醫療費ノ低減ヲ圖ラヌト云フコトハ、アリ得ベカラザルコトダト信ズルノデアリマス、恐ラク内務當局當初ノ御考ハ、本案ノ目的ヲ達スルノニ於テ、醫療費ノ低減ヲ企圖致シタニ違ヒナイノダト思フノデアリマスガ、其後醫師會方面其他ノ反對ニ遭ヒマシテ、急遽態度ヲ改メテ、本案ハ決シテ醫療費ノ低減ヲ圖ルモノデハナイト云フコトニシタノデハナイカト考ヘラレ

額二十三錢、年額二圓七十六錢、之ニ補助金並ニ寄附金ヲ加ヘテ、一年一人當リノ保險給付額ハ四圓三十二錢ヲ見込シテ居ルノデアリマス、ソコデ實際保險料給付額トノ差ハ一圓五十六錢デアリマシテ、之ヲ補助金又ハ寄附金ニ依ツテ仰グ譯デアリマスルガ、既ニ一人當リ一圓五十六錢ノ補助金必要トシテ、而モ一箇年ノ給付額ハ僅ニ四圓三十二錢ニ過ギナイ、内務省社會局ハ、全國農民ノ一箇年當リニ支拂フ金額ハ一戸當リ二十五圓、一人當リ五圓ナリト發表シテ居ル、然ルニ拘ラズ模範的醫療利用組合ナリトシテ居ル所ノ越ヶ谷順正會ノ内容ハ、補助金ヲ加ヘテモ四圓三十二錢ニ過ギナイ、是デ果シテ完全ナル醫療ガ行ハレルヤ否ヤ疑ヒナキヲ得ナイノデアリマス、ソコデ私ハ當局ニ御伺シタイノハ、本案ハ大體一人當リ一圓ノ補助ヲ見込シテ居ルノデアリマスケレドモ、斯ノ如キ少額ノ補助金デ本案ノ目的ヲ達成シ得ルノカドウカ、一方ニ於テ内務省デハ決シテ醫療費ノ低減ヲ目的トシテ居ルノデハナイカラシテ、現在ノ醫師ハ迷惑ヲ掛ケナイト云フコトヲ見テ居ルノデアリマスケラシテ、社會政策上ノ見地カラ言ヘバ、相當多額ノ補助金ヲ出シテ、此事業ヲ達成スベキ筈トス様ニ考ヘラレルノデス(拍手)

元來國民健康保險法ハ數年間ニ互ル國民ノ要望デアリマシタガ、常ニ政府ノ容ル、所トナラナイ、然ルニ幸ニモ前内閣當時郵便利子ノ値下ヲ致シマシテ、其對象トシテ本案、其他若干ノ社會事業ノ擴張ヲ致スコトニ相成ツノデアリマスルガ、國民健康ノ増進ハ廣義國防カラ申上デレバ極メテ重大デアリ、且ツ密接ノ關係ガアルノデアリマシテ、郵便貯金利下ノ影響ニ依ツテ本案ヲ提出シタガ如キハ、全ク政府ニ熱ガナイト言ハナケレバナラス、國防費ノ一部ヲ割イテモ、巨額ノ軍事費ノ一部ヲ割イテモ、本案ノ如キハ速ニ提出スベキモノデアリ、且ツ相當ノ補助金ヲ出スベキモノダ、斯様ニ考ヘルノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハドウ御考ニナツテ居ルノカ、之ヲ聽キタイノデアリマス、醫療費ノ低減ヲ圖ルノガ目的デアリトシテ、然ラバ保險ノ形式ニ依ツテ醫療費負擔ノ方法ヲ改メルノガ主タル目的ダト考ヘタ場合ニ於テ、當然掛金ハ資産ノ割合ニ依ツテ違フノデアリマセウカラ、金持階級ノ者ハ本組合ニ加入スルコトヲ喜バナイ、又加入スル必要モナイノデアルカラ、之ヲ除外スルヤウナ結果ニナツテ來ル、逆ニ極メテ貧困階級デアアルガ、而モ救護法ノ適用ハ受ケラレナイト云フ人ハドウナルカト申上ゲマスルト、加入シタクテモ掛金ガナイカラ加入シ得ナイ、假令加入ヲ致シテモ未納掛金ガ多クナツテ、組合ノ發達ハ阻碍サレト云フ結果ニ相成ルノデアツテ、結局運用ヲ誤レバ、本案ハ極メテ少數ノ人々ノ機關ニシカ過ギナイ、多數ノ救フベキ人ヲ救ヒ得ナイト云フコトニ相成ルノデアリマスガ、之ニ對シテ當局ハドウ御考ニナツテ居ルカト云フコトヲ御聽キ致シタイノデアリマス、私共ノ考ヨリ致シマシレバ、寧ロ英國、獨逸ニ行ハレル如ク、強制加入ノ制度ヲ設ケテ、國民齊シク健康保險組合ニ加入ヲシ、以テ國民一般ノ健康ノ増進ニ資スベキダト、斯様ニ考ヘルノデアリマス、之ニ對スル内務大臣ノ御考ヲ承ツテ置キマス

健上憂フベキ影響ヲ生ズル惧レアリト斯様ニアリマスシ、又之ニ反シテ全國農村產業組合協會ナルモノカラ配付サレタ文書ヲ見マスルト「一町村ヲ區域單位トシテ組織サレル國民健康保險組合ハ、醫師會ト團體契約ヲ強制サレル時ハ、政治的ニモ相當勢力ヲ有スル開業醫師團ニ、其生殺與奪ノ權ヲ握ラレ、隨テ醫療費ノ引上必然トナリ、延イテ保險料ノ増嵩ヲ來シ、結局國民健康保險組合ハ開業醫師ノ農民搾取機關トナリ終ル處アリ」斯様ニアリマシテ、全ク對立相反シタル考ヲ持ツテ居ルノデアリマスガ、私共ノ考ヘマスノニ、此健康保險組合ト云フモノハ、運用宜シキヲ得レバ、將來非常ナル勢力ヲ以テ國內ニ發展スル將來性ト可能性ノアル施設デアリマス、中産階級以下ノ大部分ノ人ノ網羅スベキ又必要ナル施設デモアルノデアリマス、隨テ此組合ノ保險醫タルモノハ、醫師全體ガ之ニ加入スベキ必要アリトス様ニ信ズル、若シモ組合ガ個々ノ醫師ヲ選リ得ルト云フコトニ相成レバ、組合醫師ヲラントシテ、ソコニ幾多ノ競争ガ起ツテ來テ、結局ハ惡醫ハ良醫ヲ排斥スルト云フ結果ニナツテ優良ニシテ居書ノアルヤウナ醫師ハ、結局組合ニハ居ナクナルト云フ結果ヲ持來タス虞ガアルノデアリマス、有名ナ醫師、優良ナ醫師ト云フモノハ、金持階級ノ所有物トナツテ、不良ナル醫師ノミガ健康組合醫トナルト云フ虞ガアルト云フコトハ、幾多ノ外國ニ例ガアルノデアツテ、現ニ外國ニ於テ隨意ニ契約シ得ルト云フ國ニ於テハ、學校卒業シタデノ女醫ノミガ組合ノ保險醫デアルト云フ實例サヘアルノデアリマスルカラシテ、私ハ醫師全體ヲ總動員シテ、優良ナル醫師ヲ選サナイヤウニスルコトガ、此法案ノ目的ヲ達成サセル必要ナ要件デアルト、斯様ニ考ヘルノデアリマスルガ、之ニ對シテ政府ハ如何ニ御考ナサレルノデアリマスルカ、之ヲ御伺致シタイノデアリマス、更ニ御伺致シタイノハ、本法第九條ニ依ッ

ト、組合カラ醫師ニ支拂フ料金ハ、其地方ニ於ケル實際ノ醫療料金ヲ參酌シテ、適當ニ之ヲ定メル方針デアリ、不當ニ之ヲ値切ルヤウナコトハアリ得ナイ、當局トシテモ醫療料金及ビ診療内容ニ關シテハ、嚴重ニ組合ヲ指導監督スル方針デアルト、斯様ニアル所ヲ見マスルト、法案ノ目的ハ、醫療費ノ低減ト云フコトヲ全然除外ヲ致シテ居ルノガモ知レマセヌガ、凡ソ斯様ナ社會立法ニ於テ、醫療費ノ低減ヲ圖ラヌト云フコトハ、アリ得ベカラザルコトダト信ズルノデアリマス、恐ラク内務當局當初ノ御考ハ、本案ノ目的ヲ達スルノニ於テ、醫療費ノ低減ヲ企圖致シタニ違ヒナイノダト思フノデアリマスガ、其後醫師會方面其他ノ反對ニ遭ヒマシテ、急遽態度ヲ改メテ、本案ハ決シテ醫療費ノ低減ヲ圖ルモノデハナイト云フコトニシタノデハナイカト考ヘラレ

額二十三錢、年額二圓七十六錢、之ニ補助金並ニ寄附金ヲ加ヘテ、一年一人當リノ保險給付額ハ四圓三十二錢ヲ見込シテ居ルノデアリマス、ソコデ實際保險料給付額トノ差ハ一圓五十六錢デアリマシテ、之ヲ補助金又ハ寄附金ニ依ツテ仰グ譯デアリマスルガ、既ニ一人當リ一圓五十六錢ノ補助金必要トシテ、而モ一箇年ノ給付額ハ僅ニ四圓三十二錢ニ過ギナイ、内務省社會局ハ、全國農民ノ一箇年當リニ支拂フ金額ハ一戸當リ二十五圓、一人當リ五圓ナリト發表シテ居ル、然ルニ拘ラズ模範的醫療利用組合ナリトシテ居ル所ノ越ヶ谷順正會ノ内容ハ、補助金ヲ加ヘテモ四圓三十二錢ニ過ギナイ、是デ果シテ完全ナル醫療ガ行ハレルヤ否ヤ疑ヒナキヲ得ナイノデアリマス、ソコデ私ハ當局ニ御伺シタイノハ、本案ハ大體一人當リ一圓ノ補助ヲ見込シテ居ルノデアリマスケレドモ、斯ノ如キ少額ノ補助金デ本案ノ目的ヲ達成シ得ルノカドウカ、一方ニ於テ内務省デハ決シテ醫療費ノ低減ヲ目的トシテ居ルノデハナイカラシテ、現在ノ醫師ハ迷惑ヲ掛ケナイト云フコトヲ見テ居ルノデアリマスケラシテ、社會政策上ノ見地カラ言ヘバ、相當多額ノ補助金ヲ出シテ、此事業ヲ達成スベキ筈トス様ニ考ヘラレルノデス(拍手)

元來國民健康保險法ハ數年間ニ互ル國民ノ要望デアリマシタガ、常ニ政府ノ容ル、所トナラナイ、然ルニ幸ニモ前内閣當時郵便利子ノ値下ヲ致シマシテ、其對象トシテ本案、其他若干ノ社會事業ノ擴張ヲ致スコトニ相成ツノデアリマスルガ、國民健康ノ増進ハ廣義國防カラ申上デレバ極メテ重大デアリ、且ツ密接ノ關係ガアルノデアリマシテ、郵便貯金利下ノ影響ニ依ツテ本案ヲ提出シタガ如キハ、全ク政府ニ熱ガナイト言ハナケレバナラス、國防費ノ一部ヲ割イテモ、巨額ノ軍事費ノ一部ヲ割イテモ、本案ノ如キハ速ニ提出スベキモノデアリ、且ツ相當ノ補助金ヲ出スベキモノダ、斯様ニ考ヘルノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハドウ御考ニナツテ居ルノカ、之ヲ聽キタイノデアリマス、醫療費ノ低減ヲ圖ルノガ目的デアリトシテ、然ラバ保險ノ形式ニ依ツテ醫療費負擔ノ方法ヲ改メルノガ主タル目的ダト考ヘタ場合ニ於テ、當然掛金ハ資産ノ割合ニ依ツテ違フノデアリマセウカラ、金持階級ノ者ハ本組合ニ加入スルコトヲ喜バナイ、又加入スル必要モナイノデアルカラ、之ヲ除外スルヤウナ結果ニナツテ來ル、逆ニ極メテ貧困階級デアアルガ、而モ救護法ノ適用ハ受ケラレナイト云フ人ハドウナルカト申上ゲマスルト、加入シタクテモ掛金ガナイカラ加入シ得ナイ、假令加入ヲ致シテモ未納掛金ガ多クナツテ、組合ノ發達ハ阻碍サレト云フ結果ニ相成ルノデアツテ、結局運用ヲ誤レバ、本案ハ極メテ少數ノ人々ノ機關ニシカ過ギナイ、多數ノ救フベキ人ヲ救ヒ得ナイト云フコトニ相成ルノデアリマスガ、之ニ對シテ當局ハドウ御考ニナツテ居ルカト云フコトヲ御聽キ致シタイノデアリマス、私共ノ考ヨリ致シマシレバ、寧ロ英國、獨逸ニ行ハレル如ク、強制加入ノ制度ヲ設ケテ、國民齊シク健康保險組合ニ加入ヲシ、以テ國民一般ノ健康ノ増進ニ資スベキダト、斯様ニ考ヘルノデアリマス、之ニ對スル内務大臣ノ御考ヲ承ツテ置キマス

健上憂フベキ影響ヲ生ズル惧レアリト斯様ニアリマスシ、又之ニ反シテ全國農村產業組合協會ナルモノカラ配付サレタ文書ヲ見マスルト「一町村ヲ區域單位トシテ組織サレル國民健康保險組合ハ、醫師會ト團體契約ヲ強制サレル時ハ、政治的ニモ相當勢力ヲ有スル開業醫師團ニ、其生殺與奪ノ權ヲ握ラレ、隨テ醫療費ノ引上必然トナリ、延イテ保險料ノ増嵩ヲ來シ、結局國民健康保險組合ハ開業醫師ノ農民搾取機關トナリ終ル處アリ」斯様ニアリマシテ、全ク對立相反シタル考ヲ持ツテ居ルノデアリマスガ、私共ノ考ヘマスノニ、此健康保險組合ト云フモノハ、運用宜シキヲ得レバ、將來非常ナル勢力ヲ以テ國內ニ發展スル將來性ト可能性ノアル施設デアリマス、中産階級以下ノ大部分ノ人ノ網羅スベキ又必要ナル施設デモアルノデアリマス、隨テ此組合ノ保險醫タルモノハ、醫師全體ガ之ニ加入スベキ必要アリトス様ニ信ズル、若シモ組合ガ個々ノ醫師ヲ選リ得ルト云フコトニ相成レバ、組合醫師ヲラントシテ、ソコニ幾多ノ競争ガ起ツテ來テ、結局ハ惡醫ハ良醫ヲ排斥スルト云フ結果ニナツテ優良ニシテ居書ノアルヤウナ醫師ハ、結局組合ニハ居ナクナルト云フ結果ヲ持來タス虞ガアルノデアリマス、有名ナ醫師、優良ナ醫師ト云フモノハ、金持階級ノ所有物トナツテ、不良ナル醫師ノミガ健康組合醫トナルト云フ虞ガアルト云フコトハ、幾多ノ外國ニ例ガアルノデアツテ、現ニ外國ニ於テ隨意ニ契約シ得ルト云フ國ニ於テハ、學校卒業シタデノ女醫ノミガ組合ノ保險醫デアルト云フ實例サヘアルノデアリマスルカラシテ、私ハ醫師全體ヲ總動員シテ、優良ナル醫師ヲ選サナイヤウニスルコトガ、此法案ノ目的ヲ達成サセル必要ナ要件デアルト、斯様ニ考ヘルノデアリマスルガ、之ニ對シテ政府ハ如何ニ御考ナサレルノデアリマスルカ、之ヲ御伺致シタイノデアリマス、更ニ御伺致シタイノハ、本法第九條ニ依ッ

テ作ラルベキ管ノ醫療利用組合ノ問題デア
リマス、是ハ只今内務大臣ノ御答辯ノ如ク、
産業組合ニ當ルノデアリマスルガ、元來
日本ノ産業組合ハ、明治三十三年制定ノ法
律ニ依テ作ラレテ居ルノデアッデ、當時澎
湃シテ襲ヒ來タ資本主義ノ波ニ、中小産
者ガ埋沒セラレントスルノ對シテ、都會
ノ中小商工業者、農村ノ自作小作農者ガ、
相倚リ相扶ケテ經濟ノ力ヲ得テ、資本主
義ニ對抗スルト云フ意味ニ於テ、産業組合
ガ出來タノデアリマス、其後資本主義ノ力
ガ伸ビレニ從ッデ

(議長退席、副議長著席)

一地方ノ産業組合ノミデハ、之ニ對抗スル
力足ラズトシテ縣聯、縣販聯、更ニ進シ
デハ全聯、全販聯、中央金庫等ノ組織ニ
マデ及ンダノデアリマシテ、現在ノ産業組
合中ニハ、甚シク不良デアッデ失敗ニ終ッ
居ルモノモアリマスルガ、併ナガラ趨勢ハ
益々盛ニナラウトシツ、アルノデアアル、而
モ今ヤ農村ヲ見マスルト、農村ノ政治、經濟、
生活ノ中心ガ産業團體ニ移ラウトシテ居ル
傾向ガアル、地方自治團體ガ殆ド國ノ委任
事務ニ忙殺サレテ、僅ニ小學校々合ノ新築、
維持管理程度以上ノ仕事ハナイノデアアル、
地方行政機構改革ノ根本ハ、如何ニシテ現
在ノ地方自治制度ノ機能ヲ發揮セシムルカ
ト云フコトニアルト私ハ信ズルノデアアリマ
スガ、斯様ナ見地カラ申上ゲテ、内務大臣
ハ適當ニ法令ヲ改正シテ、産業組合其他ノ
産業團體ヲ地方自治團體ノ統制下ニ置ク御
考ガアルカナイカ、先ヅ之ヲ御同致シタイ
ノデアリマス、産業組合ノ指導管理ハ今日
農林大臣ノ所管ニ屬シテ居リマスガ、過般
ノ豫算總會ニ於テ農林大臣ハ、今後大藏大
臣ニモ其一部ノ監督權ヲ分ケル積リダト、
斯様ナ御答辯ガアリマシタ、併ナガラ大藏
大臣ノ管掌スル所ハ、僅ニ中央金庫ニ關ス
ル金融關係ニ過ギナイノデアッデ、寧ロ今日
ノ産業組合ト云フモノハ、農林大臣ヨリモ

全面的ニ内務大臣ノ監督ヲ必要トスル事態
ニ立至ッテ居ルノデアリマス、何故ニ内務大
臣ハ産業組合ニ對シテ積極ニ監督スル御
考ヲ持タナイノカドウカ、之ヲ御同致シタ
イノデアリマス

更ニ御同致シタイノハ、内務省ノ御發表
ニ依リマス、假令第九條ノ規定ガアッタ
シテモ、醫療利用組合ト云フモノハ、サウ
餘計出來ルモノデハナイ、醫療利用組合ニ
事業ノ代行ヲ認メル場合ニハ、町村民ノ殆
ド全部ヲ包含シタ組合デアッデ、而モ其基礎
ガ鞏固デ圓滑ニ經營サレテ居ルモノニ限ル、
斯様ニ仰セニナッテ居ルノデアリマスガ、現在
アル二百近クノ醫療利用組合ノ中、果シテ此
意見ニ當ル組合ガ幾ツアルノカ、極メテ
少數ナリト私ハ信ズルノデアリマス、然レモ
拘ラズ内務省ハ更ニ醫療利用組合ガアル上
ニ、其同ジ町村ニ國民健康保險組合ヲ設置
スルト云フコトハ、組合ノ範圍モ構成員モ
全ク重複シタ組合ガ二重ニ設立セラレルコ
トニナルノデア、此場合ニハ同ジ町村内ニ重
複シタ組合ヲ設立スルコトヲ避ケテ、醫療
利用組合ニ事業ノ代行ヲ認メル必要ガアル
ト、斯様ニ仰セニナッテ居リマスクレドモ、
僅カ少數ノ組合ノ爲ニ、態、第九條ヲ設ケテ
本案ヲ紛糾ノ渦中ニ投ズルヨリモ、第九條ヲ
削除サレテ、從來アル所ノ醫療利用組合ヲ
新シク出來ル所ノ國民健康保險組合ニ變更
セシメタラ如何デアアルカ、此點ニ付内務
大臣ノ明確ナル御考ヲ承リタイと思フノデア
アリマス、世上傳フル所ニ依レバ、産業組
合ハ此第九條ヲ武器トシテ、將來産業組合
ノ發達ヲ圖ルノダトサヘ言ハレテ居ルノデア
アリマシテ、斯様ナ疑惑ヲ避ケル上カラ言ッ
テモ、第九條ノ如キハ速ニ削除スベキモノ
ナリ、斯様ニ考ヘルノデアリマスガ、此點
ニ對スル内務大臣ノ御考ヲ承ッテ置キマス
(拍手)

○國務大臣(河原田稼吉君) 只今川島サン

カラノ御尋ニ對シマシテ、段々ト御答ヲ申
上ゲタイと思ヒマス、第一ハ、國民健康保
險組合ハ醫療費ノ輕減ガ目的デアルノカ、
何ガ目的デアルノカ、斯ウ云フ御尋デアリ
マシタ、是ハ私ガ事新シク言フ迄モナク、
結局所謂從來醫者ニ掛ルコトガ非常ニ困難デ
アツタカ、又ハ出來ナカッタ氣ノ毒ナ人々
ヲシテ醫療ノ機會ヲ得セシムル、斯ウ云フ
コトガ一番ノ本旨と思フノデアリマス、私
ガ申上ゲル迄モナク、一番人生ニ於テ悲惨
ナ思フスルノハ何デアアルカト云フト、病氣
ニナツタ場合デアリマシテ、其時ヲ考ヘルト
云フト、實ニ暗澹タル心持ニナルと思フノ
デアリマス、幸ニシテ其際ニ十分ニ醫者ニ
掛レル人デアリマシタナラバ心配ハアリマ
セヌガ、實際其時ニナッデ醫者ニ對スル藥
代モ拂ヘナイ、或ハ診察モ受ケラレヌト云
フヤウナコトヲ考ヘタ場合ニハ、實ニ人生
ト云フモノハ悲慘極リナイモノと思フノデア
アリマス、サウ云フ場合ニソレハ、平素カ
ラ少シヅ、ノ積立ヲシテ、如何ナル場合ニ
若シ病氣ニナリマシテモ、ソレハ適當ナ
醫者ニ掛レルト云フコトデアリマスナラバ、
是ハ實ニ人生ニ於テ光明ヲ見得ルヤウナ生
活ガ出來ル、斯ウ云フ風ニ思フノデアアリマ
シテ、先ヅ第一ニヤハリ醫者ニ掛レル機會
ヲ多クサセル、醫者ニ對スル診療ノ機會ヲ
成ベク與ヘシムルヤウナ制度ヲ國家ガ考ヘ
ルコトガ、一番ノ骨子ト思フノデアリマス、
更ニ徹底致シマスレバ、所謂醫藥國營マデ
進ンデ、國家ガ總テ病人ノ診療ヲシテヤル
ト云フコトニナレバ、是ハ一番理想ガモ知
レマセヌガ、是ハ中々國家トシテ其費用ニ
堪ヘヌコトガ、今一ツハ餘リ國家ガ仕事ヤル
ト云フコトガ、各人ノ自營獨立ト云フコト
ヲ阻礙スルカラ、ヤハリ保險制度ガ最も適
當ノヤウニ思フノデアリマス、隨テ唯醫藥
費ノ輕減、醫療費ノ輕減ト云フコトバカリ
ヲ考ヘマスレバ、自然ト療治診療ノ低下ヲ
來スノデアリマスカラ、唯徒ニ醫療費ノ輕

減ト云フコトバカリヲ目的ニスル譯ニモ行
カナイ、根本ノ趣旨ハ、先程モ申上ゲマシ
タヤウニ、出來ルダケ如何ナル人デモ、病
氣ニナツタ場合ニ診療ノ機會ヲ得セシムル
ト云フコトガ、此聖代ニ於テ最も必要デア
ラウ、斯ウ云フ趣旨カラ來テ居ルノデアリ
マス、尙ホ醫療費ノ輕減モヤハリ行ハレル
ノデアリマシテ、所謂無理ナコトヲ醫者ト
御相談セヌデモ、一方ニ於キマシテ國庫カ
ラソレハ、若干ヅ、ノ補助ヲ致スノデアリ
マスカラ、其點ニ於キマシテ各個人ノ負擔
ハ輕減セラレルト思フノデアリマス、而モ
尙ホ保險ノ方法ニ依リマスルト、一時ニ藥
代或ハ診察料ヲ拂ハヌデモ、毎月若干ヅツ
納メテ居ッデ、病氣ノ時ニハ強ヒテ其金ヲ出
サヌデモ濟ムノデアリマスカラ、餘程氣ガ
樂ニ生活ガ出來ルノデアリマス

第二ニソレニ關聯シマシテ、健康保險組
合ニ加入スル者ハ自然弱者バカリルカ
ラシテ、總テ醫療費等ガ嵩ムデハナイカ、
斯ウ云フ御尋デアリマシタガ、是ハ法文ニ
モアリマスヤウニ、大體ニ於テ國民健康保
險組合ガ發達致シマスレバ、自然ト一町村
内ノ大抵ノ人ガ入ルヤウニナルヤウニ豫想
セラレルノデアリマス、殊ニ法文ニ於キマ
シテモ、三分ノ二以上ノ加入者ガアリマス
場合ニハ、場合ニ依リマシテ全町村民ノ加
入ヲ強制スルコトガ出來ルト、斯ウ云フコ
トニナツテ居ルノデアリマス、尙ホ補助ガ少
イデヤナイカト、斯ウ云フ御意見デアリマ
シタガ、是ハ多クバ多イ程結構デアリマ
セウガ、一面ニ於キマシテ、ヤハリ國家ノ
財政ノコトモ考ヘナケレバナリマセヌカラ、
當分先ヅ此程度満足スルヨリ仕方ガナイ
ト、斯様ニ思フノデアリマス、ソレカラ金
持ノ階級ハ本組合ニ加入ヲ喜バナイト云フ
ヤウナコトガアッデ、結局ハ中途半端ナ人バ
カリデヤナイカ、斯ウ云フ御意見ノヤウデ
アリマシタガ、是ハ先程清水サンカラモ御
尋ガアリマシテ、私ハ一寸御答漏レヲ致シ

タノデアリマスガ、實ハ本法制定ノ際ニ社會保險ノ調査會等ニ於キマシテモ、所謂國民健康保險組合ト云フモノハ、大體ニ於テ中産以下ノ人ヲ網羅スルモノデアリカラ、裕福ナ人ヲ入レルノハラカシイデヤナイカト云フヤウナ御論議モアツタノデアリマシガ、我國ノ美風ト致シマシテ、或村、或町ニ於キマシテ、所謂此一致團結ノ外國ト違タ個人主義デナク、隣保互助ノ思想ガ發達シテ居ルノデアリマスルカラ、ヤハリ斯ウ云フ風ナ人モ入ルコトハ宜イデヤナイカ、隨ヒマシテ此診療費ノ負擔ニ於キマシテハ、若干ノ差等ヲ付ケル、斯ウ云フ風ナコトニシテ、ヤハリサウ云フ風ナ樂ナ裕福ナ人モ入ル方適當デアラウ、斯ウ云フコトニナツテ、其入ルノ加入ノ制限ヲ規定シナカッタ次第デアリマスガ、是ガ却テ組合ノ事務ノ遂行ニ於テ圓滿性ヲ保チ得ル、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス

第三ニ組合ハ個々ノ醫者ト契約スルカ、或ハ醫師會ト契約スルカ、之ニ對シテハハキリシタ規定ガナイデヤナイカ、斯ウ云フ御尋ト拜承シマシタガ、仰セニナリマシタヤウニ、法文ノ上ニ於テ何等ノ規定ヲ設ケテ居ラスノデアリマス、大體ニ於テ組合ノ自治的行動ニ委シテ居ルノデアリマスガ、併ナガラ一方ニ於キマシテハ、組合員タル者ハ成ベク廣ク種々ナル御醫者ニ掛リ得ル機會ヲ與ヘナケレバナラスノデアリマスカデ、例ヘバ組合員ノ中ニハ、或ハ外科ノ病人モアリマセウシ、或ハ胃腸病ノ病人モアリマセウ、尙ホ呼吸器ノ病人モアルト云フ譯デアリマシテ、是ガ設備ガ完全シテ居ル場合ニ於テハ兎モ角デアリマスガ、然ラザル場合ニ於テ、唯診療ニ於テ、醫者一人ト云フヨリモ、成ベク診療ノ各種ノ廣イ範圍ニ於ケル御醫者ノ診療ヲ受ケシムルコトガ適當ト考ヘマスノデ、サウ云フ風ニ致サセル積リデアリマスカラ、實際ニ於テハ多クハ廣イ醫者ノ團體ト話合ヒラ付ケルト云フ

コトガ多クナリハセヌカト思フノデアリマス、是ハ今日ノ我國ノ實情ニ於キマシテ、是等ヲ法文ヲ強制セズ、適當ナ措置ニ委スト云フコトガ、最モ時宜ヲ得テ居ルヤウニ思フノデアリマス、現在工場鑛山等ニ於キマスル勞働者ヲ網羅シテ居リマスル健康保險組合ノ制度ニ於キマシテモ、此點ニ付テハ何等ノ規定ヲ設ケテ居ラスノデアリマス、實際ノ運用ニ委シテ居ル次第デアリマス、是ハ私ガ申ス迄モナイコトデアリマスルガ、世ノ中ノコトハ皆右カ左カ、サウハキリ決メルコトガ出來ナイ、是ハヤハリ世ノ中ノ實情デアリマシテ、適當ニ其間ニ處置サレルコトガ、ヤハリ多クノ人ノ集マル社會ニ於テ適當ナコトデアルト思フノデアリマス

ハ現在醫療利用組合ニ於キマシテ、是ガ相當行ッテ居ルト云フヤウナモノハ、是ハ認メル方ガ實際ニ即スル、第九條ハ決シテ之ニ依ッテ醫療利用組合ヲ獎勵スルト云フ意味デハナイノデアリマス、大體ニ於テヤハリ國民健康保險組合ト云フモノヲ本旨トスルノデアリマス、サリナガラ相當ナ成績ヲ擧ゲ、相當行ッテ居ル組合ニ付キマシテハ、之ヲ認メナイデ、他ニ又更ニ健康保險組合ヲ、同ジヤウナ人ヲ以テ作ラシメルト云フ必要モナカラウ、デアリマスルカラ、現在醫療利用組合中ニ於キマシテ成績ガ良ク、又旨ク行ッテ居ル組合ハ、其代行ヲ認メルト云フコトガヤハリ適當デハナイカ、其數ニ於テハ澤山アリマセヌケレドモ、現在サウ云フ實況デアリマスルカラ、ヤハリ之ヲ認メテ置ク方ガ實際ニ適合スル、斯ウ云フ趣旨カラ來テ居ルノデアリマス

等ニ付キマシテハ御尤ナ點ガ多クアルヤウニ思ヒマスノデ、將來地方制度調査會等ニ於キマシテ、是等ノ點ハ十分研究スル必要アルカト思ヒマス

産業組合ヲ內務大臣ノ監督下ニ置ク意思ガアルカドウカ、斯ウ云フ點デアリマスガ、是ハ今日ノ所ハヤハリ農林大臣、若クハ或ル部分ニ付テ大藏大臣ト云フヤウナ監督下ニ置イテ先ヅノ宜カラウト、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス

ソレカラ第九條ノ醫療利用組合ニシテ、第九條ノ法文ニ當嵌マルモノハドノ位アルカト云フ御尋デアリマスガ、是ガ正確ナ數ハ一寸記憶致シマセヌガ、隨ニ二十以內位デアラウト、斯ウ云フ見込デアリマス、更ニ第九條ヲ武器トシテ産業組合ノ大發展、大活動ヲ圖ル意思ガアルノデヤナイカ、斯ウ云フ御尋デアリマスルガ、私ガ先程モ申述ベマシタヤウニ、第九條ハ即チ第九條デアツテ、現在ノ斯ウ云フモノダケハ認メテ行ク、斯ウ云フ趣旨デアリマスルガ、決シテ之ヲ手段トシテ醫療利用組合若クハ産業組合ノ活動ヲ後援スルト云フ意思デハナイコトヲ茲ニ申上ゲテ置キマス

（川島正次郎君登壇）

○川島正次郎君 只今ノ御答辯ニ對シマシテ、一二諒解シ得ナイ點ヲ御尋致シテ置キタイノデアリマスルガ、醫療利用組合ガアル上ニ、此法律ニ依ッテ更ニ國民健康保險組合ヲ設ケルコトハ二重ニナルカラ、ソレハ宜シクナイト云フヤウナ御説明デアリマシタガ、極メテ少數シカ全國ニ散在シテ居ラス醫療利用組合デアリマスルカラシテ、之ヲ産業組合ノ手カラ放シテ、新ニ成立サレル所ノ國民健康保險法ノ規定ニ依ッテ、事業ヲ遂行サセルヤウニシタラ如何デアアルカト云フヤウナコトモ私ハ考ヘテ居ル、私ノ質問ハ此處ニアツタノデアリマスルガ、內務大臣ノ答辯ハ、私ノ質問トハ違ツタコトヲ御答ニナツテ居ルノデアリマス、是ガ出來ルカ出

來ナイカ、出來ナイナラバ何故ニ出來ナイノデアアルカト云フコトヲ、御尋致シテ置キタイノデアリマス

モウ一點ハ、團體契約ノ問題デアリマスルケレドモ、個々ノ醫者ト契約スルト云フ規定デアツテモ、大體ハ其地方ノ醫師ノ團體ト契約スルヤウニナルガラウト、斯様ナ御意見デアリマシタケレドモ、內務省カラ御出シニナツテ居ル文書ヲ見テモ、適當ト認メラレル場合ニ於テハ獎勵スル積リダト、斯様ニアル、御精神ガソコニアルノナラバ、端的ニ之ヲ條文ノ上ニ何故ニ御現ハシニナラナイノデアアルカ、或ハ現在ノ健康保險法ノ運用ニ關シテ、政府ト日本醫師會トノ間ニ若干ノ紛糾ガアツテ、政府トシテハ醫師會ニ手古摺ツテ、ソコ今度ハ醫師會ニ權限ヲ與ヘナイ爲ニ、時ニハ醫師會ヲ抑ヘ付ケルコトガ出來ルヤウニ、此法案ヲ作ッタノダト、斯様ニ御考ニナルノデアアルカドウカ、此二點ヲ更ニ御伺シテ置キマス（拍手）

（國務大臣河原田稼吉君登壇）

○國務大臣（河原田稼吉君） 第九條ノ點ハ先程私ガ申述ベマシタヤウニ、現在相當ナ成績ヲ擧ゲテ居ルモノナラバ、之ヲヤハリ認メテ宜イデハナイカ、殊ニ國民健康保險組合ヲ作リマス場合ニ於キマシテモ、ヤハリ從來ノ醫療利用組合ノ組合員ト云フ者ガ其本體ヲ成シマシテ、醫療利用組合以外ニ於テ、又同ジヤウナ人カラ成立ッテ居ル國民健康保險組合ト云フモノヲ作ラナケレバナライト云フコトニナルノデアリマスカラ、斯ウ云フ成績ノ良ク、業績ノ擧ッテ居ルモノハ、マアノサウ云フ二重ノ手數ヲヤセラヌデモ差支ナイデハナイカ、斯ウ云フコトニ外ナラスノデアリマス

第二ノ醫師會ト團體契約ノ問題デアリマスガ、是ハ先程申シマシタコトガ、多少或ハ言葉ノ足りヌ爲ニ、或ハ御了解下サリ兼ネタ所ガアラウカト思ヒマスガ、私ハ斯ウ申上ゲタノデアリマス、組合ガ醫師トノ

契約ヲ爲ス場合ニ於テハ、是ハ法デ以テ強
制ヲセス、組合ノ自治ニ任セル、法ノ上デ

デアリマスカ、ソレヲ簡單ニ御答辯願ヒマス
〔國務大臣河原田稼吉君登壇〕

意ヲ得タルコトト存ジマス、我國國民ノ健康狀態ガ、産業ナリ或ハ經濟方面ニ及ボス

意味スルモノデアラウト存ジマスルガ、現在産業組合ニ此醫療機關ヲ代行セシムルト

ヘ……即チ個人ト契約ヲシヨウガ、或ハ團體ト契約ヲシヨウガ、法文ノ上ニハ自由ニナツテ居ル、而モ個人トノ契約ヲサセテ——サセル趣旨デアルガ、實際ニ於テハ團體トノ契約ヲ成ベク認メルト云フ趣旨、決シテ斯ウ云フ意味デハナイノデアリマシテ、法文ノ上ニ於テハ自由デアルガ、併シ實際ニ於テハ、私が先程申上ゲマシタヤウニ、又社會局カラ御説明致シマシタヤウニ、組合員ヲシテ廣イ範圍ノ醫師ニ掛ラセルコトガ適當デアリマスカラ、成ベク廣イ範圍ノ醫師トノ契約ヲ獎勵スルヤウニナラウト思ヒマス、是ハ社會局カラ申上ゲマシタコトト全ク同様デアリマス、然ラバ醫師ノ團體ト公然契約ヲシタナラバ宜イデハナイカ、斯ウ云フ御意見デアリマスガ、是ハ私共トシテハ大體ニ於テヤハリ組合トシテノ法文上ノ自治ト云フコトハ認メテ置クコトガ必要デアラウ、若シ是ガ絕對ニ醫師ノ團體トノ團體契約ヲシナケレバナラヌト云フコトニナリマス、非常ニ窮屈ニナツテ、却テ其運行动上ニ適當デナイ、或ハ場合ニ依ルト何等カ故障ヲ生ズルト云フヤウナコトモアラウト思ヒマスノデ、現ニ更ニ此國民健康保險組合ヨリカモット大キナ團體デアリマス所ノ所謂工場、鑛山ノ勞働者ヲ網羅シテ

○國務大臣(河原田稔吉君) 或ハ度々繰返
スヤウデ御耳觸リカトハ存ジマスルガ、結
局一方ニ於キマシテ醫療利用組合トシテ出
來テ居リマスルモノハ、恐ラク相當廣イ範
圍ノ村トカ町トカノ全員ヲ網羅シテ居ルモ
ノガ、成績ヲ良ク擧ゲテ居ルト思フノデア
リマス、ソレガ又國民健康保險組合ヲ作リ
マス、其内容ノ人ハ皆同ジデ、從來醫療
利用組合ノ組合員デアル人ガ、又國民健康
保險組合ノ組合員ニナル、斯ウ云フ風ナコ
トニナルノデアリマス、而モ其内容ハ違ヒ
マシテ、醫療利用組合ノ方ハ病氣ニナリマ
シタ時、其時ニ金ヲ出シテ診テ貰フト云フ
譯デアリマスガ、國民健康保險組合ノ方
ハ、平素カラ積立ッテ居ッテ、病氣ニナリ
シタ時ニ特別ニ金ヲ出スト云フ仕組デナイ
ノデアリマスカラ、更ニ二通りナモノヲ作
ルト云フコトハ、是ハ實際ノ運行上不便デ
アル、其二重ノ手間ヲヤラセル必要ハナイ
デハナイカ、唯第九條ト云フモノハ、決シ
テ醫療利用組合ヲ獎勵スルト云フ趣旨デハ
ナイノデアリマシテ、現在出來テ居ルモノ
ノ中、而モ良イモノハヤハリ認メテヤッタ
宜イデハナイカ、斯ウ云フ次第ニ外ナラヌ
ノデアリマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 青木亮貫君

力ノ多大ナルハ、今更議論ヲ俟チマセヌ、考ヘテ見マスルニ、世界各國ニ於キマシテハ、何レモ此保險法ガ制定サレマシテ、或ハ獨逸、佛蘭西、亞米利加、英吉利、伊太利等、何レモ著々トシテ其效果ヲ示シテ居リマス、而シテ日本ガ今ヤ此保險法ヲ制定サレマスルコトハ、遅キノ憾ミコソアリマサルガ、洵ニ遅クトモ出ナイヨリハマシダト存ジマス、併ナガラ我國ニハ往々外國ノ模倣ヲヤル癖ガアリマス、故ニ此制度ノ如キ日本獨特ノ考ニ於キマシテ、最モ日本ノ美風良俗ヲ觀念トシ、十分ノ研究ヲ要シテ提案サルル場合ニハ議論ハアリマセヌガ、一朝斯様ナ問題ニ誤リガアリマスルトスルナラバ、五万ノ開業醫、三百万ノ賣藥業者、乃至現在五千万ノ患者ト稱セラレテ居リマスルガ、是等死活ニ關スル重大ナル問題ト相成ルノデアリマス、諸君、私ハ斯様ナ見地カラ、此問題ガ如何ニ重要ナル問題デアールカト云フコトヲ必々ト考ヘズニハ居ラレマセヌ、然ルニ今回御出シニナリマシタ法案ノ内容ヲ窺ヒマスルニ、先ヅ第一當局ニ私ノ御尋シタイコトハ、何ガ故ニ斯様ナ問題ヲ御出シニナル以前ニ、我國ノ醫療ノ中心機關デアアルベキ醫師會ニ其内容ヲ提示セズ、藥劑師會ニ其内容ヲ提示セズ、乃至我

(拍手)ソレハ現在我國ノ醫療ハ、決シテ產組ガ今日ヤリツ、アルヤウナ診療機關ニ於テ、被保險者モ醫師モ總テ圓滿ニ仕事ガ遂行サレル筈ハアリマセス、現在產組ニ於テテ實施シテ居リマスル診療機關ノ内容ヲ檢討致シマスルト、驚クベキ間違ガ澤山出來テ居ルト存ジマス、恐ラクハ當局ニ於テハ其内容ヲ十分御存ジアルマイト思フガ、產組ノ診療機關ニ醫師ヲ招聘致シマスルガ、其醫師ガ一年トシテ續イテ診療所ニ勤務シテ居ル者ハナイノガ事實デアリマス、ソレハ何ガ故ニス斯ノ如ク醫者ガ產組ノ診療所ニ職ヲ盡スコトガ出來ナイノカト申シマスルト、例ヘハ先ヅ最初三百圓ノ俸給ヲ以テ醫師ヲ招聘スル、然ルニ愈、入所致シマスルト、其三百圓ノ俸給カラ百圓ハ組合ヘ寄附ヲシロト強要サレル、而シテ其診療所ハ經營ガ甚ダ貧弱デアリマスル結果、其醫師ハ思フヤウナ治療藥ヲ投ズルコトモ出來ズ、思フヤウナ治療モ施スコトガ出來ナイ、其結果ハ開業醫ニハ疎マレ、思フ通りノ仕事ハ出來ナイト云フ意味デ、一年ト醫者ハ其場所ニ續カナイノデアリマス、是ガ事實デス、或ハ最前列ヲ引カレマシタガ、順正會ノ如キハ洵ニ模範のダナドト當局ハ推獎サレテ居リマスル。

四五六

ヤ、開業醫師が暴利ヲ取ルノデハナクテ、暴利ニアラザル事情ヲモ暴利ト看做スコト程左様ニ日進月歩ノ醫術ハ高ク付クノデアリマス（拍手）併シ其高キ治療費ヲモ下級ノ清貧者ニ施サントスルニ付テ、此國民保險法ガ制定サレコトト致シマスレバ、産業組合ノ診療機關ハ、今や赤字ニ重スルニ赤字、氣息奄々タル状態デアリマス、左様ニ氣息奄々タル診療機關デドウシテ、此日新醫學ヲ思フ存分ニ治療ノ上ニ行フコトガ出來マセウカ（拍手）是ハ餘程御考ヲ願ハナケレバナラヌコトダト存ジマス、尙ホ若シ夫レ産組ニス様ニ總テヲ委託サル、ト相成リマスルト、恐ラクハ我國三百万ノ賣藥業者モ茲ニ大ナル脅威ヲ感ズルコトガアリマス、先般來産組ニ於テ賣藥ノ強制配置ト云フノヲヤツテ居リマス、恐ラクハ將來診療機關ヲ産組ニ代行セシムルコトト相成リマスレバ、組合自體ノ事業トシテ、恐ラクハ又モ賣藥ノ強制配置ヲモヤルダラウト存ジマス、斯様ナコトデ賣藥ノ強制配置ヲヤルヤウナコトガアリマスレバ、サナキダニ今日既ニ我國ノ三百年來ノ傳統ヲ續ケテ居リマスル賣藥配置業者ハ、現在産組ノ賣藥配置ノ爲ニ殆ド其生活資料ヲ奪ハレントシテ居ル今日、尙ホ此診療機關ヲ代行サレタト云フコトニカコツケテ、賣藥ノ配給ナンカラヤリマスルニ至ッテハ、茲ニ三百万ノ賣藥配置業者ハ全ク飢ニ臨ム以外ニハナイデアリマス、是モ社會立法ノ根柢ニ於テ大イニ頭ヲ費サネバナラヌコトデアッタト存ジマス

ガ思フ通りノ醫者ニ診テ貰ヘルト云フコト程結構ナコトハナイト存ジマス（ヒヤ〜）「拍手」若シモ或ル個人ニ契約ヲ致シマスルト、其契約サレタ醫者ガ、茲ニ外科専門ノ醫者デアッタト致シマスルト、内科ノ患者、婦人科ノ患者ハドウスルノデアリマセウ、若シモ團體契約デアリマスルナラバ、無論私ノ申ス團體トハ、必シモ日本醫師會ヲ指シタ團體トハ申シマセウ、或ハ縣醫師會、乃至ハ郡市醫師會デ宜イ、左様ナ團體ノ契約デアリマスレバ、團體員ニアラザル開業醫ハナイノデアリマスカラ、被保險者ハ己ノ欲スル好ム醫者ニ診テ貰フコトガ出來ルノデアリマス、斯様ナ意味カラ申シマシテモ、團體契約ト個人契約ト何レガ良イカ、何レガ惡イカト云フヤウナコトハ、火ヲ賭ヘルヨリモ明ナ所デアリマス（拍手）左様ニ考ヘマスルト、今回ノ此國民健康保險法ハ、根本的ニ出發點ヲ誤ッテ居リマス、而シテ其内容ニ於テ實ニ杜撰極マルモノガアリマス、故ニ斯様ナ杜撰ナ健康保險法ハ寧ろ御撤回ニナル御意思ガナイカ、撤回スルノ御意思ナキトセバ、第九條ヲ削除スルノ御意思ガナイカ、尙又此儘ト云フノデアレバ、何ガ故ニ團體契約ト個人契約ト何レカ是非ヲ御決メニナッテ、之ヲ法文化スルノ御勇氣ガナイカ、以上ヲ健康保險ノ問題デ御尋ラシタイト存ジマス、其詳細ニ至リマシテハ委員會等ノ席デ又御尋ラ致シマスルガ、大體ニ於テ斯様ナ御尋ニ向ッテ明快ナル御答ヲ願ヒタイト存ジマス

ノ改正法律案ト言ヘバ、御素人ダカラ結構トサヘ言ヘバ、直グサマ一定ノ場所ニ收容ノ出來ルモノダナゾト簡單ニ御考デアラウガ、中々結構ト云フモノハサウ簡單ニハ調ベラレス、元來結構患者ヲ一定ノ場所ニ收容隔離シヨウナント云フコトハ、實ニ途方モナイ御考ダト思フ、ソレハ現在日本ノ結構患者ノ療養所ノ收容力ガドレダケアリマスカ、現在ノ實際ノ結構患者ガドレダケアリマスカ、第一健康保險ノ法案ヲ御拵ヘニナルニ付テモ、結構ノ豫防法ノ改正案ヲ御立テニナルニ付テモ、第一番ニ我國ニ於ケル病勢調査ヲナゼ御行ヒニナラスカ、病勢調査ト云フモノヲ十分ニオヤリニナッテ、而シテ其罹病率ガドレダケアルカ、内結構患者ガドレダケアルカ、病勢調査ト云フモノヲオヤリニナッテ、ソレヲ調査ノ結果得タル成案ニ依ッテ、初メテ健康保險モ組立テラレ、バ、結構ノ豫防ノ改正案モ組立テラレ譯デアッテ、唯漫然ト結構ノ豫防改正案ヲ御出シニナッテ、ドウ云フ御考デアルカ、結構患者ト云フモノガ傳播スル爲ニト云フノデアレバ、結構患者ナリト傳播シナイノモアリ、傳染スルノモアリマス、ダカラ「レンダゲン」デヤツテ見テ、少シ此處ニ陰翳ガアッタトカ言ッテ、直グ結構療養所ニ收容サルコトハ出來マセウ、尙又結構ヲ一々醫者ガ届出ルト相成リマスレバ、患者ハ隨テ醫者ヲ忌避スル、恐ラクハ左様ナコトニナルト、慢性ノ病氣デアリマスルカラ、サナキダニ迷ヒ多キ我ガ國民、迷信多キ我ガ國民ハ、色々迷信ノ爲ニ兎ヤ角ト恐シキ病毒ヲ傳播セシムル虞ガアリマス、是等ニ向ッテ如何ナル御考デアルカ、是モ承テ置キタイ尙ホ最後ニ國民健康保險法ニ付テ、恐ラクハ内務大臣ノ十分ノ御考通りガ此法案ニ表示サレテ居ルカ、乃至社會局ノ當局ノ意思通りノ立法デアツカ、私ハ一抹ノ疑ヲ持ツノデアリマス、ソレハ社會局ノ當局ガ公開ノ席

デ斯様ニ言ッテ居ラレル、斯ウ云フ色々施設ノ從來ノヤリ方ヲ見マスと云フト、醫療組織ト云フ點ニ於テ極メテ排他的デアアルノデアリマシテ、一般開業醫ト云フモノニ對抗シテヤツテ行カウトシテ居ルヤウニ見エ、隨テ若シ斯ウ云フ施設ニ依ッテ、國民一般ノ醫療問題ヲ解決スルト云フコトニナルト、其醫療問題ヲ解決スルト同時ニ、今度ハ開業醫ノ生活問題ガ起ッテ來ルノデアリマス、私共ハ何トシテモ一般國民ノ醫療問題ヲ解決スルニ付テハ、開業醫制度ト云フモノノ十分調和スルモノデナケレバナラヌト考ヘマス、開業醫ヲ斥ケ開業醫ノ感ジテ害スルヤウナ制度デハ、實際國民ノ醫療問題ヲ解決スル譯ニハ參リマセウ、大體斯様ニ言ッテ居リマス、是ハ洵ニ實際ヲ言ハレタコトデ、此意向ニ依ッテ編成サレタ健康保險法デアラナラバ、イマ少シク私共ヲ首肯セシムル法案デアラネバナラヌト存ジマス、ルガ、是デ完全デアアルト思召サル、ナラバ、其意味ヲ責任ヲ持ッテ御説明ガ願ヒタイト存ジマス、以上ヲ以テ私ノ質問ト致シマス

（國務大臣河原田稼吉君登壇）

○國務大臣（河原田稼吉君） 青木サノ第一點ノ御尋ハ、本法制定ニ當ッテ醫師會トカ、或ハ齒科醫師會等ニ諮問シナイト云フコトハ不都合デヤナイカ、斯ウ云フ御意見デアリマシタガ、是ハ本法制定ニ當リマシテハ、社會保險調查會ト云フ内務省ニ種々ナル權威ヲ網羅シタ委員會ガアリマシテ、之ニ諮問致シタノデアリマス、而シテ其委員會ノ中ニハ、日本醫師會長ノ北島博士、日本齒科醫師會長、日本藥劑師會長等ヲ網羅シテ居ルノデアリマス、其外社會問題ノ權威者其他ヲ網羅シタ、我國ニ於キマスル此問題ニ關スル權威ヲ悉ク網羅シテ居ルノデアリマス、而シテ此中ニ先程申シマシタヤウニ、日本醫師會長、日本齒科醫師會長、日本藥劑師會長ヲ網羅シテアルノデアリマスカラ、原案ノ趣旨並ニ此法律ノ成立ノ經

過ト云フヤウナモノハ、十分御承知ノコト
ト諒承シテ宜カラウト、斯ウ云フ風ニ思ッテ
居リマス

ソレカラ醫療ヲ掌ル開業醫ヲシテ摩擦ヲ
深カラシムルヤウナコトハイカスデハナイ
カ、第九條ノ法文ニ關係シテノ御意見ガアッ
タノデアリマス、是ハ先程川島サンニ御答
申上デマシタヤウニ、決シテ第九條ノ趣旨
ハ、醫療利用組合ヲ獎勵スルコト云フノデハ
ナクシテ、度々私ガ申上デマシタヤウニ、
現在出來テ居ル若干ノモノハ、此外ニ同ジ
ヤウナ、同ジヤウナ組合員ヲ以テ、更ニ
別個ノ國民健康保險組合ヲ作ラセル必要ハ
ナイデハナイカ、現在良クヤッテ居レバ、其
モノヲ國民健康保險組合トシテ代行セシメ
テ宜シデハナイカ、斯ウ云フ點ニ過ギナ
イノデアリマス、隨ヒマシテ現在アル醫療
利用組合ニシテ、或ハ赤字ニ惱シテ居ル
カ、或ハ其成績ガ宜シクナイト云フヤウナ
モノニ付キマシテハ、法文ニ規定シテアリ
マス所ニ依ッテ地方長官ガ之ヲ認めナイ
ノデアリマス、其中ノ成績ノ良ク差支イナ
イモノニ付テノミ認めルノデアリマス、中
ニハ色々アリマシテ、一例ヲ擧ゲテ見マス
ルト云フト、埼玉縣ノ越谷ニ於ケル組合
ノ如キモノハ、中々成績ガ良ク行ッテ居ル
トハ天下周知ノ事實ノヤウデアリマス、即
チ越谷ノ町ノ戸數ガ九百五十七戸、人口
四千五百三十四人ニ對シマシテ、組合員ガ
六百九十六人、組合ノ關係者デ其醫療ノ利
益ヲ受ケテ居ル者ガ四千八百人、醫者ヲ八人
程雇傭シ、且ツ齒科醫師三人程雇傭シ、
其成績ガ大變良ク行ッテ居ルヤウニ見受ケ
ラレルノデアリマス、是ハ唯一例ニ過ギマ
セヌガ、所謂從來ノ醫療利用組合ノ中デモ、
成績ノ良ク差支ナイモノハ、ソレヲ認めメ
ヤッテ宜イノデヤナイカ、斯ウ云フ意味デア
リマシテ、現在アル醫療利用組合悉ク代行
機關トシテ認めルト云フ意味デハナク、又更
ニ將來此醫療利用組合ヲ獎勵スルコト云フ意

味デハナイノデアリマス、何處マデモ健康
保險組合ト云フモノヲ本旨トシテ進メテ行
キタイト云フ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス
ソレカラ實業ヲ現在産業組合デ強制配給
ヲシテ居ルト云フヤウナ御尋デアリタシマガ、
是ハ自ラ別問題デゴザイマス、強
配給ト云フコトハナイヤウニ伺ッテ居リマス
ソレカラ團體契約ノ問題デアリマスガ、
是亦先程私ガ御答申上デマシタヤウニ、大
體ニ於テ法文ノ上ニ於テハ、先ヅ組合ノ自
由ト云フコトヲ立前ニスルノガ適當デア
ル、新ニ團體契約ヲシナケレバナラヌト云フヤ
ウナコトヲ法制化シマス云フト、自ラソ
コニ非常ナ窮屈ヲ生ジテ、却テ組合ノ不便
ヲ來シ、又醫者トシテモ、所謂或ル意味ニ
於ケル切確確磨ト言ヒマス、サウ云フコ
トヲ失フ虞モアリハセヌカ、唯實際ニ於キ
マシテ、先程私ガ申上デマシタヤウニ、各
地方々々ニ於キマス開業醫ノ仕事ト云フ
コトモ、是亦尊重シナケレバナラヌノデア
リマシテ、國民ノ一部トシテ、ヤハリ其方
ノ仕事ヲ直グ失フヤウナコトニナリマス
トハ、是ハイカス事デアリマスバカリデナ
ク、組合員ノ立場カラ申シマシテモ、成ベ
ク廣ク各種ノ醫者ニ掛リ得ルト云フコトガ
必要デアリ、適當デアリマスカラ、斯ウ云
フ風ナ趣旨ヲ省令ニ規定シテ、廣ク診療ヲ
受ケ得ルヤウニサセタイ、斯ウ云フコトニ
サセタイノデアリマス、其結果トシテハ御
承知ノ通り、現在醫師ト云フモノハ、醫師
會ト云フ強力ナ團體ヲ作ッテ居ラレルノデ
アリマスカラ、自然ト醫師會トノ團體契約
ト云フモノガ多分ニ行ハレルダラウ、斯ウ
云フ風ニ思フノデアリマス、且又是ガ今日
ノ我國ノ醫療ノ實況ニ徴シマシテ、適當デ
アラウト考ヘルノデアリマス、サリナガラ
之ヲ法定シテ、現在強力ナル醫師會ト云フ
モノニ、更ニ是ダケノ強制權ヲ與ヘルト云
フコトハ如何デアルカ、斯ウ云フ風ニ思フ
ノデアリマス、デ先程來私ガ申上デマシタ

ヤウニ、國民健康保險法ト云フモノハ、所
謂醫療ノ機會ニ餘リニ惠マレテ居ラス階級
ノ人々ヲシテ、醫療ノ機會均等ヲ得セシメ
ルト云フ趣旨ニアルノデアリマスカラ、是
ハ今日ノ制度トシテ最モ必要デア、斯ウ
云フ風ニ考ヘマスルノデ、是ハ決シテ撤回
スル意思ハゴザイマセヌ

又第九條ニ付キマシテモ、先程申上デマ
シタヤウナ極ク簡單ナ考デア、先程アリマ
スルカラ、ソレ程御議論ニナラヌデモ宜イ
ノデヤナイカ、斯ウ云フ位ニ思フノデアリ
マス、又團體契約ニ付キマシテハ、先程私
ガ申上デマシタヤウニ法定致スノハ適當デ
ナイ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス
ソレカラ國民健康保險法ハ、私モ就任以
來研究ヲ遂ゲマシテ、是ガ今日我國ノ實況
ニ於テ適當デアリ、必要ト考ヘテ居ルノデ
アリマスカラ、是モ私ノ意思ト、斯ウ云フ
風ニ御諒承下サツテ差支ナイと思ヒマス、且
ツ開業醫制度トノ調和、是ハ先程私ガ申上
デマシタヤウニ、現在ノ事實ト云フモノ
ハ、相當尊重シテ行カナケレバナラヌノデ
アリマスカラ、此調和ト云フモノニハ行政
上ノ考ヘ方、行政上ノ措置トシテモ、出來
ルダケ摩擦ヲ避ケテ調和ヲ圖ルト云フコト
ハ、是ハ適當ナコトト考ヘマス

更ニ國民健康保險法ト離レマシタ保險所
ノ問題デアリマスガ、是ハ先程御話ニナリ
マシタヤウニ、地方ノ或ハ十三万乃至二十
万位ノ人口ノ處ニ一箇所位ノ割合ヲ以テ、
此施設ヲ設ケマシテ、一般ニ廣ク國民ノ體
位ノ上昇、或ハ健康ノ相談、或ハ榮養ノ相
談ト云フコトニ當ラシメル、是ハ廣イ意味
ニ於テ國民ノ健康ヲ増進シ、其體位ヲ上進
セシメルト云フ一ツノ施設デアリマス
ソレカラ結核豫防ノ問題デアリマスガ、
是ハ私ガ専門ノ方ニ申上ゲルノハ聊カ烏滯
ガマシイノデアリマスガ、大體ノ統計ニ於
テ、我國ガ一番文明諸國ノ中ニ於キマシ
テ、結核患者ノ最モ多イ甚ダ不名譽ナル狀

態ニ在ルノデアリマス、大體ノ統計ヲ見マ
スト云フト、一年ノ死亡者ガ約十三万人、
一万人ニ付テ十九人ノ患者ガアリ、全國デ
百三十万人位ノ患者ガアルダラウト云フ見
込デアリマス、是ハ今日ノ文明國中ニ於
テ、我國ガ最モ其比率ガ多イノデアリマシ
テ、是ハ甚ダ不名譽千萬ナコトト云ハナケ
レバナラヌバカリデナク、國家ノ最モ重大
ナル關心事デ、最モ痛心ノ事柄デア、ト云
ハナケレバナラヌ、之ヲ何トカシナケレバ
ナラヌト云フコトハ、是ハ國民ノ幸福ノ上
カラモ、或ハ國家ノ發展、或ハ國防ノ上カ
ラモ、或ハ産業振興ノ上カラモ、重大ナル
問題ト考ヘルノデアリマス、隨ヒマシテ一
方ニ於テハ消極的ナ手段トシテハ、成ベク
結核ノ傳播ヲ防ギ、積極的ノ手段ト致シマ
シテハ、結核患者ノ療養ニ國家ガ出來ルダ
ケノ施設ヲシテ、成ベク之ヲ無カラシムル
ト云フ途ニ向ッテ進ムト云フコトガ、最モ必
要ナヤウニ思フノデアリマス、其消極的ノ
方面トシテ、此度結核豫防法ノ改正案ヲ提出
致シマシテ、一方ニ於テ御醫者サンニ届出
ノ義務ヲ負ハシメル、サリナガラは是ハ尊敬
スベキ醫師ノコトデアリマスカラ、罰則其
他ヲ以テ強制シナイ、德義的ノ義務ヲ負ハ
シメル、其他或ハ傳播ノ虞アル者ニ付テハ
適當ナル規定ヲ設ケル、斯ウ云フコトデア
リマス、積極的ノ方面ニ於キマシテハ、先
程私ガ申上デマシタ保健所モ一ツノ施設デ
アリマスカラ、其他結核患者ノ病床ヲ少クモ
五六年ノ間ニ三万床ニ殖ス、即チ國立ノ結
核病床ヲ設ケマスト共ニ、一方地方府縣市
町村ノ設備ニ對シテ補助スル、斯ウ云フ風
ニ結核療養ノ施設ヲ出來ルダケ進メテ行ッ
テ、サウシテ結核患者ヲ少クシテ、國民全體
ノ幸福並ニ産業ノ發達、國力ノ振興ヲ期シ
タイ、斯ウ云フ風ナ次第デア、ルノデアリマス
(青木亮貴君登壇)

○青木亮貴君 今内務大臣ノ御答辯ニ依リ
マス、此國民健康保險法案ハ、相當ノ機

關トシテ認めルト云フ意味デハナク、又更
ニ將來此醫療利用組合ヲ獎勵スルコト云フ意

味デハナイノデアリマス、何處マデモ健康
保險組合ト云フモノヲ本旨トシテ進メテ行
キタイト云フ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス
ソレカラ實業ヲ現在産業組合デ強制配給
ヲシテ居ルト云フヤウナ御尋デアリタシマガ、
是ハ自ラ別問題デゴザイマス、強
配給ト云フコトハナイヤウニ伺ッテ居リマス
ソレカラ團體契約ノ問題デアリマスガ、
是亦先程私ガ御答申上デマシタヤウニ、大
體ニ於テ法文ノ上ニ於テハ、先ヅ組合ノ自
由ト云フコトヲ立前ニスルノガ適當デア
ル、新ニ團體契約ヲシナケレバナラヌト云フヤ
ウナコトヲ法制化シマス云フト、自ラソ
コニ非常ナ窮屈ヲ生ジテ、却テ組合ノ不便
ヲ來シ、又醫者トシテモ、所謂或ル意味ニ
於ケル切確確磨ト言ヒマス、サウ云フコ
トヲ失フ虞モアリハセヌカ、唯實際ニ於キ
マシテ、先程私ガ申上デマシタヤウニ、各
地方々々ニ於キマス開業醫ノ仕事ト云フ
コトモ、是亦尊重シナケレバナラヌノデア
リマシテ、國民ノ一部トシテ、ヤハリ其方
ノ仕事ヲ直グ失フヤウナコトニナリマス
トハ、是ハイカス事デアリマスバカリデナ
ク、組合員ノ立場カラ申シマシテモ、成ベ
ク廣ク各種ノ醫者ニ掛リ得ルト云フコトガ
必要デアリ、適當デアリマスカラ、斯ウ云
フ風ナ趣旨ヲ省令ニ規定シテ、廣ク診療ヲ
受ケ得ルヤウニサセタイ、斯ウ云フコトニ
サセタイノデアリマス、其結果トシテハ御
承知ノ通り、現在醫師ト云フモノハ、醫師
會ト云フ強力ナ團體ヲ作ッテ居ラレルノデ
アリマスカラ、自然ト醫師會トノ團體契約
ト云フモノガ多分ニ行ハレルダラウ、斯ウ
云フ風ニ思フノデアリマス、且又是ガ今日
ノ我國ノ醫療ノ實況ニ徴シマシテ、適當デ
アラウト考ヘルノデアリマス、サリナガラ
之ヲ法定シテ、現在強力ナル醫師會ト云フ
モノニ、更ニ是ダケノ強制權ヲ與ヘルト云
フコトハ如何デアルカ、斯ウ云フ風ニ思フ
ノデアリマス、デ先程來私ガ申上デマシタ

關ニ諸十分ノ協調ヲシタ上ノ案ノヤウ
ナ御話デアリマシタガ、豈圖ランヤ、社會
保險調查委員會ニ於キマシテハ、第九條ノ
產業組合ヲシテ保險組合ノ診療機關ヲ代行
セシメルナドト云フコトハ、寸毫モ話ガナ
カッタト云フ、ソレハ現在我黨カラ出デ居リ
マス、調査委員ガ明言シテ居ラレルノデアリ
マス、牽強附會ニモ、有ル會議デ十分ノ
協調ヲ遂ゲタナドト仰シヤルコトモ、全ク
其場通レノ御答ノヤウニ思ハレル、ソレカ
ラモウツハ、今大臣ノ御言葉ノ中ニ、第
九條ハソノナニ論議スル程ノコトデモアル
マイト思フト云フコトデアッタガ、私ハサウ
云フ信念デオ居デニナルコトガ間違ヒダト
云フコトヲ申上ゲタイ、(拍手)產業組合ト云
フモノハ經濟產業ノ機關デアッテ、診療ナ
カノコトニ仲間入ヲサシテ、オ負ケニ其診
療機關ノ代行ヲヤラセヨウナント云フコト
ハ、飛シデモナイ間違デアルト私ハ思フ、
ソレガ論議スル程ノコトデモアルマイト云
フヤウナ御考デアルカラ、大變ナ間違ナン
デアル、是ガ骨子ナンデアル、ダカラ之ニ
向ッテアタガ簡單ニ御取扱ニナルコトヲ、
私ハ甚ダ遺憾ニ存ズルノデアリマス、保健
所及ビ結核豫防法ノ問題ニ於テハ、是ハ又
他日委員會ニ於テ詳細御尋モスル積リデア
リマス、私ハ農林大臣ガオ居デニナリマセ
スカラ、内務大臣ニ御尋スルノハ方角違ヒ
カモ知レマセヌガ、元來產業組合ハソレ程
マデニ診療機關ニ何故立入ル、產業組合ハ
ザックバランニ申セバ、出シヤバリ過ギテ居
リハシナイカ、(ヒヤ／＼)拍手)產業組合ハ
經濟產業ノ機關デアッテ、之ニ向ッテハ私共モ
十分力ヲ副ヘ、ドウゾシテ其發達ヲ期シタイ
ト思ヒマスルガ、診療機關ノ代行ナドト云フ
コトハ、是ハ片腹痛イ話ダト思フ、之ニ向ッテ今
一應誠實ナル御答ガ願ヒタイト存ジマス
(國務大臣河原田稼吉君登壇)
○國務大臣(河原田稼吉君) 社會保險調查
會ニ付議シマシタノハ、此法案ノ全部デア

リマシテ、唯第九條ニ付キマシテハ、今青
木サシノ仰セニナリマシタヤウニ、是ハ其
全體ノ骨子ニ何等ノ關係ガナイト云フヤウ
ナコトカラ、後ニ入ッテデアリマスガ、法
案全部ハ只今申上ゲマシタヤウナ、各種ノ
人ヲ網羅スル社會保險調查會ニ於テ慎重審
議セラレタルモノデアリマス、ソレカラ第二
ノ第九條ノ問題デアリマスガ、是ハ私ハ度
度誠實ニ御答致シテ居ルノデアリマシテ、
決シテ第九條ニ依ッテ產業組合法ニ依ル醫
療利用組合ノ獎勵ヲスルト云フ意味デハナ
イ、唯現在出來テ居ル醫療組合ノ中ニ於テ、
良イノハ更ニ改組サシテ、國民健康保險組
合ト云フヤウナモノニ作り直サセルトカ、
或ハ別個ニ同ジヤウナ人ヲ以テ作ラセルマ
デノ餘計ナ手數ハ必要ナイノデヤナイカ、
詰リ今日出來テ居ル少數ノ良イモノハ、其
儘認メテヤッテモ宜イデハナイカト云フヤ
ウナ趣旨ニ外ナラナイノデアリマシテ、之
ニ依ッテ大イニ醫療利用組合ノ普及獎勵ヲ
スル意味デナイコトハ、私ガ度々申上ゲル
通りデアリマス
○青木亮實君 簡單デアリマスカラ此席カ
ラ御許ヲ願ヒマス
○副議長(岡田忠彦君) 宜シウゴザイマス
○青木亮實君 今内務大臣ハ、九條ノ如キ
ハ後カラ入レタト云フ御話デアリマスルガ、
是ハ尙更怪シカラスト思ヒマス、恐ラクハ
是ハ内務省ナリ社會局ノ御意思デナカッタ
ノヲ、何等カ外ノ方面カラ強要サレテ入レ
タモノト思ハレル、產業組合ガ斯様ニヤリ
マスルコトガ、果シテ保險組合ニ是ナルカ
非ナルカト云フコトヲ、能ク御考ヲ願ハナ
クテハナラス、ドウゾ此邊ニ於テ私ハ御答
ヲ承ラウト思ヒマセヌガ、十分御考慮ヲ願
フデ、他ノ場合ニ又御説明ヲ伺ハウト存ジマ
ス、是デ私ノ質問ハ打切りマス(拍手)
○副議長(岡田忠彦君) 武田德三郎君
(武田德三郎君登壇)
○武田德三郎君 私ハ議長ヨリノ御注意モ

アリマスルノデ、成ベク簡單ニ質問致シタイ
ト存ジマス、既ニ今マデノ質問者ニ依リマ
シテ、大體ノ要點ハ盡サレテ居ルト思フノ
デアリマスガ、之ニ對スル内務大臣ノ答辯
ガ甚ダ了解ニ苦シム點ガアリマスノデ、重
ネテ簡單ニ御伺ヲ致シタイト存ジマス
先ツ第一ニ私ハ内務大臣ニ御伺ヲ申上ゲ
タイコトハ、斯様ナル重大ナル社會立法ノ
制定ヲナサルニ當ッテハ、私ハ其用意ガ不十
分デアアルノデハナイカト云フ疑ヲ持ッテ居
ルノデアリマス、從來ノ民間デ行ッテ居リマ
スル所ノ醫療保險組合ノ實績ヲ見マシテモ、
亦產業組合ノ醫療利用組合ノ實績ヲ見マシ
テモ、其結果ハ甚ダ面白クナイ實績ヲ示シ
テ居ルノデアリマス、而シテ左様ナ面白カ
ラザル結果ヲ招ク所以ノモノハ何デアアルカ
ト申シマスナラバ、私ノ理解スル所ニ依リ
マス、先程青木君カラモ御話ノアリマシ
タヤウニ、此健康保險ノ根本ニナリマス所
ノ健康調査ト申シマスガ、竝ニ之ニ伴フ所
ノ罹病率ト云フヤウナモノガハッキリ致サ
ナイカラ、隨テ此醫療組合其他ノ結果ガ合
理的ニ行ハレナイノデハナイカト思フノデア
リマス、元來現行保險法ガ實施サレル場合
ニ、政府ノ御見込ヲ聽イテ見マス、一人
一箇年ノ診療ノ期日ヲ約十七日位ニ御認メ
ニナリ、一日ノ診療費ヲ五十錢位ニ御見込
デアルト云フコトヲ聞イテ居リマス、然ル
ニ實際ノ成績ハドウデアアルカト云フト、私
ノ承ル所ニ依ルト、一人ノ診療日數ハ十五
日、又一日ノ診療費ハ僅ニ二三十錢ノ低イ
モノニナッテ居ルト云フコトデアリマス、是
ハ何ノ爲メデアアルカ、即チ罹病率ト云フモ
ノガ分ラズ、オ負ケニ先ツ良イカラヤラウ
デヤナイカト云フヤウナコトカラヤッタ結
果ガ、其組合ノ經濟ガ保テナイノデアリマ
ス、而モ現行保險法ハ御承知ノ通り政府ガ
之ニ向ッテ法律ニ依ッテ保險給付ノ十分ノ一
ヲ、政府ハ補助スルコトノ法律上ノ規定ガ

アルノデアリマス、而シテ又雇主ハ其保險
料ノ半額ヲ負擔スルコトニ相成ッテ居ルノ
デアリマス、斯様ナ種々ナル點ニ於テ、此
保險組合ニ便宜ヲ與ヘテ居ッテサヘモ、尙ホ
政府ノ見込通り行カスト云フコトハ、是ハ
事實ノ證明スル所デアリマス、是等ノ點ヲ
考ヘテ見マスト、政府ハ此社會立法ヲ致サ
ル、上ニ於テ、十分ナル用意ニ缺ケテ居ル
所ガアルノデハナイカト云フ風ニ考ヘルノ
デアリマスガ、内務大臣ハ如何様ニ御考ニ
ナリマスカ
尙又此問題ニ關聯シテ私ガ内務大臣ノ御
意見ヲ承リタイコトハ、此問題ガ今日ノ實情
ニ於キマシテ非常ナ面倒ナ問題ニ化シテ居
ルノハ何デアリマセウカ、或ハ一面ニ於テ
全國ノ醫師ガ足竝ラ揃ヘテ之ニ反對シテ居
ル、先日東京ニ於テ千五百人ノ全國ノ醫師
ガ寄ッテ、之ニ反對ノ意思ヲ表明シテ居ルト
云フ事實モ聞イテ居リマス、斯様ナコトハ
大抵内務省ニ於テモ想像ノ付ク事柄ナドケ
レバナラスニデアリマス、承レバ全國ニ醫
師ノ總數ハ五万人アルト云フコトデアリマ
ス、其家族關係者ヲ集メマシタナラバ非常
ナ多數ノモノデアリマセウ、又是等ノ人ト
連絡ヲシテ居ル所ノ藥劑師、又賣藥業者ト
云フヤウナモノヲ數ヘマスルナラバ、全國
ニ於テ何百万ト云フ利害關係ガアルノデア
リマス、一國ノ地方農村ノ人民ニ向ッテ適當
ナル醫療ヲ加ヘテヤリタイト云フ其御趣旨
ハ、吾々モ滿幅ノ賛成ノ意ヲ表スルノデア
リマスルガ、一面ニ於テ何百万ト云フ醫者、
賣藥業者竝ニ藥劑師等關係業者ノ生活問題
ト云フモノモ、是亦内務省トシテハ御考ニ
ナラナケレバナラス管デアアル、然ラバ斯様
ニ重大ナル利害ノアル問題ヲ御提案ニナリ
マスルニ當リマシテハ、是等ノ各利害ノ
異ッテ居ル階級ノ人々ト、如何ナル調和ヲ圖
ラウカト云フコトニ向ッテハ、大體ノ御見透
シガナケレバナラス筈ダト思フノデアリマ
ス、然ルニソレダケノ用意ナク、突然――

突然デナイイカモ知レマセヌガ、兎ニ角斯様ナ重大ナル法案ヲ、此會期ノ短イ今日ニ於テ御提出ニナツテ、サウシテ國民ノ或種ノ階級ト或種ノ階級ノ間ニ軋轢ヲ生ジテ、之ヲ調和スルノ手段ヲ持タナイト云フヤウナコトハ、内務大臣トシテハ私ハ重大ナル責任デハナイカト考ヘルノデアリマス、此點ニ向ッテ内務大臣ノ御所見ヲ先ヅ第一點トシテ承リタイ

ソレカラ本法案ノ重點ハ、先程青木君、川島君竝ニ其他ノ諸君カラモ御話ガアリマシタヤウニ、所謂醫師ト組合トノ團體契約ヲ認メルカドウカ、竝ニ醫療利用組合ヲシテ代行機關ヲシメタ方ガ善イカ惡イカト云フ、二點ニアルノデアリマス、此二點ニ付テ其他ノ諸君ヨリノ御質問ニ對シテ内務大臣ノ御答辯ハ、第一ニ對シマシテハ、成程團體契約ハ便利ノ點モ多クアラウ、併シソレハ將來ニ於テ、此組合ヲ指導スル過程ニ於テ、内務省ガ手心ヲ以テ左様ニ致スヤウナ積リデアル、斯様ナ御答デアツタ、是ハ私ハ甚ダ分ラヌノデアリマス、元來團體契約ヲシタ方ガ組合ノ爲ニ、或ハ此組合ノ被保險者ノ爲ニ善イカ惡イカト云フコトヲ、先決ニセンケレバナラヌ管デアリマス、法律ノ規定ニナインデアアルカラ、ソレハ自治ニ委シテ置イテ、政府ノ監督上ノ手心ニ於テ左様ニ導ク、斯ウ仰シヤル其裏面ニハ、團體契約ヲシタ方ガ組合ノ爲メ、又被保險者ノ爲ニ宜イト云フコトヲ、既ニ御認メニナツテ居ルノデハナイノデスカ、然ラバ何故ニ之ヲ法定スルコトハイケナイト仰シヤルノデアアルカ、元來被保險者即チ患者ハ——被保險者即チ患者ト云フ言葉ハ一寸ワカシイ譯デアリマスルガ、被保險者ニシテ病氣ニ罹ッタ人ハ、出來得ルダケ其自分ノ掛ラウト思フ醫者ヲ自由ニ選擇スルト云フコトハ望マシイコトデアアルノデアリマス、然ルニ或ル個人ノ醫者ト契約ヲ致スト云フコトニナレバ、其自由ガ奪ハレルト云フコトハ當

然デアリマス、若シ吾々ノ考ヘテ居ル如ク、内務大臣モ成ベク患者ニ對シテ其醫者ノ選擇ヲ自由ナラシムル方ガ宜シイト云フ御考ナラバ、其方向ニ向ッテ立法サレルト云フコトハ至當デアリマセヌカ、併ナガラ或ハ又内務大臣ハ左様ナコトヲ法定スルコトハ何等カノ差支ガアラウ、ソレハ一利一害デアルカラ、此事ハ其組合ノ自由ニ委スト、斯ウ云フコトデアリマセヌカ、是亦一面ノ見解ト言ツテモ宜シイノデアリマスルガ、然ラバ團體ト團體ガ契約スルコトニ、如何ナル不便ガアルト御考ニナルノデアリマスカ、私ノ考ヘル所ニ依リマス、團體ト團體ガ契約スルト云フコトハ、組合ノ方面ニ於テモ、又被保險者ノ立場カラ言ツテモ、極メテ便利ナ方法デハナイカト考ヘマス

一體今日マデ利用組合竝ニ民間ノ疾病保險組合ノ其結果ノ旨ク行カナカッタト云フ主ナル理由ハ何デアアルカト云フ、醫者ト組合トノ間ノ醫療費ノ協定デアリマス、大體ヲ協定致シテ置キマシテモ、愈々支拂ハスル場合ニ於テハ、之ニ向ッテ査定ヲ加ヘルト云フヤウナコトヲ今日シテ居ルノデアリマス、其査定ノ仕方ニ於テ、又醫療上ノ醫療費ノ契約ノ仕方ニ於テ、始終爭ウテ居ルノデアリマス、是ガ抑、此醫療組合ガ旨ク行カナイト云フ理由デアリマス、又此醫療保險組合ノ結果ガ良好デナイ所以デアアルノデアリマス、故ニ内務大臣ノ管轄ノ下ニアリマスル所ノ日本醫師會ト云フモノガ一方トナリ、又同ジク内務大臣ノ所管ノ下ニアリマスル所ノ此醫療保險組合ノ聯合會ト云フモノガ一方トナツテ、内務大臣ノ指導ノ下ニ、又一定ノ標準ノ下ニ、是等ノ團體ガ契約ヲ致シテ醫療代竝ニ其他ノ條件ヲ協定致シマスルナラバ、極メテ「スムース」ニ、極メテソコニ摩擦ナクシテ、此組合ト醫師ノ團體トノ間ニ協定ガ出來ルト云フコトハ、コンモンセンス」上想定サレルコトデハナカラ

ウカト考ヘマス、然ルニ何故ニ内務大臣ハ之ヲ御認メニナラヌノデアアル、サウシテ却テ色々ナル面倒ヲ後ニ殘シテ、保險組合ト醫師トノ間ニ爭フセシムルヤウナ原因ヲ、故ラニ殘シテ置クト云フノハ如何ナル理由デアラウカ、私ハ甚ダ解スルニ苦シムルノデアリマス、此點ニ向ッテハ内務大臣ハ深く御考慮ニナルコトガ必要デアリマイカト考ヘマス

更ニ醫療利用組合ノ代行ノ問題デアリマス、此點ニ付テ先程内務大臣ノ御答ハ、醫療組合ノ最モ成績ノ良イモノダケニ代行セシムルノデアツテ、何レノ組合ニモ決シテ之ヲ許スモノデナイ

〔副議長退席、議長著席〕

是ハ内務省ノ行政的手段ニ依ッテ、府縣知事ヲシテ其結果ノ良イモノダケヲ認可セシムルモノデアアル、デアアルカラ利用組合ノ代行セシメタ爲ニ、此新ニ出來ル所ノ保險組合ガ累ヲ被ルヤウナコトガナイト云フ、斯様ナ意味ノ御答辯デアリマシタ、是ハ甚ダ了解ニ苦シムルノデアリマス、若シ左様ナ御心持デアリマスナラバ、是ハ机上ノ論トシテハ一應聞エルカモ知レマセヌカ、併ナガラ今日ノ實際ト甚ダ遠ザカテ居ルデハナイカ、私ノ承ル所ニ依リマス、今日ノ醫療利用組合ハ約二百ノ多數ニ垂ントシテ居ル譯デアリマスガ、其中僅ニ收支償ツテ居ル利用組合ハ十七八ニシカ及ンデ居ナイト云フコトデアリマス、然ラバ此代行シ得ル所ノ利用組合ハ、此二百ノ中ノ十七シカナイト云フ結果ニ陥ルデセウ、而シテ其二百ノ中十七ヲ除ケタ後ノ百八十組合ノアル處ニ保險組合ヲ組織セントスル場合ニハ、其地域ニ於テ同一ノ目的ヲ持ッテ居ル組合ガ二ツ出來ルト云フコトニナルノデアリマス、百八十ノ竝立ヲ認メテ置イテ、十七ニ留保サセルト云フコトハ、何等ノ意味ヲ爲スデアリマセウ、私ハ此代行ノ意味ヲ規定シテアル所ノ、本案ノ第九條ナルモノハ、實際ニ於テ何等ノ意味ヲ爲サヌコトニナルノデハナイ

カト思フ、況ヤ先程モ青木君デアリマシタカ、御説ノアリマシタル通り、利用組合ハ是ハ産業組合ノ一ツノ分派デアツテ、其監督ハ農林大臣ノ下ニアルコトハ申ス迄モナイ、然ルニ今度ノ保險組合ハ内務大臣ノ所管デアリマスルカラ、此間ノ調和ヲスルト云フコトニ向ッテ、監督上ノ衝突ヲ來ス虞ガ十分アルノデアリマス、是等モ元來此間ヲ如何ニシテ調和スルカト云フコトニ向ッテ、本案ノ立案者タル者ハ見究メ付ケテ置カナケレバナラヌ管デアラウト思フノデアリマス、同一ノ働キヲスル所ノ二ツノ組合ニ向ッテ、ソレヲ調和スル方法ヲ講ゼズ、内務大臣ト農林大臣ト所管ヲ異ニシテ居ル所ノモノヲ、漫然トシテ對抗サセルト云フヤウナコトハ、元來根本ニ於テ誤ツテ居ルノデハナカラウカト私ハ考ヘルノデアリマス、寧ロソレガ同一ノ地區ニ殆ド同ジ目的ヲ持ッテ居ル所ノ組合ヲ二ツ作ルコトガ不便デアアルカラ、對抗サルト云フコトデアリマスルナラバ、何故農林省トノ間ニ相當ナ交渉ヲ開カレマシテ、之ヲ適當ニ組織替ハスル、即チ編成替ハスルダケノ手段ヲ、此本法ノ上ニ於テ御規定ニナラナカッタカト云フコトヲ私ハ内務大臣ニ伺ヒタイノデアリマス、左様ナ方法ヲ御執リニナツテ居レバ、左様ナ矛盾ガ生ジナイノデアリマス、若シ之ヲ此儘ニ御實行ニナルト云フナラバ、先程申上ゲタヤウニ、必ズ茲ニ重大ナル衝突ヲ生ズルコトガ、極メテ明瞭デアアルト私ハ考ヘルノデアリマス、此點ニ向ッテ内務大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイ

ソレカラモウ一ツ伺ヒタイコトハ、本法案ノ規定ニハアリマセヌケレドモ、内務大臣ノ御説明ニ依リマシテモ、亦此法文ノ一二ヲ見マシテモ、大體ニ於テ此保險組織ハ町村ヲ單位トスル御意思ノヤウニ承ッテ居ルノデアリマスルガ、是ハ成程組織ノ上ニ於テハ、一町村ヲ單位トスル方ガ便利デアリマセウ、併ナガラ危險ヲ分散スルト云フ

上ニ於キマシテハ、大町村ハ兎モ角ト致シマシテ、普通ノ今日ノ日本ノ町村ハ五百戸乃至七八百戸ガ普通デアリマスルガ、其程度ノ農村ヲ一ツノ區域トシテ組織セシメマシタ結果ト致シマシテ、一時ニ病人ガ澤山出來マスヤウナ——土地柄ニ依テサウ云フコトハ多イト思ヒマスルガ、又流行病ハ別ノ扱ビガ内務省ニアリマスカラ別ト致シマシテ、少シク病人ガ餘計ニ出タ時ニハ、其組合ハ此危險分散ノ方法ヲ執ルコトハ出來スシテ、直チニ重大ナル缺陷ヲ其組織ノ根本ニ生ズルノ危險ガ多クハナイカト私ハ思フデアリマス、此點ニ向テ内務大臣ハ如何様ニ御考ニナッテ居ルカ、之ヲ一ツ承リタイソレカラモウ一ツ最後ニ承ッテ置キタイコトハ、本法ニ於キマシテハ、此保險組合ノ政府ノ補助金ハ豫算ノ範圍内ト云フコトニナッテ居リマスルガ、健康保險法ニ於テハ保險給付ノ十分ノ一、但シ一人二圓以上ヲ超エルコトハ出來ス、斯様ニ相成ッテ居ルノデアリマスガ、斯様ノ同ジ性質ノ保險法案ニ二ツノ規定ガ別ニサレタト云フコトハ、如何ナル意味ヲ持ッテ居ルノデアリマセウカ、尙ホ私ハ此現行ノ保險法ハ、同ジク工業労働者ヲ目的トシテ居ルモノデアリマスルガ、之ニ向ッテハ即チ先程モ申上ゲタ通り、其雇主ガ掛金ノ半分ヲ負擔スルト云フコトデアリマシテ、被保險者ハ相當救ケラレテ居ルノデアリマス、然ルニ本案ノ目的ハ地方農村ノ目的トシテ居ルノデアリマセウカ、今日地方農村ノ窮乏ノ状態、殊ニ醫療費ニ窮シテ居ル状態ハ、工場労働者ノ状態ト決シテ異ナル所ハナイノデアリマス、寧ロソレ以上窮乏ノ度ガ強イト言ッテモ然ルベキコトト考ヘマス、是等ニ對シテ政府ハ豫算ノ範圍内ニ於テ補助ヲ與ヘルト云フヤウナ、此僅ナ助力ノ程度ニ於キマシテ、完全ナル保險組合ガ成立シ得ルカドウカ、而シテ其運用ガ滑カニ行ッテ、果シテ此多數窮乏農民ノ疾病ヲ救ヒ得ルダケノ效果アリヤ否ヤ

ト云フコトニ向ッテ、私ハ多大ノ疑ヲ持ッテ居ルノデアリマス、之ニ向ッテ内務大臣ハ此補助ノ率ヲ、例ヘバ私ノ希望カラ申シマシナラバ、給付ノ少クトモ三分ノ一ト云フ位ナ國庫ノ補助ノ程度ヲ法定スルノ御意思アリヤ否ヤ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、以上四點ニ付テ内務大臣ノ御答ヲ伺ッテ上ニ、又重ネテ御伺スルコトニ相成ルカモ知レマセス

○國務大臣河原田稼吉君登壇

○國務大臣(河原田稼吉君) 武田サノノ御尋ノ第一點ハ、先ヅ斯ウ云フ風ナ法律ヲ施行スルニ付テハ、十分ナル病勢調査等ヲシテ、完全ナル統計ヲ出シテカラスルノガ本當デハナイカ、斯ウ云フ風ニ伺ッタノデアリマス、是ハ私ガ先程來申述べマスヤウニ、大局ノ上カラ醫療ノ機會ヲ得ナイ氣ノ毒ナ人々ニ對シテ、醫療ノ機會ヲ與ヘルト云フ所ニ本旨ガアルノデアリマスカラ、必シモ十分ナル調査ヲシタ上ト云フ必要ハナイ、私ハ斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、或ハ餘談デアアルカモ知レマセスガ、度々豫算總會或ハ分科會ニ出マシテ、種々皆方カラ、御小言ヲ頂戴致シマスノハ、所謂國民生活ノ安定問題デアリマシテ、廣義國防ノ立場カラ、何故政府ハモット國民生活ノ安定ヲ圖ラナイノカト云フヤウナ御叱リヲ受ケマシテ、吾々ハ種々ソレニ對シテ辯解シ努力メテ居ッタノデアリマス、デアリマスカラ殊ニ此國民健康保險法ノ如キモノハ、國民生活安定ノ最小限度ノモノデアリマシテ、私ハ今日最モ早く施行スルコトガ、國民生活安定上最モ必要デアリ、且ツ皆様ノ御期待ニ副フコトガ出來ルヤウニ思フノデアリマス(拍手) 隨テ大體ニ於キマシテ、是ハ從來ノ工場鑛山ノ労働者ニ對スル健康保險ト同ジヤウニ、或ル程度ノ日ヲ限ッテ居ルノデアリマシテ、是ハ申ス迄モナイコトデアリマシテ、現在鑛山工場ノ労働者ニ對スル現行法ニ於キマシテハ、大體三

十四日、七圓四十錢位ヲ目途ニシテ居ルノデアリマス、是ハ澤山ノ人、大量ヲ扱フ上ニ於テ、或ル程度ノ制限ヲ置クト云フコトハ、是ハ申ス迄モナイコトデアリマスガ、兎モ角取敢ヘズ病氣ヲ診療シテヤルト云フ施設ヲスルコトガ、今日最モ必要ノヤウニ思フノデアリマス、ソレカラ此組合ハ法律ニ必シモ強制ニ依ラズシテ、地方ノ實情ニ依リ作りタイ場合ニ、之ヲ援助シテ作ラセルト云フコトニアリマスカラ、必ズシモ各種ノ調査ノ後ヲ俟ツト云フ必要ハナイ、私ハ斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス

更ニ斯ウ云フ仕組ミヲスルト、所謂醫師ノ失業、全國五萬ノ醫師ニ對シテ失業ト云フヤウナ問題ヲ起シハセスカト云フヤウナ御話ノヤウデアリマシタガ、是ハ先程私ガ御答申上ゲマシタヤウニ、寧ロ醫師ノ仕事ヲ殖ヤス、從來病氣ニ罹リツ、モ、更ニ診療ノ機會ヲ得ナカッタ人々ニ對シテ、醫療ノ機會ヲ與ヘルノデアリマスカラ、却テ御醫師サニ掛カル患者ノ數ガ殖エマシテ、寧ロ醫師ノ仕事ヲ殖ヤス、斯ウ云フ結果ニナルト私ハ思フノデアリマス、隨ヒマシテ決シテ醫師ノ業務ヲ奪フヤウナコトニハナラスト確信スル者デアリマス

別個ニ國民健康保險組合トシテ必要ニ應ジテ出來テ來ル、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス

ソレカラ醫師會ノ團體契約ヲ決定セザル理由如何、斯ウ云フ御尋デアリマシタガ、是ハ私ガ先程申上ゲマシタヤウニ、大體ニ於テ國民健康保險組合ト云フモノハ、其組合ノ自治ニ委セルコトガ適當デアアル、デアリマスカラ之ヲ強ヒテ醫師會ト云フヤウナ團體ト、是非團體契約ヲシナケレバナラスト云フ必要ハナイノデアリマス、例ヘバ若シ國民健康保險組合ガ完全ナル發達ヲ遂ゲマシテ、先程私ガ例ヲ舉ゲマシタヤウニ、越ケ谷ノ例ノヤウニ立派ナ病院ヲ持チ、或ハ各種ノ醫師ヲ雇傭シテ、完全ナル醫療ガ出來ルト云フ場合ニハ、ソレ等ヲ認メテ差支ナイ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、現在工場、鑛山ノ労働者ヲ網羅シテ居リマスル健康保險組合ニ於キマシテモ、所謂政府デ保險者トナッテ居リマスル政府管掌ノ保險ニ於キマシテハ、醫師會トノ團體契約ヲシテ居リマスガ、大キナ工場等ニ於キマシテハ、或ハ醫師會ト團體契約ヲシテ居ルモノアリ、或ハ更ニ自己ニ於テ適當ナ醫療機關、即チ完全ナル病院ヲ設ケテ、各種ノ醫師ヲ雇傭シテ居ルヤウナモノモアルノデアリマスカラ、國民健康保險組合ニ於キマシテモ、一律ニ醫師トノ團體契約ヲ強制スル必要ハナイ、且ツ今日ニ於キマシテハ、サウ云フヤウニスルコトハ適當デナイ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス

更ニ健康保險法、即チ工場、鑛山ノ労働者ヲ主體トシテ居リマスル健康保險法ニ於キマシテハ、所謂使用者ノ負擔ガアルカラシテ、労働者側ノ負擔ハ割合アル、然ルニ國民健康保險組合ニ於キマシテハ、國家ノ補助ガ頗ル少イ、是デ十分デアアルカト云フヤウナ御尋ト拜承致シマシタ、是ハ私ガ申ス迄モナク、労働者ノ健康保險法ハ、所謂事業主ト労働者ト相俟ッテ、五ニ其危險

者ニ對スル現行法ニ於キマシテハ、大體三

ヲ分擔スルト云フ産業協力ノ趣旨ニ出來テ
居ルノデアリマシテ、今日提案致シマシタ國
民健康保險法ノ趣旨トハ、自ラ其性質ヲ異
ニスルノデアリマス、國家ノ補助ニ付キマ
シテハ、成ベク多イノヲ多ト致シマスケレ
ドモ、一面ニ於キマシテ國家ノ財政ト云フ
コトモ考ヘナケレバナラヌノデアリマス
カラ、今日ニ於キマシテハ、先ヅ此程度デ
已ムヲ得ナイト考ヘテ居ルノデアリマス

〔武田三郎君登壇〕

○武田三郎君 私人質問ニ對スル内務大
臣ノ御答ハ、少シクオ門違ヒノ點ガアルヤ
ウニ思ヒマスルカラ、詳細ノコトハ委員會
デ伺ヒマス致シマシテ、私人質問ニ對シ
テ著シク見當違ヒノ點一二ダケヲ、重ネテ
御伺ヲ致シタイト思ヒマス、私ハ第九條ノ
代行機關ノ點ニ付キマシテ、先程申上ゲタ
ル如ク、二百ノ中十七シカ相當ナ成績ヲ收
メテ居ナイト云フコトデアリマス、ア
トノ百八十以上ノモノハ代行ガ出來ナイト
云フコトニ相成ルノデアリマス、内務大臣
ノ御説ノ通りデアリマス、左様ナ
場合ニ其保險組合ヲ作ル計畫ヲ致ス所ニ於
テ、保險組合ト利用組合ト云フモノハ、二
ツ並立スルコトハアルデアリマイカト云
フコトヲ申シタノデアリマス、左様ナ場合
ニドチラモ存在シナイコトニ相成ルデアリ
マセウ、或ハ又此利用組合ガアツテ、代行ノ
資格ガナイト云フヤウナ場合ニ、其或ル地
域ニ更ニ保險組合ヲ作ラントシテモ、其利
用組合ガアル爲ニ、又保險組合ノ組織ガ困
難デアラウト云フコトデ、出來ナイト云フ
虞ガアルデアリマセウ、是ハ斯様ニ二
ツ出來タ場合ニハ、同ジヤウナモノガ二ツ
出來テ競合シテ雙方共困ルト云フヤウナコ
トニ對シテ、内務大臣ハ如何ナル御取扱ヲ
爲サルカト云フコトト、又利用組合ガ即チ
赤字利用組合デ、地方長官ノ代行ヲ許サナ
イヤウナ組合ノアル處ニハ、此保險組合ノ
組織ガ困難デナイカ、斯様ナコトヲ承ッテ居

ルノデアリマス

ソレカラモウ一ツハ、若シ二ツ並立シタ
場合、利用組合ハ産業組合デアリマスルカ
ラ、農林大臣ガ之ヲ所管ヲ致サレマセウ、
又利用組合ト致シマシテモ、保險組合ノ働
キヲ爲ス上ニ於テハ、内務大臣ガ御所管デ
アリマスルカラ御監督ニナル、此時ニ農林
大臣ト内務大臣トノ御監督ノ上ニ於テ、茲
ニ一ツノ矛盾ガ生ジハシナイカト云フコト
ヲ私ハ伺ッタノデアリマス、此點ニ向ッテ重
ネテ御説明ヲ煩ハシタイト思ヒマス

ソレカラモウ一ツ團體協約ノコトニ付キ
マシテハ、私ハ先程申上ゲタヤウニ、團體
協約ヲ法定ニ於テ認メル方ガ、此立法ノ趣
旨ヲ實現スル上ニ於テ便利デアリマセウ
カ、斯様ナ意味ニ於テ御尋ヲ致シタノデ
アリマス、即チ先程申上ゲタルヤウニ、
保險組合ト開業醫ト個人ト交渉スル場合ニ
於テハ、其交渉ニ非常ナ面倒ガアルノデア
リマス、保險組合ガ力ノ強イ時ニハ、開業醫
ガ之ニ引摺ラレテ非常ナ困難ナ立場ニナル
ノデアリマス、即チ仰シヤル通りニ醫療金
ヲ引下ゲテ、條件ヲ惡クシテ、自分ノ生活
ノ脅威ヲ蒙ルヤウナ條件デ承諾シナケレバ
ナラヌト云フコトガアリマス、又之ニ反シ
テ開業醫ガ強イ時ニハ、此保險組合ガ非常
ニ不利ノ立場ニナルヤウナ條件デ約束ラシ
ナケレバナラヌト云フヤウナ、困難ガ生ジ
ハシナイカト私ハ惧ル、ノデアリマス、之
ヲ團體協約ヲ致ス場合ニ於キマシテハ、日
本醫師會ハ内務大臣ノ監督ノ下ニ成立ッテ
居ル團體デアリマスルカラ、内務大臣ガ相
當ナ牽制ヲ爲サルコトハ出來ル、又一面ニ
於テ保險組合モ同様ニ内務大臣ノ監督下ニ
アルモノデアリマスルカラ、同ジク内務大臣
ノ監督下ニ於テ、内務大臣御自身ガ適當ナ
標準ノ契約案ヲ示シテ、雙方ノ間ニ然ル
ベク斡旋ト申シマスルカ、相當ナ御考慮ヲ
加ヘラレテ、圓滿ニ契約ガ出來ルト云フ、
非常ニ便宜ナ方法ガアリハシマスマイカ、

斯様ニ私ハ質問ヲ致シテ居ルノデアリマ
ス、之ニ向ッテ内務大臣ノ御所見如何ト云フ
コトヲ伺ッタノデアリマスルカラ、此意味ニ
於テ御答辯ヲ願ヒタイト存ジマス

〔國務大臣河原田稼吉君登壇〕

○國務大臣(河原田稼吉君) 御質問ガ多岐
ニ亙ッテ居リマシタノデ、私ノ答辯ガ漏レマ
シテ甚ダ恐縮ニ存ジマス、第一ノ利用組
合、第九條ノ問題デアリマスガ、是ハ御尋
デハアリマスガ、假ニ代行ト云フコトヲ認
メマセウデモ、ヤハリ醫療利用組合ト云フ
モノハ、之ヲ禁止スルノデアリナイノデアリ
マスカラ、假令第九條ガナクテモ、作ル場
合ニハ醫療利用組合ト云フモノハ出來テ行
ク、國民健康保險組合ト云フモノハ強制シ
ナイノデアリマスカラ、若シ此法ガ施行セ
ラレマシテモ、或ハヤハリ從來ノ醫療利用
組合ト云フモノガ出來テ居テ、國民健康保
險組合ト云フモノガ出來ナイカモ知レズ、
或ハ更ニモット澤山出來テ行クト云フコト
ガアルカモ知レナイノデアリマシテ、醫療
利用組合ト云フモノニ付テハ、本法ハ何等
觸レテ居ラヌノデアリマス、唯第九條ニ於
テ現在良イモノダケニ代行ヲ認メテヤラ
ウ、斯ウ云フ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス、
ソレカラ醫療利用組合ハ、所謂産業組合ト
シテ農林大臣ノ所管ニ屬スル、然ルニ醫療
ニ關シテハ内務大臣ノ所管デアリカラシメ、
其間ニ自ラ各種ノ矛盾ヲ生ジナイカ、斯ウ
云フ御尋デアリマシタガ、是ハ法文ニアリ
マスヤウニ、第一次ノ監督機關ハ地方長官
デアリマシテ、私が申ス迄モナク地方長官
ハ各省大臣ノ指揮ヲ受ケルノデアリマスガ
ラ、其點ニ於キマシテ第一次ノ監督機關ガ
一ツデアリマスレバ、自ラ其間ニ矛盾ヲ避
ケ得ルデアラウト思ヒマス、且ツ又私が申
ス迄モナク政府ト云フモノハ、各省ニ分立
シテ居ルノデアリナイノデ、自ラ其間ニ融合
統和ヲ圖ルト云フコトハ難クナイノデアリ
マスカラ、假令管轄ガソレム、分レテ居リ

マシテモ、其點ニ付キマシテハ必シモ御心
配ハ要ラスノデアラウト、斯ウ云フ風ニ思
フノデアリマス、ソレカラ團體契約ヲ法律
ヲ以テ認メル方ガ便利デアリナイカト云フ御
尋デアリマシタガ、是ハ私が先程御答致シ
マシタヤウニ、一ツハ團體契約ト云フモノ
ヲ強制致シマスルト、必シモ醫師會トノ
契約ヲ爲サズシテ、大キナ、例ヘバ健康保
險組合ガ出來マスル時ニ、ソコデ一ツノ立
派ナ醫療機關ヲ作ルト云フ場合ニハ、ソレ
ヲ禁止マデ醫師會トノ團體契約ヲ強制ス
ルト云フコトハ必要デナク、且ツ又ソレハ
自然ニ反スルヤウニ思フノデアリマス、且
ツ又ソレ等ヲ適當ニ安排シタラ宜カラウ、
内務大臣ハ醫師會ヲ監督シ、健康保險組合
モ監督スルノデアリカラシテ、適當ニ監督
ヲシタラ宜カラウト、斯ウ云フ御言葉デア
リマシタガ、私が申ス迄モナク、醫師會ハ
醫師法ニ依リマシテ、可ナリ強大ナル權限
ヲ與ヘラレテ居ルノデアリマス、即チ或ハ
醫師ノ犯則行爲等ニ付キマシテモ、之ヲ處
分スル權能ガアリ、且ツ又藥價ヲ定メル權
能ヲ持ッテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ是
等ノ法律上ニ重大ナル權能ヲ持ッテ居ル醫
師會ニ對シマシテ、サウ何デモカデモ干渉
スルト云フコトハ出來ナイ、之ヲヤリマス
レバ、寧ロ先程來御叱リヲ受ケテ居リマス
官僚獨善ノ弊ヲ却テ起スノデアリナイカト、
斯ウ云フ風ニモ思フ位デアリノデアリマス、
隨ヒマシテ是ハ私が先程來申上ゲマスルヤ
ウニ、法律上ニハ強制セズシテ、實際ニ於
テ其實情ナリ、地方ノ事情ニ合フヤウニ指
導シテ行ク方ガ宜カラウ、而シテサウ完全
無缺ナ病院ヲ造ッテ、大キナ組合ガ出來ルト
云フコトハ、直チニ豫想ガ出來ナイノデア
リマスカラ、而モ國民健康保險組合ハ、組
合員ヲシテ廣ク各種ノ醫師ニ掛カリ得ルダ
ケノ自由ヲ保有シナケレバナラヌト云フコ
トヲ、省令ニ於テ規定スル積リデアリマス
カラ、結局ニ於キマシテハ、自ラ其地方ニ

於キマスル醫師會若クハ其他ノ團體ト自然
契約ガ出來ル場合ガ多カラウ、斯ウ云フ風
ニ思フノデアリマス、先程來私ガ申上ゲマ
スルヤウニ、是ハドウシテモ法ヲ以テ團體
契約ヲ強制スルト云フコトハ適當デナイ、
現ニ度々申シマスヤウニ、勞働者ノ健康保
險ニ於キマシテモ、決シテ其團體契約ヲ強
制シテ居ラス、自然ニ委シテ適當ニ處置セ
ラレテ居ルノデアリマスカラ、其方ガ最モ
時宜ヲ得テ居ルヤウニ私ハ思フノデアリマス
○武田三郎君 只今ノ内務大臣ノ御答辯
ニ對シテハ、尙ホ満足デアリマセヌガ、詳
細ハ委員會ニ讓リマシテ、私ノ質問ハ是デ
打切りマス

○議長(富田幸次郎君) 服部崎市君
(服部崎市君登壇)

○服部崎市君 只今上程ニ相成リマシタル
國民保健ニ關シマスル三法案ハ、今期議會
中最モ重要ナル社會立法ト致シマシテ、是
ガ審議ヲ慎重ニ進メマスルハ當然ノコトト
存スルノデアリマス、我國現下ノ非常事態
ニ際シマシテ、當局ハ敢テ之ヲ保健國策ト
致シマシテ提唱サレテ居ルノデアリマスル
ガ故ニ、私ハ其中デ特ニ保健所法案ニ關シ
マシテ、日頃ノ所信ノ下ニ質問ヲ致シマシ
テ、ソレハノ所管大臣カラ御答辯ヲ煩ハ
シタイト思フノデアリマス

凡ソ一國ノ政治ヲ行フニ當リマシテハ、
教育上、産業上、軍事上ト言ハズ、次代國
民ノ繁榮ヲ基盤トシテ、根本方策ヲ立テナ
ケレバナラヌト思フノデアリマス、此目的
ニ對シマシテ至大ナル關係ヲ有シマスル國
民ノ健康狀態ガ、我國現在ノ如ク、諸外國
ト比較致シマシテ、統計ノ上カラ見マシテ
モ、實ニ憂慮ニ堪ヘマセヌ劣惡ナル狀態デ
アルノデゴザイマス、勤勞ト國防トニ耐ヘ
ナケレバナラヌ頑健ナル身體、確固タル精
神力トヲ、最モ切要ト致シテ居リマスル此
時ニ當リマシテハ、國家ノ重要問題ト致シ
マシテ、眞劍ニ考慮サレナケレバナラヌト

存ジマス(拍手)而シテ茲ニ提案サレマシタ
ル本法案ハ、即チ國策トシテ對策ヲ具現セ
ラルベキモノト期待シテ居リマシタ法案デ
アルト思フノデアリマス、曩ニ廣田前内閣
ニ依リマシテ庶政一新ガ提唱セラレマシタ
中デ、最モ國民ノ歡心ヲ買ヒマシタモノ
ハ、即チ國民生活安定策ト云フコトデアッタ
ノデゴザイマス、其際閣議ニ於キマシテハ、
餘リ難カシイ問題ニ手ヲ觸レテハトノ或種
ノ心遣ヒカラカ、先ヅ第一ニ取上ゲラレマ
シタモノガ、國民保健施設ノ擴充ト云フ、
何處カラモ苦情ヲ異論ノ出ナイ新政策デ
アッタノデアリマス、殊ニ是ガ政治的中性ヲ
帶ビタ題目デアリマシタダケニ、社會政策
ノ角度カラ何トカシテ成案シ、國民生活安
定ト云フ、約束手形ノ有力ナル穴埋ニスル
ノニハ恰好ナモノト致シマシテ、進捗セラ
レタノデアリマシテ、保健所創設案モ此波
ニ乗ジテ生レタモノデアルト思フノデアリ
マス(拍手)國民健康保險制度並ニ無醫村對
策ト共ニ、内務省當局ノ誇示致シマスル三
位一體ノ保健施設ト致シマシテ、現林内閣
ニ引繼ガレタノデアリマス、隨テ先ヅ國民
健康保險制度ニ依ッテ、自治的ナル保險組織
ヲ採用シ、主ニ農村方面ニ於キマスル醫療
費負擔問題ヲ解決致シ、無醫村對策トシテ
醫者ノ無イ村ヲ救ヒ、更ニ保健所制度ニ
依ッテ、平素國民ノ保健思想ヲ啓發シテ、罹
病ノ豫防ヲスルト云フノデアリマスカラ、

國家大衆ニ取ッテ社會立法トシテ實ニ有難
イ事デアリ、此種ノ施設ハ大イニ普及及徹底
サレナケレバナラヌト深く信ズルノデアリ
マス(拍手)併ナガラ政府ノ意圖セラレマス
ル今回ノ保健所ノ如キモノハ、既ニ歐米諸
國ニ於テハ「ヘルス・センタール」ト云フ機構
ニ依ッテ、都市ト云ハズ、農村ト云ハズ總テ
ニ普及及徹底セラレマシテ、相當ナル成績ヲ
擧ゲテ居ルト聞イテ居ルノデアリマス、英
國ニ於キマシテハ、此保健所ニ類シマスル
兒童健康相談所網ガ完成セラレマシテ、ソ

レニ依ッテ成功ヲ收メテ居ルノデアリマス、
其他米、獨、佛、固ヨリ、葡萄牙、ポーラン
ド「ユーゴスラビヤ」「ビルマ」「シンガポー
ル」「香港、蘭領印度等」ニモ普及シテ居リマシ
テ、日本ガ今日漸ク此制度ヲ採用スルニ至
リマシタノハ、寧ロ文明國ト致シマシテ恥
カシイ事ト謂ハネバナラヌト思フノデアリ
マス(拍手)而モ我ガ國民ノ體位ハ、先ヅ乳
兒ノ死亡率ニ於テ見マシテモ、歐米ノ重
立ツ國ノ倍以上ヲ示シテ居リマスルシ、殊
ニ多クハ產ムケレドモ、多クヲ殺スト云フ、
大キナ無駄ノ上ニ、更ニ悲シムベキ事ハ、
十歳前後カラ死亡率ハ年ト共ニ累進致シマ
シテ、二十歳前後ニ於キマスル死亡率ガ非
常ニ高イト云フコトデアリマス、ト
ホム「患者ガ約九百万人ト謂ハレ、蛔蟲、
十二指腸蟲保有者ニ至ッテハ、農村居住者
ノ約八割ニ及ンデ居ルト云フコトデアリ
マス、」チブス「ハ歐米諸大國ニ比シマシテ
二十倍以上ヲ示シ、尙ホ結核患者ハ逐年増
加ノ傾向デアリマシテ、殊ニ肺結核患者ニ至
リマシテハ二十万以上ニナッテ居ルト云フ
コトデアリマス、是デハ平均年數ノ永カラ
ウ筈ハアリマセヌ、人生五十年トハ生命ノ
短イノヲ嘆ジタ言葉デアリマスルケレドモ、
我國ノ平均年數ハ其五十歳ニ近イト云フノ
ズ、米國ナドハ既ニ六十歳ニ近イト云フノ
デアリマスガ、我國ハ四十二歳半ト云フノ
デアリマスカラ、實ニ憂慮スベキ狀態デア
ルト謂ハナケレバナラヌト思フノデアリマ
ス、斯ル狀態デアリマスレバコソ、今回ノ
此施設ガ案出サレタモノデアルト思フノデ
アリマス、ソコデ此對策ト致シマシテ、本案
ニ依ッテ十分ナル是ガ施設ト考ヘラレルノ
デアリマスルカ、私ハ此點ヲ當局ニ御伺ラ
致シタイト思フノデアリマス、殊ニ保健所ガ
國民保健ノ中樞機關トシテ、其意義ト使命ガ
重大視セラレル以上ハ、唯單ニ病魔豫防ニ
因ル醫事ノ保命ノ消極的施設ニ止マルコト
ナク、尙ホ一層進ンデ體育指導ニマデ進マ

ネバナラヌト考ヘルノデアリマスガ(拍手)
其點ニ付キマスル當局ノ御考モ承リタイト
思フノデアリマス(拍手)國民健康ハ正ニ國
家活動力ノ源泉デアリマシテ、國運進展ノ
基礎ヲ成スベキ絕對的要素デアリマス、國民
ノ體力上進ノ爲ニ積極的ニ働キ掛ケル契機
トセラレナケレバナラヌト思フノデアリマ
ス、此際政府當局ノ國民體育國策ニ對スル
爲政者トシテノ理想ヲ喚起セラレタイト存
ズルノデアリマスガ、本案ニ依ッテ十分ナリ
ト考ヘラレルノデアリマスルカラ、御伺ヲ
致シテ置キタイト思ヒマス(拍手)

殊ニ近時我國ニ於キマスル醫學ノ進歩發
達ハ、先進諸國ヲ遙ニ凌駕致シマスコト驚
嘆ニ値スルモノガアルノデアリマス、人口ト
醫師トノ割合モ、人口約千四百人ニ對シマシ
テ醫師一人ノ割トナッテ居リ、諸外國ニ比シ
テ醫師ノ數ガ必シモ少クハナイノデアリマ
ス、然ルニ一般衛生ノ劣惡ナル情勢ニ在リ
マスコトハ、從來ノ我國衛生行政ガ兎角警
察的取締ニ偏重シ勝チデアリマシタ弊害ニ
負フ所ガ大デアアルノデアアルマイカト思フ
ノデアリマス、本法案ノ如ク防病ノ指導事
業ヲ初メ、一般國民ノ健康相談並ニ體位向
上ノ指導ニ當ルベク、廣ク庶民ニ利用サセ
ル立前ノモノニシテ、所謂御役所氣質ノ臭
味ヲ除イデ、明朗ニ大マカニ運行セラレナ
ケレバナラヌト考ヘルノデアリマスガ(拍
手)其邊ノ御所見ノ程ヲ伺ヒタイト思フノ
デアリマス、更ニ保健所機能ヲ十分ニ發揮
セシムル爲ニ醫師、齒科醫師、藥劑師、衛
生指導員、公衆衛生看護婦等ヲ職員トシテ
配置セラレ、ニ當ッテ、體育方面ノ指導者ヲ
之ニ加ヘラレマスル意思ハナイカドウカト
云フコトデアリマス、現在醫療機關トノ圓
滿ナル提携ニ留意スル爲ニ、治療ノ域ニ進
マザルヤウニ規定セラレテアルト聞キマス
ルケレドモ、之ヲ明文化シテ置ク必要ハナ
イカト云フコトデアリマス、農村ニ主力ヲ
注グノデアリマスルケレドモ、都會ニ於テモ

第一讀會

是ハ忽セニスベカラザルコト考ヘルノデア
リマスガ、其安排ハ如何デアリマスカ、又經費
ノ點ニ付キマシテモ、如何相成シテ居ルノデ
アリマスカ、併セテ伺ヒ置キタイト思ヒマ
ス、尙ホ既存ノ保健相談所ノ如キモノニ對ス
ル方針モ明ニセラレタイト思ヒマス（拍手）
大體以上御尋ラ致シマシタコトハ、保健
所ニ對シマス當面ノ問題ダケデアリマスガ、
私ハ本保健所法ヲ制定セラレマシテ、治療
ノ方面ヲ健康保險組合ニ委ネテ行クモノデ
アツテ、保健所方治療ニマデ及バナイト致シ
マスナラバ、寧ロ一步ヲ進メテ之ヲ體育ノ
指導機關トスル立前カラ、體育問題ニ付テ
モ當局ノ御意思ノアリマス所ヲ伺ヒ置キ
タイト思ヒマス

國民體位ノ向上ノ爲ニハ衛生施設、教
育制度、國民生活ノ改善等、各種因子ノ十
分ナル綜合的成果ニ俟ツベキハ固ヨリデ
アリマスガ、其内體育運動ノ振興ト云フ
コトガ、飽マデモ中樞ノ重要性ヲ持ツモ
ノデアルコトハ、何トシテモ動カシ難イ
事實デアルト存ジマスルガ故ニ、此際聊
カ體育「スポーツ」界ノ現狀ニ言及致シマシ
テ、當局ニ御質疑ヲ致シタイト思フノデア
リマス、即チ我が日本ノ「スポーツ」界ノ飛
躍的發展振リハ、之ヲ單ニ「オリムピック」
競技種目ニ依ッテ見マシテモ、非常ナル發達
ヲ致シテ居ルノデアリマス、千八百九十六
年ニ希臘ノ「アゼンズ」ニ國際「オリムピッ
ク」ガ催サレマシテ以來、先回ノ柏林大會マ
デ數ハマスル、十一回ニ相成ッテ居ルノ
デアリマス、殊ニ我國ガ初メテ千九百十二
年「ストックホルム」大會ニ金栗、三島ノ兩選
手ヲ送りマシテ以來、七回ノ「オリムピッ
ク」大會ニ參加致シテ居リマスガ、其當初ノ成
績カラ見マス、洵ニ隔世ノ感ガアルノデ
アリマス、第九回ノ「アムステルダム」大會ニ
於キマシテ、織田ノ兩選手ニ依ッテ日章旗
ヲ掲ゲラレマシテカラ今日マデ三回デアリマス、
其間技術ノ上ニ、記録ノ上ニ、總テノ上ニ

隔世ノ感ガアルノデアリマシテ、殊ニ水泳
ニ於キマスル世界制覇ノ偉業ノ如キハ、眞
ニ世界ヲ驚歎セシメマシタモノデアルト言
ハナケレバナラスト思フノデアリマス（拍
手）此輝ヤカシイ此過去ニ對シマシテ、
懣テ、我が國民體位ノ現勢ヲ見マシタ時ニ
ハ、洵ニ憂慮ニ堪ヘナイモノガアリハシナ
イカト思フノデアリマス、即チ競技ニ於テハ
進歩シ、漸次技術ニ於テ發達ハ致シマシタ
ケレドモ、ソレト反對ニ國民ノ體位ハ非常
ニ下落ヲ致シテ居リマスコトヲ見逃スコト
ハ出來ナイノデアリマス、是ハ體育向上ヲ目
的トスル「スポーツ」ガ、必ズシモ體育向上
ノ目的トスルモノデナカッタ所カラ來ル缺
陥ガ、漸ク指摘サレリニ至ッタモノデア
ルマイカト思フノデアリマス、國民體位向
上ノ眞實ノ叫ビガ澎湃シテ「スポーツ」界
ニ擡頭シテ參ツタモノ見逃スコトノ出來ナ
イ事實デゴザイマス、今日體育運動ノ稱セ
ラレルモノノ中ニハ、最初カラ體育的ノ意
圖ノ下ニ作ラレマシタル體操ノ如キモノ
モ、極メテ自然ニ發達シタ運動ヲ後ニ體育
ノ手段トシテ採入シ、利用サレテ居ルモノ
ト、所謂「スポーツ」ノモノトガアルノデア
リマス、「スポーツ」ヲ樂シンデ居ル間ニ健
康ニナリ、活動能力ガ増大シ、生活ノ規律
ガ立テ來、其上精神ガ段々練レテ、公共的
ナ訓練ガ出來テ來ルト云フコトニナレバ、
實ニ結構ナコトデ、之ヲ體育運動トシテ取
上ゲ、助成獎勵ヲ行ハル、文部當局トシテ
ハ、飽マデモ之ヲ其目的ニ副ハシムルヤウ
眞ニ常ニ適切ナル指導、監理ヲ爲スベキ責
任ガアルト考ヘルノデアリマスガ、當局ハ
如何御考ニナツテ居ルノデアリマスカ、御伺
致シマス（拍手）國民體育ノ振興ノ最モ急務
トサレテ居リマス今日、政府ハ體育ニ關
シテ一層確固ナル國家ノ大方針ヲ立テ、之
ニ基キ十分正シキ體育運動ノ實施ヲ指導
促進スルコトガ必要デアリマシテ、是ガ爲
ノ行政機構ノ改革竝ニ改善等ニ考ラセラレ

ナケレバナラナイト思フノデアリマス、隨
テ今日行政機構ノ改革ヲ意圖セラレテ居リ
マスル政府ニ於キマシテハ、體育衛生省ノ
設置マデ進ンデ爲サル御意思ガアルカナ
イカ、御伺致シマス（拍手）
更ニ此目ノヲ達成致シマス爲ニハ、大學
ニ體育ヲ正科トセシムルト共ニ、更ニ進
デハ體育大學ノ設置ヲ企圖セラレマスル意
思ハナイカ、此點文部大臣ノ御意向ノアリ
マス所ヲ明ニセラレタイト思フノデアリマ
ス、尙ホ當今大日本體育協會ヲ初メ、其他
運動競技團體ニ於キマシテモ、體育問題ニ
付テ著シク關心ヲ増シマシテ、努力ヲ傾倒
セラレテ居リマスコトハ、洵ニ結構ナコト
ト思フノデアリマスガ、第十二回「オリム
ピック」東京大會モ招致開催セラル、此機會
コソ、國際競技ノ展開ヲ華トシテ、國民體
育振興ヲ實トシテ、全キ成果ヲ收ムベク、
當局トシテハ如何ナル方策ヲ有セラレマス
ルカ、又「オリムピック」大會ニ對シマシテ、
積極的ニ指導援助ヲ爲ス意思ガアリヤ否ヤ
ト云フコトヲ御伺致シタイノデアリマス（拍
手）尙ホ國民體位向上ノ叫ビハ、先程内務
大臣モ仰セナリマシタ如ク、單ニ運動團
體關係者ノミナラズ、非常時國軍ニ於テモ、
近年來徵兵検査ノ結果ニ現レマシタル壯丁
ノ體位ノ下落ニ對シマシテ、大ナル關心ヲ
持ッテ居ラレルト云フコトデアリマス、軍部
ハ勿論、各方面ニ於キマシテ、此問題ニ對
シマシテハ、大ナル衝動ヲ與ヘテ居リマス
ルガ爲ニ、私ハ茲ニ昭和十年度ニ於キマス
ル徵兵検査ノ結果ヲ示シマシタル統計ヲ持
合セテ居リマスカラ、是ハ議長ヲ通ジマシ
テ速記録ニ殘シテ置キタイト思フノデアリ
マス

此國策ヲ徹底サレマスルナラバ、社會政策
ノ數多ノ件モ、亦之ニ依ッテ解決セラルベキ
モノデアルト考ヘルノデアリマス、尙ホ統計
ノ示スガ如ク、貧弱ナル狀態ニアリナガラ、
一般ノ關心トナラナイト云フノハ、一ツハ我
國ガ幸カ不幸カ、國民體力ノ極限マデ試メ
ス大試練ニ遭遇シナカッタ結果ニ外ナラス
思フノデアリマス、即チ體力、精神力ノ最大
試練ハ、戰爭ヲ外ニシテハ求メ難イモノガ
アルノデアリマス、過去ノ總テノ戰爭ハ、
幸ニ何時モ皇軍ノ優秀ナル壯丁ノ體力ト智
力ニ依ル大捷デアリマシテ、勿論國民ノ熱烈
ナル愛國的精神力ヲ後援トシテ居ッタニハ
違ヒアリマセヌケレドモ、國民總動員ノ大
試練ハ受ケテ居ナイノデアリマス、是ハ他
ノ歐洲大戰ノ慘禍ノ背後ヨリ盛返シツ、ア
リマスル諸國ハ固ヨリ、諸外國ノ實ニ旺盛
ナル體育運動ノ興隆ガ、勿論軍備ノ充實ニ
勢ヨリ考察致シマシテ、政府ハ此國防ト生
活安定ノ大目的ノ爲ニ、體育衛生省ノ設置
ニ依ル庶政刷新ノ先鞭ト致サレル決意ヲ有
セナケレバナラヌト思フノデアリマス、是
ハ特ニ林總理大臣ヨリ御意見ヲ承リタイト
思ヒマス（拍手）

以上申述ベマシタ如ク、國民保健、體位
向上ノ問題ハ、文武、農工商、何レノ部門ヲ
問ハズ、貧富、上下階級ノ別ナク、個人ト
シ且ツ社會人トシテ、一樣ニ意願スベキ幸
福ノ根源トナルモノデアリマスルガ爲ニ、
最後ニ世界ノ祭トシテ、全世界ノ若人ノ
熱ト、純情ト力ヲ奮ヒ起タセマシタ國際「オ
リムピック」第十二回ノ開催ヲ東京ニ愈
決定サレタノデアリマス、當時ノ我が國民
ノ熱意ハ世界ヲ動カシ、珍シク國民外交ノ
成功トシテ狂喜シタノデアリマシタガ、爾
來半歲ヲ經過致シマシテ、「オリムピック」組
織委員會ガ實行計畫ヲ立テ、體育協會初メ
運動團體關係者ガソレムノ立場ヲ準備ハ
致シテ居ルノデアリマスガ、今日兎角ノ批
評ノ中ニモ、概括的ナ成果ヲ得タト言ヘレ
マスルケレドモ、其内容ノ專門的進歩ニ當
テハ、經費ノ點デ全ク委員會ノ自縛自縛ニ
陷ッテ居ル狀態デアルト聞キマスガ、其點ニ
對シマシテ如何ナル御考ヲ持ッテ居リマス

カ、若シ然リト致シマスルナラバ、政府ニ於テモ委員ヲ出シテ是ガ機構ニ參ジテ居リマスル以上ハ、實情ヲ十分ニ精査シテ、總費額ノ増加ヲ國庫、其他ノ補助豫算ニ立テテ何故議會ニ協賛ヲ求メラレマセヌカ、私ハ此點ヲ明ニセラレタイト思フノデアリマス（拍手）

「オリムピック」大會ハ單ナル國際競技タルニ止ラズ、主催國ト致シマシテハ、其國民精神カラ、其文化全般ニ互ッテ、國家ハ能力ノ試練ニ於テ、大イニ國威ヲ世界ニ發揚スベキ歴史の大事業デアリト思フノデアリマス（拍手）前回獨逸ガ經濟的危機ニ立ッテ、尙ホ彼ノ大施設ヲ行ヒマシタモノハ、結局國家興隆ノ意識ヲ宣揚シタニ外ナラスト思フノデアリマス、而モ我國ハ皇紀二千六百年祭ヲ理由ニ、世界ノ賓客ヲ集メ、少クトモ其前後ニハ世界ノ視聽ヲ集メテ、所謂名譽ノ孤立アル邦家ノ眞ノ姿ヲ示スベキ、此天與ノ機會ヲ空シクスルハ、何ト致シマシテモ私共ノ愛國心ガ容サス所デアリトデアリマス、私ハ國民代表ノ府タル議會ニ於キマシテ、此國家の大事業ノ翼賛ヲ議シ、明治神宮外苑ノ聖域ヲ完備シテ、我國青年ノ士氣ヲ鼓舞致シマスル源泉タル永久ノ道場トシテ、一方大乗のニ之ヲ國民體位向上ニ資スル絶好ノ機ト信ジマスルガ故ニ、議政壇上ヨリ篤ト政府ノ經綸ヲ抱負ヲ質シタイト思フノデアリマス（拍手）

以上申上ゲマシタコトハ、ソレトノ御所管ノ大臣、竝ニ政府委員ヨリ御答ヲ得タイト思ヒマスルガ、折角國民保健ノ向上ヲ圖リ、體育國策ノ根本ヲ立ツル目的ノ爲ニ、保健所法案ヲ提出セラレタノデアリマスルカラ、其發揚ノ爲ニモ、十分ナル御答ヲ戴キタイト存ジマシテ、右ノ御質疑ヲ致シタヤウナ次第デアリトデアリマス（拍手）

（國務大臣河原田稼吉君登壇）
○國務大臣（河原田稼吉君） 第一ノ御尋ハ、此保健所ノ現在ノ計畫ヲ以テ十分デアアルカ

ドウカ、斯ウ云フ風ニ諒承致マシタガ、理想トシテハ尙ホ進シデモト致シタイノデアリマスガ、取敢ズアノ程度ニ止メザルヲ得ナイノデアリマス、尙ホ進シデ體育指導マデ實行スルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、指導員ヲ置クマデニハ至リマセヌガ、學校衛生官トカ、或ハ青年團トモ連絡ヲシマシテ、十分ニ此方面ニモ働カセルヤウニ致シタイト思ヒマス

第二ニ此保健所ノ施設ヲ成ベク役所のデナク、民衆的、一般的ニ明朗ニヤレ、斯ウ云フ御意見デアリマシタガ、全ク御同感デアリマシテ、出來ルダケサウ致シタイト思ヒマス

第三ニ農村バカリデナク、都會ノ方ヘモ注意セヨ、斯ウ云フ御意見デアリマシタガ、是亦全ク御同感デアリマシテ、此設置ノ趣旨モ單ニ農村バカリデナク、殊ニ都會ニ於キマスル段々體格ノ劣弱ニナルト云フコトニ付キマシテ、十分ナル注意ヲ致サセタイト思ヒマス

第四ニ保健所ハ治療ヲスルカドウカト云フ御尋ノヤウニ伺ヒマシタガ、是ハ他ノ醫師トノ關係等モアリマシテ、治療ノ方マデ手ヲ出スコトハ如何カト思ヒマス、唯衛生健康ニ付キマシテ、現存ノ相談所ト十分連絡ヲ取ッテ、一般ノ保健ニ邁進致サセタイト思ヒマス

第五ニ體育運動ノ振興ト云フコトニ付キマシテハ、是亦全ク御同感デアリマシテ、今日一般國民バカリデナク、工場、鑛山等ニ於ケル従業員ニ對シテモ、種々ナル勸奨手段ヲ執リマシテ、此方面ノ獎勵ニ努メテ居ルノデアリマス

第六ニ體育振興ニ付テノ行政機構ヲ改革シテ、或ハ體育衛生省ト云フヤウナモノヲ作ル意思アリヤ否ヤト云フコトデアリマスガ、是ハ先程御答致シマシタヤウニ、重大ナル問題デアリマスノデ、今日マダ御答ヲ致シマスル時機ニ到達致シテ居リマセヌ

第七ニ體育大學ヲ設置スル意思アリヤ否ヤト云フ問題ニ付キマシテモ、今日マダ其意思アリト云フヤウナ御答辯ヲ致ス時機ニ達シテ居ラスノデアリマス、體育向上、壯丁體位ノ劣弱ニ陥ルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、是ハ國家トシテ重大ナル問題デアリマスカラ、各種ノ機關ヲ動員致シマシテ、體位ノ向上ト云フコトニ付キマシテ、十分ナル注意ト努力ヲ致シタイト思ヒマス（服部崎市君登壇）

○服部崎市君 先程御尋ヲ致シマシタ中、直接保健所法案ニ關シマスル質疑ノ點ニ付キマシテハ、大體內務大臣ノ御答辯ニ依ッテ諒承ヲ致スノデアリマス、併ナガラソレニ關聯致シマシテ、眞ニ保健所ノ機能ヲ十分ニ發揮致シマスルノニハ、進シデ體育指導ニマデ至ラナケレバナラスト言及致シマシタコトニ對シマシテ、御答ガナカッタヤウデアリマス、殊ニ第十二回東京、オリムピック大會ニ對シマスル政府ノ方策ノ片鱗スラ伺フコトノ出來ナイコトヲ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス（拍手）是ハ今日伺フコトガ出來マセヌバ、適當ナル機會ニ於テ御答辯ヲ戴キタイト思ヒマスルシ、尙ホ其機會ガアリマセヌ場合ハ、書面ヲ以テモ御答ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、殊ニ現時ノ「スポーツ」界ノ現狀ヲ見マシテモ、全ク自由放任ニセラレテ居リマスル結果ト致シマシテ、曩ノ亞米利加ノ大會ノ如キモ、亦獨逸ノ大會ノ如キモ、其大會デ大ナル成績ヲ收メマシタニ拘リマセズ、其結果ニ於テ色々ナル非難ガ起リテ居ルノデアリマス、是ハ政府ガ「スポーツ」ノ統制ヲセズ、餘リニ之ヲ放任シテ居ラレマスル結果ニ外ナラ

スト思フノデアリマス、隨テ政府ハ「スポーツ」ヲ統制スルト云フコトハ、是ハ或ル意味ニ於テ考ヘナケレバナラスカト存ジマスガ、善キ意味ニ於テ之ヲ指導シ、善キ意味ニ於テ之ヲ統制シテ、國家ガ助長發達サセルト云フコトニ指導シナケレバナラスト

考ヘルノデアリマスガ、其點ニ對シテ今少シク御所見ノアリマスル所ヲ伺ッテ置キタイト思フノデアリマス（拍手）

（國務大臣河原田稼吉君登壇）
○國務大臣（河原田稼吉君） 體育ノ指導ニ關スル保健所ノ働キニ付キマシテハ、先程私ガ御答致シマシタヤウニ、特ニ指導員ヲ置クマデノ施設ニハナッテ居リマセヌガ、青年團トカ、或ハ學校衛生官等ト特ニ連絡ヲ保チマシテ、體育ノ指導ト云フコトマデモ努メサセタイ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス、「オリムピック」ノ問題ハ、是ハ私ガ御答ヲ落シマシタ、段々研究竝ニ實施ノハ其他ノ機關ニ於テ、著々研究竝ニ實施ノ歩ヲ進メテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ私ヨリモ文部省ノ政府委員カラ御答スルノガ便宜ト思ヒマスカラ、思召ノ趣旨ハ能ク傳ヘテ、適當ノ機會ニ御答辯致サセルコトニ致シタイト思ヒマス、其外「スポーツ」ノ問題ニ付キマシテモ、是亦同様デアラウト思ヒマスカラ、是等ノ點ハ能ク申傳ヘテ置キマス

○服部崎市君 只今ノ御答辯デアリマスガ、私共ノ開イテ居リマスルノニハ、オリムピックノ組織委員會ニ對シマシテ、各省ノ次官ガ參加致シテ居ラレト云フコトデアリマス、之ニ參加シテ居ラレマスケレドモ、ソレハ名ノミデアリマシテ、實際ニ積極的ノ協力ヲ致シテ居ルト云フ風ニ見エナイノデアリマス、或ル場合ニ於テハ費用ノ點ニ於テ、或ル場合ニ於テハ責任ノ轉嫁サレルト云フ恐レテ、積極的デナイト云フ非難ガアリマスカラ、十分其點ハ御注意ヲ願ヒタイト思ヒマス、之ヲ以テ私ノ質疑ヲ終リマス（拍手）

○議長（富田幸次郎君） 中井一夫君（中井一夫君登壇）
○中井一夫君 私ハ現ニ御上程ニ相成ッテ居リマスル國民保險法案外數件ニ關係致シマシテ、其案自體竝ニ我國ノ保健衛生ノ一般ニ關スル問題ニ付テ、政府ニ數箇ノ質問

ヲ致サントスル者デアリマス

先づ本案提出ニ至リマスルマデノ間ニ於キマスル政府ノ態度ニ付テ政府ノ所信ヲ質サネバナラヌモノガアルト存ズルノデアリマス、本案ガ本議會ニ提出セラレマシタ後、本月ノ四日ニ全國ノ醫師ガ上野ニ於テ其大會ヲ開キテデアリマス、然ルニ其タ方頃ニ警視廳ヨリ吾々議員ノ旅宿ニ警官ヲ派遣セラレマシテ番頭ニ告ゲラレテ曰ク、醫師ノ團體ガ出テ來テ議員ニ面會ヲ強要スルカモ知レナイ、左様ナラシメテ態度ガアルナラバ、直チニ最寄リノ交番ニ申出ヅベシ、斯様ナコトヲ告ゲラレテ行カレタデアリマス、固ヨリ吾々ハ此警視廳ノ態度ヲ以チマシテ、吾々議員ノ身邊ニ萬一ノコトナカラシメンガ爲メ御配慮ノ結果デアルトハ思ヒマスケレドモ、假ニモ醫師ハ仁術ヲ行フノ國手トシテ自ラ任ジテ居ルモノデアリマスルシ、四日上野ニ開カレタ所ノ大會ノ終始ト云フモノハ、甚ダ平穩無事デアッタデアリマス、然ルニ之ニ對シテ政府ガ仁術ヲ行フ國手ヲ以テ任ズル所ノ醫師ニ對シテ、暴力團同様ノ態度ヲ以テ臨マレト云フコトハ、果シテ如何ナモノデアラウカ、私共ハ率直ニ申スナラバ、内務當局ノ非常識ナルニ驚カザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)而シテ本日民政黨ノ青木君ノ御質問ニ對シマシテ、内務大臣ハ本案ノ最モ問題ニナツテ居ル所ノ重點デアル第九條ノ産業組合ヲシテ、此保險組合ノ事業ヲ代行セシメルト云フ此一點、是ハ當初政府ノ内ニアリマスル所ノ調査會等ニ諮問シタ所ノ案ノ中ニハナカッタケレドモ、其後考ヘル所アツテ之ヲ附加スルニ至ツタデアル、唯斯ノ如キ附加ヲ致シテモ、何等問題ガ起ラナイデアアラウト思ツタカラ、之ヲヤツタノダト言ハレタデアリマス、然ルニ問題ハ現ニ起ツテ居ルデハアリマセヌカ、從來政府ガ政府部内ノ調査會ニ諮問セラレタダケデナクシテ、政府部外ノ醫師會其他ノ方面ニ御發表ニナリ

マシタル案ニハ、第九條ニ關スル規定ト云フモノハ一ツモナカッタデアリマス、昨年ノ年末ニ至ツテ、農林當局ト産業組合方面ノ熱烈ナル要求運動ノ結果、此一項ヲ加ヘラレタノデアリマシテ、而モ醫師側ノ方面カラ度々内務當局ニ對シテ其實アリヤ否ヤヲ尋ネ合セマシタノニ、常ニ政府ハ祕シテ之ヲ語ラレナカッタ云フ事實ガアルノデアリマス(ヒヤ)隨テ本案第九條ノ關スル限リハ、内務省案ニアラズシテ、農林省案デアリ、産業組合法案デアルト申シテ差支ナイと思フデアリマス(拍手)既ニ政府ガ保險組合法ヲ企圖致サレマシタ際ニ於テナカッタ所ノ第九條、今日只今之ヲ削除スルト云フコトヲ天下ニ聲明シテ、目下非常ナル國民間ニ悲シムベキ摩擦ノ起ツテ居リマスルコトヲ、多少デモ緩和スルコトガ出來ルナラバ、却テ國家ノ爲デアルト信ズルノデアリマスルガ、政府ノ所見如何デゴザイマセウ(拍手)而シテ先程申述べマシタ所ノ警察官ノ非常識ナル態度、竝ニ内務大臣ノ青木君ニ對スル無責任ナル御答辯、役人サヘ自ラ之ヲ行フナラバ必ズ何事モ圓滿ニ出來ルト云フ御考ガ、今日只今斯ノ如キ紛糾ヲ來スニ至ツタ云フ所以ヲ深ク考ヘマシナラバ、官僚獨善デハ斷ジテ天下ノ政治ハ圓滿ニ行ヘナイト云フコトガ御分リニナツタコトデアアラウト思フデアリマス(ヒヤヒヤ)(拍手)

本案自體ノ問題ニ付キマシテハ、既ニ同僚諸君カラ有ユル方面ニ互ツテ御質問ガゴザイマシタ、私ハ其細カキ各個ノ問題ニ付テハ、之ヲ此壇上ニ於テ御尋スルコトヲ遠慮致シマス、唯併シ重要ナル一二點ガ殘サレテ居ルト思ヒマスカラ、此點ダケヲ御尋致シタイト思フデアリマス、即チ諸君モ御承知ノ通り、明治三十年ニ傳染病豫防法ト云フモノガ制定サレマシタカラ、我國ノ各地ニ衛生組合ト云フモノガ設立サレマシ

ラズ、所謂隣保共助ノ實ニ麗ハシイ民間ノ重要ナル使命ヲ果ス所ノ機關ト相成ツテ居ルノデアリマス、併ナガラ此組合ト云フモノハ、唯單ニ各府縣令ニ依ツテ定メラレルト云フコトデゴザイマシタカラ、十分ニ其機能ヲ發揮スルコトガ出來ナカッタデアリマス、是ガ爲ニ是等ノ關係當路者ハ獨立ノ衛生組合法ト云フモノヲ制定致シテ、此衛生組合ニ法人格ヲ與ヘ、益々國家ノ爲ニ其機能ヲ擴大強化シテ、一層活躍セシメタイトノ永年ノ希望ガゴザイマシタ、此數年來政府ニ對シテ常ニ其要求ヲ致シテ居ルノデアリマス、衛生局ニ於キマシテハ、其主張ヲ道理アリトセラレマシテ、數年前ニハ衛生組合法ノ制定ニ著手スル爲ニ、相當ノ用意ヲモ整ヘラレタト承ツテ居ルノデアリマスルガ、此問題ガ内務省ノ地方局ニ廻リマシタ際ニ於テ、地方局デハ我國ノ此地方自治制度ノ體系ト云フモノハ、一方ニ府縣制ガアツテ、一方ニ市町村制ガアル、此二ツノ地方自治制度ノ相立致シテ居ルト云フコトガ、其體制ノ根本ナノデアルカラ、其市町村ノウチラニ更ニ又一ツノ法人格ヲ持ツ所ノ獨立シタル組合ガ出來ルト云フコトハ、我國ノ地方自治ノ體制ヲ紊スコトニナルカラシテ、許可スルコトハ出來ヌトノ御意見ガ現ハレマシテ、是ガ爲ニ衛生組合法制定ノ計畫ト云フモノハ、中途デ挫折ヲ致シタコトガアルノデアリマス、然ルニ本法ヲ見マスルト、吾々ガ永年其必要ヲ唱ヘテ來テ居リマシタ所ノ、所謂衛生組合法案ヨリモ、更ニ一歩進メラレタモノデアリマシテ、地方自治體デアル所ノ市町村ヲ一單位トシテ、之ニ此保險組合ヲ作ラシテ、サウシテ其人民ヲ擧ゲテ組合員トナラシメテ、之ニ獨立ノ法人格ヲ與ヘラレト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、然ラバ若シ衛生組合法ノ制定ヲ以テ、地方自治體ノ體制ヲ紊スト云ハレルナラバ、此法案ヲ成立セシメルト云フコトニ依ツテ、更ニ一層政府當

局ノ管テ言ハレテ居ツタ、地方自治體ノ體制ヲ紊スト云フ結果ニナラナケレバナラヌト思フノデアリマス、政府ハ果シテ從來執ツテ居ラレマシタ所ノ、此地方自治體ノ體制ニ關スル御方針ヲ、御拋擲ニ相成ツタデアリマセウカドウカ、若シ然リト致シマスナラバ、此際更ニ歴史アリ、最モ我國ノ爲ニ貢獻致シテ參リマシタ所ノ、衛生組合ト云フモノニ對シテモ、獨立シタル法人格ヲ與ヘテ、衛生組合ト云フモノヲ制定シテ、其機能ヲ擴大強化シテ、益々國家ノ爲ニ活躍セシメルト云フコトノ御計畫ヲ立テラレルノ御意思ナキヤ否ヤ、此點ヲ承ツテ置キタイト思フノデアリマス

次ニハ保險料徵收ノ問題ニ付デアリマス、本法ノ制定ノ目的ト致シマシテハ、第一條ニ「相扶共濟ノ精神ニ則リ」ト云フコトヲ明ニサレテ居ルノデアリマス、然ルニ本法ノ保險料其他ノ徵收金ニ付キマシテハ、之ヲ滯納スル者ニ對スル處分規定ガ、第八條ニ明記サレテ居リマス、之ニ依レバ此滯納者ニ對シテマシテハ、市町村ハ市町村稅ノ例ニ依ツテ、之ヲ處分スルコトガ出來ルト云フコトニナリ、更ニ進ンデハ組合自體モ同様ノ處分ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、此事ハ即チ滯納者ニ對シマシテハ、國稅徵收法ノ例ニ倣ツテ、其處分ヲスルト云フコトデゴザイマスカラ、即チ茲ニ本法制定ノ目的ト其運用ノ上ニ於キマシテハ、非常ナル矛盾ガ起ルノデハナイカト思フデアリマス、僅ナル保險料サヘ滯納スル程ノ者ガ、金持デナイコトハ明デアリマス、貧乏ナルガ故ニ保險料ヲ納ムルコトガ出來ナイノデアル、又病氣ナルガ故ニ保險料ヲ納ムルコトガ出來ナイ者モ多クアルデアアラウト思ヒマス、之ニ對シマシテ此法案ト云フモノハ、直チニ何等ノ裁判上ノ手續ニ依ラズシテ、其者ノ財産ヲ差押ヘルコトガ出來ルト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、鍋釜釜毛蒲團ヲ毛剃

取ルコトガ出來ルト云フコトヲ、此法案ハ
明定ヲ致シテ居ルノデアリマス、私ハ疑ヒ
マス、此法案ヲ實行スルガ爲ニハ、斯様ナ
ル氣ノ毒ヲ助ケテヤラネバナラス所ノ者ニ
對シテ、高利貸サヘスルコトヲ憚ルガ如キ
態度ヲ、直チニ市町村若クハ組合ガ爲シ得
ルト決メナケレバ、此組合ノ維持、此組合
ノ事業ノ運轉ト云フコトガ出來ナイト云フ
コトデアリナラバ、果シテ本法ヲ以テ現内
閣唯一ノ社會立法デアリ、本法第一條ニ定
ムル相扶共濟ノ精神ニ依ツテ、是ガ出來タモ
ノト言ヒ得ルデアラウカドウカ、私ハ殘酷
ナル徵收規定ノ如キハ、正ニ本法ノ精神カ
ヲ見マシテモ、之ヲ創除スルコトガ、本法ノ
精神ニ合スルモノデアルト思フノデアリマス
ガ、政府ノ所見ハ如何デゴザイマス(拍手)

次ニ御同致シタイト思ヒマスルコトハ、
本法ト產業組合ニ關スル問題デアリマス、
先程同僚議員ノ御質問ニ對シマシテ、小平
政府委員ハ、產業組合ハ賣藥營業ヲヤツテ
居ナイト、御答ニナツタト承知ヲ致シマシタ、
小平政府委員ノ御答辯ハ誤デアルカ、然ラ
ズンバ嘘デアルト云フコトヲ、私ハ茲ニ斷
言ヲ致シマス、此處ニアリマスルモノハ、全
國購買組合聯合會カラ配置セラレマスル所
ノ所謂配置賣藥、各戸ニ就テ此箱ニ色々ナ
藥ヲ入レマシテ、サウシテ斯ノ如ク澤山ア
ルノデアリマス、是ハ一切ノ各方面ノ藥ガ
入ッテ居ルノデアリマス、斯ウ云フコトヲ全
國購買組合聯合會ガ現ニヤツテ居ル、麗々シ
ク此處ニ全國購買組合ノ組合家庭藥ト書イ
テアルノヲ、小平政府委員御承知ニ相成ラ
ヌノデアルカ、此事ハ既ニ度々問題ニナツタ
ノデアリマシテ、農林當局トシニモ御承知
ニナラス筈ハナイノデアリマス、然ルニ此
議會ニ於キマシテ、未ダ尙ホ之ヲ否認サレ
ルト云フコトハ、ソレダカラ農林省ト云フ
モノノ態度ガ、餘リニ偏頗デアリ、不公平
デアルト云フ非難ヲ免レナイト云フコトヲ、
能ク御考ニナラナケレバナラヌノデアリマ

ス、而モ内務大臣ハ更ニ此點ニ付キマシテ
取締ヲドウスルカ、又此產業組合ニ關スル所
管ヲ内務省ニ移シテハ如何ト云フヤウナ問
題ニ付キマシテモ、トント餘リ多クノ關心
ヲ持タレナイヤウデアリマス、併ナガラ此
產業組合ノ賣藥營業ト云フコトニ付キマシ
テハ、農林省ノ問題デアツテ、内務大臣ノ知
ル所デナイト云フ譯ニハ參ラヌコトガアル
ノデアリマス、產業組合ノ主管ト云フモノ
ハ、成程農林省ニアルコトハ固ヨリデアリ
マスルケレドモ、賣藥營業法並ニ之ニ關ス
ル所ノ取締規則ト云フモノハ、一切内務大
臣自身ガ主宰サレナケレバナラスノデア
ル、全購聯ハ此賣藥ヲ自ラ造ラシテ、サウシ
テ之ヲ各戸ニ配置シテ、先程同僚諸君ガ言
レタ所ノ、既ニ賣藥營業者ガ配ッテ居ル其藥
ヲ、青年團ナドヲ使ウテ、利益ノ一割若ク
ハ二割ヲ青年團ニ與フルト云フ約束ノ下ニ、
強制的ニ之ヲ取上ゲテ、サウシテ商人ニ返
スト云フガ如キ、殘酷ナ亂暴ナヤリ方ヲ致
シテ居ルノデアリマス、是レ正ニ營業ノ妨
害ニアラズシテ何ダ、又全購聯ガ賣藥營業
ヲスルガ爲ニハ、賣藥法ニ依リマシテ、當
該官廳ノ許可ヲ得ナケレバナラスト云フコ
トハ法律ノ明定スル所デアリマス、若シ一
商人ガ無許可ノ儘ニ賣藥營業ヲヤリマスル
ナラバ、政府ハ一體如何ナル態度ヲ以テ之
ニ臨ンデ居ラレカ、直チニ嚴罰デアアル、
直チニ拘引デアアル、然ルニ私ハ敢テ言フ、
橫暴ナル大資本家デアリ、大財閥デアアル所
ノ全購聯ガ之ヲ爲ス場合ニ於テ、内務大臣
ハ其法律ノ適用サヘモスルコトガ出來ナイ
ト云フコトデハ、一體世ノ中ノ治安ト云フ
モノヲ、何ニ依ッテ維持スルコトガ出來ル
デアアルカ、此點ニ付テ内務大臣ハ責任ノア
ル御答辯ヲ爲サレナケレバナラスト思フノ
デアリマス、吾々ハ固ヨリ國民ノ一人ト致
シマシテ、產業組合ガ農村救済ノ爲ニ立上
テ、大イニ事ヲ爲スコトニ對シ、決シテ異
議ヲ言フ者デモナケレバ、反對スル者デモ

ナイノデアリマスケレドモ、政府ガ之ニ對
シテ多額ノ金ヲ與ヘ、有ユル特點ヲ與ヘテ
居リマス所以ノモノハ、農村助カレト云
フ趣旨ニ外ナラヌケレドモ、斷ジテ之ニ依
テ農民ノスベカラザル商賣ヲ自ラ致シテ、
商人ヲヤツテ付ケト云フ趣旨デナイコトヲ確
信致スノデアリマス(拍手)故ニ私ハ此際產
業組合ノ亂暴ナル、其埒ヲ脱シマシタ所ノ
ヤリ方ニ付キマシテハ、單ニ是ハ農林省ノ
所管デアアルカラ、俺ハ知ラヌト云フヤウナ
コトヲ言ハレルトコトハ、甚ダ以テ怪シカラ
ヌ御態度デアルト私ハ思フノデアリマス、
本案自體ニ關シマスル問題ニ付キマシテハ、
其詳細ヲ委員會ニ讓ッテ質問致シタイト思
フノデアリマス

是ヨリ數點我國ノ保健衛生ノ一般ニ關シ
マスル問題ニ付テ御尋ヲ致シタイト思ヒマ
ス、其一ツハ公娼廢止ノ問題ニ付デアリ
マス、今度ノ御提案ニ相成リマシタ法案ノ
中ニハ、結核豫防ニ關スル改正法律案ガ出
テ居ルノデアリマスルガ、我國ニ於ケル國
民病トシテ數過スルコトノ出來ナイノハ、
一ツハ結核デアルト同時ニ一ツハ花柳病デ
アリマス、政府ハ結核豫防ノ爲ニハ、本議
會ニ二百萬圓餘ノ豫算ヲ要求シテ居ラレ
ルノデアリマスルケレドモ、其餘ノ花柳病ニ
關スル問題ニ付キマシテハ、殆ド施設ノ見
ルベキモノガナイノデアリマス、此點ニ付
テ政府ハ將來如何ナル態度ヲ以テ臨マルン
トスルカ、從來ノ如ク唯單ニ警察官ヲシテ
賣淫者ヲ引ッ括ラシメルト云フコトダケデ
ハ、此問題ヲ解決スルコトハ出來ナイト思
フノデアリマス、常ニ結核ノ問題ニ付テ、
是マデ積極的ノ態度ヲ執ラレタ以上ハ、他
ノ一ツノ國民ノ禍ヒニ付テモ徹底シタル方
策ヲ講ゼラルベキモノデアルト思フノデア
リマス、公娼廢止ノ問題ハ、即チ此問題ニ
關係致シマスルコトハ申上ゲル迄モナイノ
デアリマスルガ、之ヲ廢止スルガ宜イカ
否カト云フコトニ付テノ論議ハ、既ニ久シ

イ間ノ問題デアリマス、而シテ内務當局ハ
既ニ數年以前ニ於キマシテ、之ヲ廢止スル
ノ計畫ヲ立テラレタノデアリマスケレドモ、
遂ニ中途ニシテ此計畫ハオ流レニ相成ツテ
シマウタノデアリマス、併ナガラ私ノ思ヒマ
スル所ニ依リマスルト、公娼ヲ廢止シテモ
斷ジテ私娼ヲ根絶セシムルコトガ出來ナイ
以上ハ、我ガ國民ノ風紀衛生ノ上カラ見テ、
公娼ヲ廢止スルコトハ、單ニ内務省ノ若手
ノ役人衆ノ御考ニナツテ居ルガ如キ、外國人
ニ對スル體面上之ヲ爲サネバナラスト云フ
ヤウナ簡單ナ輕薄ナル考ヨリシテ、之ヲ斷
行スベキモノデナイト思フノデアリマス、
隨テ此問題ノ解決セラレマスルガ爲ニハ、
先以テ私娼ニ對スル對策ト云フモノヲ速ニ
立テラレル必要ガアリ、而シテ後此問題ニ
手ヲ染メスルベキモノデアルト信ズルノデ
アリマスルガ、此點ニ付キマシテ内務大臣
ノ御所見如何デゴザイマスルカ、之ヲ承ッ
テ置キタイト思ヒマス

次ハ醫療ト迷信ニ關スル問題デアリマス、
病者ニ對シマシテ禁厭トカ祈禱ナドヲ致シ
テ、神符、神水ナドヲ與ヘマシテ、其醫療
ヲ妨ゲマスルコトハ、警察犯處罰令ノ嚴禁
スル所デアリマス、然ルニ現在營利ノ爲ニ
スルノ如キコトヲ致ス者ガ、都鄙到ル處ニ
アルノデアリマシテ、現ニ數日前是ガ爲ニ我
ガ帝都ノ眞中ニ於テ、氣ノ毒ナ無智ナル
男子ヲ慘殺致シタト云フ事例ノ如キモゴザ
イマシテ、此弊害ハ甚ダ甚大デアアル、一
日モ早ク之ヲ矯正シナケレバナラスモノガ
アルト思フノデアリマス、所謂迷信、之ヲ根
絶セシメマスルコト云フコトハ、單ニ國民醫
療ノ爲バカリデナクシテ、國民精神ノ健全
ノ爲ニモ必要デアルト存ズルノデアリマス
ガ、内務大臣ノ御所見如何デゴザイマス
ルカ、其御所見ヲ承リタイト思ヒマス

次ハ醫學博士ノ學位ノ授與ニ關スル問題
デアリマス、學位授與ノ狀態ヲ昭和十年ノ
統計ニ見マスルト、法科、文科、工科、農科、

其他ノ部門ニ於キマシテハ、少キハ一人、多キモ一年ヲ通ジテ四十名ニ足ラスノデアリマスルケレドモ、獨リ醫科ノ部門ニ於キマシテハ、實ニ九百人ノ多キニ及ンデ居ルノデアリマシテ、是ハ正ニ一日ニ三人餘ノ醫學博士ガ出來テ參ルト云フコトデアリマス、固ヨリ醫科ハ他ノ分科ト異リマシテ、研究題目ガ非常ニ多イデアリマスカラシテ、自然他ノ分科ヨリ學位ヲ受ケル者ノ多イコトハ、私モ亦之ヲ承知シテ居リマスケレドモ、從來ノ實情ニ見マスルト、少クトモ論文ノ審査ニ付テ、學位授與ノ點ニ付テ、嚴正ト慎重トヲ缺ケルモノノアルコトヲ否ムコトハ出來ナイノデアリマス、現ニ此學位授與ノ問題ニ關係致シマシテ、昨年長崎醫科大學ニ起リマシタ不正事件ノ如キ其一例デアリマシテ、吾々國民ハ唯博士トサヘ云フナラバ、無條件デ之ヲ信賴スルト云フ氣風ガアルノデアリマスカラシテ、學問ノ權威ノ爲ニモ、此博士號ノ授與ト云フコトニ付テハ、政府ハ格段ノ注意ヲ監督セテラレテ、殊ニ醫學博士ノ問題ニ付キマシテハ、嚴重ナル態度ヲ以テ臨マルベキデアルト信ズルノデアリマスルガ、内務大臣ノ國務大臣トシテノ立場ヨリ御所見ヲ承リタイト存ジマス

終リニ御導致シタイコトハ、斷種法ノ制定ニ關スルコトデアリマス、即チ精神病其他遺傳的ノ惡疾ヲ有シマスル人間ガ、國家社會ニ流シマス所ノ害毒ト云フモノハ、如何ニ甚大デアルカト云フコトハ申ス迄モナイノデアリマス、隨ヒマシテ斯ノ如キ人間ノ種ヲ斷絶セシメルガ爲ニ、又之ニ依ッテ國民全體ノ健康ヲ増進セシメルノ資ト致シマスルガ爲ニ、所謂斷種法ト云フモノガ、米國獨逸其他ノ國々ニ於キマシテ行ハレテ居ルコトハ申ス迄モナイノデアリマス、而シテ最近我國ニ於キマシテモ、政府ハ此斷種法ヲ制定スルガ爲ニ、種々調査研究ヲシテ居ラレト云フコトヲ承リマス、又或

者ハ恐ラク近イ議會ニ、此法律ヲ提出セラレルノ意思ガアルデアラウトマデ言フ者ガアルノデアリマス、此際政府ハ其所見ヲ明ニ致シマシテ、サウシテ此問題ノ解決ニ付テ如何ナル意思ヲ持ッテ居ラレルカ、之ヲ承リタイト思フノデアリマス

以上數點、各方面ニ互ッテノ質問デゴザイマスケレドモ、此際御答辯ヲ仰イデ、更ニ不審ノ點ガアリマシタナラバ、改メテ御尋ヲ致スコトニ致シマス(拍手)

(國務大臣河原田稼吉君登壇)

○國務大臣(河原田稼吉君) 色々ノ御尋デアリマシタガ、先ヅ第一ニ先日上野デ醫師會ガ開カレマシタ時ニ、警察官ガ關係方面ニ出テ、色々ノ所謂脅迫者ヲ取締ルヤウナ態度ヲヤッタ、斯ウ云フヤウナ御話デアリマシタガ、是ハ私事實ヲ存ジマセスカラ、能ク調べマスガ、併シ私ノ想像デハ、外ノ色色ノ無賴漢ナドトハ違ヒマシテ、立派ナ紳士デアリマスカラ、ソレ程ノヤウナ事ガアッタモノトハ、私ニハ想像致サレマセヌガ、此點ハ尙ホ能ク調査致シマス

ソレカラ第九條ノ問題デ、私ガ之ヲ入レテモ問題ハ起ラスダラウト云フヤウニ御答シタヤウニ御話ニナリマシタガ、私ノ述べマシタ趣旨ハ、是ハ根本ノ國民健康保險法全體トシテハ、極ク些細ナ部分デアッテ、全體トシテ重要ナ部分デナカッタカラ、アトカラ段々研究ノ結果、根本趣旨ハ社會保險調查會ニ掛ケタノデアルガ、斯ウ云フ風ナ大シタ問題デナイモノハ、アトカラ入レテモ宜カラウト云フコトデアレタト、斯ウ云フ意味ニ申上ゲタノデアリマス、ソレカラ此點モ必シモ醫師會等ニ不意計ニ出シタノデハナイノデアリマシテ、十二月ノ醫師會ノ大會ニハ、當時明瞭ニ此第九條ノ點ヲ説明シタト云フコトデアリマシタ、是ハ係ノ役人ノ申シマスコトデ、信ジテ宜イト私ハ確信致スコトデアリマス

ソレカラ何カト色々ナ摩擦ヲ成ベクナ

クスル方ガ、内務行政トシテ最モ適當デナイカト云フヤウナ御意見デアリマシタガ、是ハ御尤デアリマシテ、私モ成ベク社會ハ協調圓滿ニ行クノガ最モ宜イノデアリマスカラ、成ベク摩擦ヲ少クシタイト思ヒマスガ、一面ニ於キマシテ御醫者サンハ、兎モ角醫師會ト云フヤウナ強力ナ團體ヲ持ッテ居ッテ、直チニ其利害ナリ意思ヲ、ソレノ方面ニ懸ヘルコトガ出來ルノデアリマスガ、此國民健康保險ノ恩澤ニ浴シヨウト云フ多數ノ極ク困ッタ人ハ、數ハ多イケレドモ、繼續ク意向ヲ表示スルコトハ出來ナイノデアリマスカラ、是等ノ點ニ付キマシテハ、私ハ皆様ト共ニ十分ナル同情ヲ拂ヒタイト思フノデアリマス(拍手)

ソレカラ衛生組合法ヲ制定シテ、衛生組合ニ法人格ヲ與フル必要ハナイカト云フ御意見デアリマスガ、是ハ先程御述ニナリマシタヤウニ、之ニ法人格ヲ與ヘルコトノ可否ト云フコトニ付テハ、從來色々問題ガアリマシテ、御述ニナリマシタヤウニ、所謂此仕事ハ市町村ナリ何ナリ、所謂自治團體ノ仕事ト混同スル所ガアリマスノデ、容易ニ法人格ヲ與ヘテ、地方市町村ノヤウナ自治體以外ニ、斯ウ云フ組合ニ法人格ヲ與ヘルコトガ、適當ナリヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、非常ニ問題ト爲スベキ點ガ多イノデアリマス、隨ヒマシテ此點ハマダ結論致サヌノデアリマス、ソレナラ此健康保險組合アタリニ法人格ヲ與ヘル必要ハナイデヤナイカ、斯ウ云フ御意見ノヤウニ伺フノデアリマスガ、是ハ衛生組合トハ自ラ性質ヲ異ニシテ、所謂衛生組合ノ方ハ、或ヤッテ居ル仕事ノ手傳アル、若クハソレト同ジヤウナ仕事アルノデアリマスガ、此國民健康保險組合ト云フモノハ、全ク醫療ヲヤルタケデアリマシテ、市町村ノヤッテ居ラス仕事アルノデアリマスカラ、是ハ別個ニ法人格ヲ與ヘテ少シモ矛盾シナイト

思フノデアリマス

ソレカラ保險料徵收ノ問題デアリマスガ、是ハ所謂普通ノ會社等ノ保險ト違ヒマシテ、國民健康保險ニ於キマシテハ、直チニ醫療ヲ致シタルノデアリマス、他ノ會社等ノ保險ニ於キマシテハ、保險料ヲ拂ハナカッタ場合ニハ、保險ニ對スル反對給付ヲ與ヘナイト云フコトデ済ミマスガ、此組合ハ醫療ヲ爲スト云フコトガ主眼デアリマシテ、保險料ノ納付ト云フモノハ、ソレノ對ニ對價トシテ納メルノデアリマスカラ、假令保險料ノ納付ガナクテモ、病人ヲ差措イテ其儘放ッテ置ク譯ニハ行カヌノデアリマス、直チニヤハリ適當ナル醫療給付ヲ致サナケレバナラス、併シサレバト云ッテ、保險料ノ納付ヲ滯納スル者ニ付テ、其儘放任シテ置キマスト云フコトハ、其人ダケナラ宜シウゴザイマスケレドモ、此組合ト云フモノハ、皆ガ持ッテ居ルノデアリマスカラ、サウシテ維持シテ居ルノデアリマスカラ、ヤハリサウ云フ滯納者ガ澤山出ルト云フコトニナリマシテハ、他ノ人ガ困ルノデアリマス、ダカラヤハリ是ハ相當強制徵收ノ途ダケハ開イテ置クコトガ必要デアル、斯ウ云フ風ニ思ヒマスガ、併ナガラ實際ノ施行トシテハ、サウ濫リニ強制徵收、先程御例示ニナリマシタヤウナ、困ッタ人ノ布團ヤ鍋釜マデ持ッテ行クト云フコトハサセナイデ、ソコハ穩當ニ行クモノデアラウ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス

ソレカラ賣藥營業ノ問題デアリマスルガ、是ハ根本ハ農林省ノ政府委員ノ方カラ答ヘラレラダラウト思ヒマスガ、内務省ノ關係トシテハ、ヤハリ賣藥營業者ト同様ニ許可ヲ必要ト致シテ居ルノデアリマス、許可ノ手續ハ濟ンデ居ルヤウデアリマス、ソレカラ公娼廢止ノ問題デアリマスガ、是ハマダ内務省トシテハ決定致シテ居ルモノデアナイノデアリマスカラ、大體左様ニ御諒承ヲ願ヒマス

思フノデアリマス

ソレカラ迷信類似ノ取締ニ付キマシテハ、是ハ只今御述ニナリマシタヤウニ、随分色色ナ弊害ガアル場合ガ見ラレルノデアリマス、之ニ付キマシテハ警察犯處罰令ニ依リマシテ、出来ルダケ取締ノ履行ヲ致シタイト思ヒマス

ソレカラ博士號ノ問題デアリマスガ、是ハ私カラ御答スルノハ聊カ筋外レノヤウニ思ヒマスノデ、内務省ニ關スル限リニ於テ御答ヲ致シテ置キマスガ、學位ヲ所謂醫藥廣告トシテ認メルカドウカ、之ヲ或ハ取締ルベキカドウカト云フコトニ付キマシテハ、是ハ相當研究ヲ要スル問題ト致シマシテ、目下研究中デアリマス

ソレカラ斷種法ノ問題デアリマスガ、是ハ將來優良ナル國民ヲ作ツテ行ク上ニ、於キマシテ、一ツノ見識デアリマシテ、洵ニ御尤ナ御意見トハ存ジマスルガ、事重大デアリマスルシ、且ツ遺傳性疾患ノ範圍トカ、或ハ其發病ノ程度トカ、斷種法ノ效果、其他ニ付キマシテ、是ハ慎重ナル研究ヲ致サナケレバナラスノデアリマスカラ、一寸輕輕ニ此法ヲ制定スルト云フ風ニ御答出來兼ネルノデアリマス

〔政府委員小平權一君登壇〕

○政府委員(小平權一君) 只今ノ全購聯ニ對スル御質問ニ御答致シマス、先程私ガ全購聯ノ御質問ニ對シテ御答致シタノデアリマスガ、其意味ハ、前議會ノ豫算分科會ニ於キマシテ、私カラシテ全購聯ハ賣藥ヲ致シテ居リマスクレドモ、自ラ製造致シマセスト、斯ウ御答シタノデアリマス、其後自ラ製造シテ居リマセスト云フコトニ付キマシテ、本日御質問ガアッタノデアリマスガ、其意味ハ、全購聯ハ自ラ工場ヲ持テ居リマセストノデ、他人ノ工場ニ於キマシテ、全購聯ノ配置シマス藥劑師ノ指揮ニ依テ製造スルモノヲ全購聯ニ引受ケテ、ソレヲ配給致シテ居ルノデアリマスカラ、其實質ヲ捉ヘテ、私ハ前議會ニ於テ自ラ製造致シテ居リ

マセスト、斯ウ御答シタノデアリマス、左様御諒承願ヒマス

〔中井一夫君登壇〕

○中井一夫君 全購聯ノ賣藥ノ營業販賣ト云フコトニ付キマシテハ、只今小平部長ノ答ヘラレタコト自體ソレガ營業ニ相成ルノデアリマス、然ルニ其實質ヲ自ラ認メナガラ、之ヲ營業ニアラズト云フガ如キコトハ、即チソレヲ三百代言ノ言ヒ方ナリト云フノデアリマス(拍手)願クハ更ニ此問題ノ調査研究ヲ遂ゲラレテ、速ニ適當ナル、且ツ嚴重ナル處置ヲ執ラレンコトヲ希望致シマス

内務大臣ノ御答辯ニ付キマシテハ、一々私ハ之ヲ承服スルコトハ出來ヌノデアリマス、併ナガラ此保險組合ニ於ケル保險料ノ徵收、其處分方法ノ殘酷ナル結果ヲ見ルガ如キコトノ問題ニ付テノ御答辯、此點ニ付テダケハ一言申述ベナケレバナラスト思ヒマス、此問題ハ色々御説明デゴザイマシタガ、結局私ヲ、否吾々國民ヲ承服セシムルコトガ出來ヌコトハ申ス迄モナイノデアリマスルガ、現ニ此徵收法ノ餘リニモ嚴重ナル故ニ、最近大阪ニ於キマシテハ、非常ナル一ツノ社會問題ヲ惹起致シタノデアリマス、即チソレハ昨年ノ九月ニ健康保險料滯納ノ爲ニ差押ヲ受ケタ大阪ノ一印刷業者ガ、憤激ノ餘リ大阪府健康保險課ノ泉尾出張所ニ侵入致シマシテ、府廳ノ建物ノ内ニ於テ所長以下四人ノ課員ヲ殺傷致シマシタ、更ニ石油ヲ撒イテ放火ヲ致シタト云フ事實ガアルノデアリマス、而シテ其原因ハ即チ印刷工場ヲ持テ印刷業者トシテ、僅カ十數圓ノ健康保險料ヲ滯納致シマシタニ對シマシテ、此泉尾出張所ノ役人達ハ、即チ只今問題トナシ居リマスル所ノ此條文ヲ適用シテ、サウシテ之ヲ差押ヘ、直チニ競賣ニ付シタノデアリマスガ、此印刷業者ガ唯一ノ財産トシテ持テ居リマシタ時價千五百圓ノ印刷機械ヲ、僅カ十數圓ノ保險料滯納ノ爲ニ打賣シマッタノデアリマス、

是ガ爲ニ此印刷業者ハ其商賣ヲスルコトガ出來ナクナツテ、國家ノ保險ノ爲ニ是ダケノ殘酷ナル目ニ遭ハサレルト云フ以上ハ、誰ヲカ特マウツ云フノデ、自ラ泉尾出張所ニ出掛ケテ行ツテ、所長以下四人モノヲ殺傷致シマシテ放火スルコトニ相成ツタノデアリマス、只今本法案ニ付キマシテ、特ニ一項ヲ舉ゲテ私ガ御質問致シマシタニ付キマシテハ、斷ジテ將來憂ヒノナイ問題デアナイノデアリマシテ、現ニ此事實ガアルト云フコトヲ私ハ知ツテ居リマスカラ、特ニ之ヲ申述ベテ、政府ニ警告ヲ發シ、旁、所謂相互ニ村ノ者町ノ者等ガ抱合ウテ安樂ニ暮サウト云フノガ、此保險組合法ノ精神デアラナラバ、減多ニ行ハヌ手續デアラウケレドモ、斯ノ如キ殘酷ナル、悲惨ナル結果ヲ來スガ如キ處分方法ハ、思切ツテ御取リニナルト云フコトガ當然デアアルト考ヘマシタカラ、之ヲ申上ゲタノデアリマス、敢テ此實例ヲ内務大臣ニ更メテ申述ベテ、内務大臣ノ御再考ヲ願ヒタイト思ヒマス

〔國務大臣河原田稼吉君登壇〕

○國務大臣(河原田稼吉君) 只今御述ニナリマシタ大阪ニ於キマスル實例ハ多少違フ所モアリマスガ(ノー)其事實ハアツタヤウデアリマス、是ハ併シ工場鑛山ニ於ケル健康保險組合ノ例デアリマシテ、現ニ仕事ヲヤツテ居ル人デアツテ、其事情ニ於キマシテハ色々ノ關係モアルヤウデアリマスガ、併シソレ以來十分ニ保險課長或ハ保險所長ニ注意ヲ加ヘマシテ、無理ナコトノナイヤウニ致シテ居リマス、唯此國民健康保險組合ノ問題ニ付キマシテ、度々ノ御言葉デアリマシタクレドモ、是ハ先程私ガ申シマシタヤウニ、大勢ノ人が集ツテ、金ヲ出シ合ツテ維持シテ居ルノデアリマスカラ、其一人ノ人若クハ團體ノ何等滯納ニ對スル處分法ヲ規定シテ置キマセスト、滯納ノ人が殖エマス、サウスルト結局其組合トシテノ經營ガ成立タナクナツテ、結局ハ組合員ノ他ノ

人ニ迷惑ヲ及ボスヤウニナリマスカラ、ヤハリドウシテモ滯納ノ場合ニハ、斯ウ云フ手段ニ依ルゾト云フコトハ、規定シテ置クコトガ必要ノヤウニ思ヒマス、唯度々申シマスヤウニ、殘酷ナル處置ハスベキモノデハナイ、斯ウ云フ風ニ存ズルノデアリマス、尙ホ又此國民健康保險組合ノ組合員ハ、所謂極貧者ニアラズシテ、極貧者ト云フノハ救護法ニ依リマスノデ、兎ニ角若干ノ持寄りノ出來ル者ヲ集メルノデアリマスカラ、成ベク其心掛ヲ良クスルト云フ意味ニ於キマシテモ、或ル意味ノ強制徵收手段ヲ設ケテ置クコトガ適當ト思フノデアリマス

○議長(富田幸次郎君) 政府ノ答辯ハナイヤウデアリマス、中井君、宜シイデスカ——行吉角治君

〔行吉角治君登壇〕

〔贊成力反對力、先ニ言ツテ呉レ〕ト呼フ者アリ

○行吉角治君 贊成ダ(拍手)提案致サレマシタ國民健康保險法案ニ付キマシテ申上ゲタイ、本案ハ多年醫療問題ダ苦シデ居リマシタ所ノ、中産階級以下農山漁村ノ貧困者ノ醫療及ビ保健保護等ニ對シマシテ重大ナル關係ヲ持ツト共ニ、跛行ノ保健行政ヲ是正改革致シマス使命アルノミナラズ、即チ大衆ノ貧困防止ヲ目的トスルモノデアアルガ故ニ、吾々國民ノ代表者ト致シマシテハ、本案ノ審議ニ當リマシテ、極メテ慎重、眞劍ナル態度ヲ以テ議決スベキ責務ガアルノデゴザイマス(拍手)現時我國ノ醫學醫術ガ世界ニ冠タルノ發達ヲ遂ゲマシテ、約八千有餘人ノ醫學博士ヲ算フルニ至リマシタコトハ、國民健康上洵ニ喜ブベキコトデゴザイマス、然ルニ此發達ハ唯醫療醫學及ビ病理學ノミニ偏シマシテ、一方ノ發達ノミニ貢獻致シマシテ、一般大衆ノ治療、社會衛生、豫防醫學等、國民體位ノ向上ニ必要ナル保健行政並ニ醫療制度ニ對

シテハ、全ク無方針、無統制ノ悲觀的狀態ニ置カレタルノデゴザイマス（「ヒヤ」）「拍手」ソレハ一體何ニ原因スルカ、我國ノ醫術ノ開業醫制度ノ發達ノ儘ニ放任致サレマシテ、營利中心主義トナツカデアリマス（「ヒヤ」）「拍手」速ニ此偏在的、跛行的醫療制度並ニ保健制度ヲ是正改革致シマシテ、國民大衆ノ負擔ノ輕減ヲ期スベキデアリマス、尙ホ國民體位ノ低下ハ、直接ニ內治外政ハ固ヨリ、國防問題ニ重大ナル關係ヲ持ツモノデアリマス（「拍手」）吾々國民ト致シマシテハ、現下ノ非常時ニ對シテ、第一番ニ國防問題ヲ考ヘナケレバナリマセヌガ、國防費、軍事豫算等ヲ龐大ニ計上致シマシタノミデ、眞ニ國防ノ充實ヲ完備スルコトハ出來得ナイノデゴザイマス、即チ官民協力一致イタシマシテ其完成ヲ期スルコトガ、是ガ現下ノ國民ノ使命デアルト思フノデゴザイマス、現下ノ國民ノ務メデアルト思フノデゴザイマス、就中全國約七割ノ數字ヲ示シテ居リマス所ノ農村ノ子弟コソ、實ニ軍務ノ中樞ト言ハナケレバナリマセヌ、然ルニ現時農村ニ於ケル壯丁ノ體位ノ低落致シマシタコトハ、實ニ著シキモノガアルノデゴザイマス、昭和十年ノ徴兵検査ノ成績ヲ見ルニ、丙丁種ガ約四割ノ多數ヲ占メテ居ルノデゴザイマス、都市ト農村トノ體位ノ比較ヲシテ見マスルト、都市ニ於キマシテハ千人ヲ單位ト致シマシテ、其死亡率ハ約一七%ヲ示シテ居ルノデゴザイマスガ、空氣モ宜シイ、勞働モ非常ニ旺シデアリ所ノ農村ニ於キマシテ、却テ反對ノ現象ヲ示シテ居リマスノハ如何デスカ、而モ千人ヲ單位ト致シマシテ、約二〇%ノ數字ヲ示シテ居ルノデゴザイマス、此原因タルヤ何カラ來ルモノデアリマセウカ、農村ノ疲弊困憊極リナキ貧困ヨリ來ルモノト云フコトハ、論ヲ俟タナイノデゴザイマス、社會局ノ統計ニ依リマス、國民ノ醫療費負擔額ハ各一戸當リ二十五圓前後ヲ要スルト稱

サレテ居ルノデゴザイマス、現時ヤカマシク唱ヘラレテ居ル所ノモノハ、農村ニ於ケル戸數割撤廢ノ問題デゴザイマス、一戸當リ平均一圓五〇錢乃至二圓ノ戸數割スラ滯納スル者ノ多クアル農村ニ於キマシテ、二十五圓ト云フヤウナ重壓的醫療費ノ負擔ガ堪ヘ得ルデアリマセウカ、之ヲ如何ニシテ救済スルカ、即チ醫師ノ地域的分布ノ偏在ヲ是正致シマシテ、農村ヘノ回收ヲ期シ、醫療費ノ大衆化ヲ圖ツテ、負擔ノ輕減ヲ圖リ、又豫防醫學ノ普及發達ヲ圖ルト共ニ、醫療ト社會的施設トノ關聯ヲ密接ニ致シマシテ、國民保健ノ發達、國民體位ノ向上ヲ期スルコトデアリマス、以上ハ醫療行政是正改革ノ根本策デアルト思フノデゴザイマスガ、此理由ニ基キマシテ、次ノ數點ニ互リマシテ政府ノ所信ヲ質サントスルモノデアリマス

第一、近時開業醫ハ全ク營業化シテ居ルガ、之ニ對シテ營業稅類似ノ課稅ヲスル用意アルヤ否ヤ、我が日本ノ醫術ハ昔カラ仁術ヲ以テ任ジテ居ルノデアリマシテ、國民大衆ハ之ニ對シテ常ニ敬意ヲ拂ツテ居ルモノデアリマス、法律ニ依ッテ定メラレテ居ル所ニ依レバ、醫ハ營業ニアラズトアリ、而モ其醫師ニ致シマシテ、今回本案ノ提出セラレルヤ全國津々浦々ヨリ三千五百名ノ醫師代表ガ上京致シマシテ、上野精養軒ニ於キマシテ醫師大會ヲ開キマシテ、本案ニ對シテ修正決議ヲ致シタノデゴザイマス、其目的ハ自己ノ利害得失ニ重點ヲ置イタモノデゴザイマス（「拍手」）醫師ハ國民ノ生命ヲ預ルベキ重大ナ責任ガアリマス、此重大ナル責任ヲ漫却致シマシテ、多クノ醫者ハ多クノ患者ヲ放棄致シマシテ、自己ノ利害得失ノ爲ニ、斯ル行動ヲ執ツト云フコトハ、國民大衆ニ對シテ實以テ不親切極マルモノト言ハナケレバナリマセヌ（「其通リ」ト呼フ者アリ）苟モ醫者タル者ガ仁ヲ忘レ、己ヲ忘レ、自ラ營業タルコトヲ是認シ

タモノデアリマス、全ク營業化シマシタ所ノ開業醫ニ對シテ、當局ハ斷然營業稅類似ノ課稅ヲ致ス必要ガアルト信ズルノデアリマス、此點當局ノ御所見ヲ御尋致シタイ

第二、醫藥分業法案ヲ提出スル意思アリヤ否ヤ、先年醫藥分業法案提出サレルト同時、今回ト同ジヤウニ全國ノ開業醫ハ之ニ猛烈ナル反對ヲ起シタノデゴザイマス、其結果ト致シマシテ、醫藥分業法案ハ有耶無耶ノ裡ニ葬リ去ラレタノデゴザイマス、此時國民大衆ハ口ヲ極メテ政府當局ト、國民ノ代表者デアアル所ノ吾々議員ニ對シテ痛罵ヲ浴ビセタノデゴザイマス（「ノー」）「ヒヤ」）「」苟クモ吾々代表者タル者、其責務ヲ忘レテ、而モ一部ニ制限ヲ加ヘラレテ居ル所ノ有產階級ノ僅ニ全國六万ノ醫者ニ味方ラシタ、而モ甚シキニ至リマシテハ、裏面ニ何モノカガアツタ如ク錯覺ヲ起シタノデゴザイマス、國民ノ代表者タル者、此點注意ヲ要スルコトデアルト思ヒマス、今回提出サレマシタ所ノ法案ニ對シテ、本員間出テ堪ヘナイ風説ヲ聞クノデゴザイマス、本員全ク之ヲ信ジタクナイノデゴザイマス、巷間傳フル所ニ依リマス、今回モ醫師會ニ於キマシテハ、今日迄ノ經費二十數萬圓ヲ使ツタト傳ヘラレテ居ルノデゴザイマス、全國カラ集リ來リマシタ所ノ醫者ノ代表者ガ三千人ヤ五千人上京致シマシテ、滞在致シマシタカラト申シマシテ、二十數萬圓以上ノ金ノ要ル筈ハナイト思フノデゴザイマス（「拍手」）而モ吾々政黨人ト致シマシテ、現時ハ政黨ノ信用挽回ニ獻身ノ努力ヲ拂ツテ居ル途上デアリマス、斯ル忌ハシキ風評ステラ聞クノハ堪ヘ忍ビ得ナイノデアリマス（「拍手」）醫師會側ノ言分ヲ聽イテ見マスルト、醫藥分業法案ト同様ニ本案モ葬リ去ラレルト信アリト申シテ居リマス、恐ラク此醫師會ノ言分ハ、本員一人ガ耳ニ致シタノデハナイト思フ、吾々國民ノ代表者タルモノハ、此時ニ當リマシテ議會ノ權威ノ爲メ、議員

ノ信用ノ爲メ、慎重ナル態度ヲ以テ之ニ臨マナケレバナリマセヌ（「拍手」）政府ハ大衆ノ貧困防止ヲ目的トスル限リハ、醫藥分業法案ヲ提出致シマシテ、眞ニ其完成ヲ期スベキモノデアルト考ヘルモノデゴザイマス、先輩諸兄登壇致サレマシテ、全國ニ三百萬ノ藥屋アリ、六万ノ醫師アリ、本案ニ依ッテ其生活ニ脅威ヲ感ズルコトニナルト論ゼラレタ、然ラバ本案提出サル、ト同時ニ、若クハ次ノ議會ニ於キマシテ、醫藥分業法案ヲ政府案トシテ提出サル、コトガ現下ノ急務デアルト信ズルモノデアリマス（「拍手」）此點特ニ政府當局ノ御所見ヲ伺ヒタイ

第三、開業醫ノ中ニハ暴利ヲ貪ル者アリ、之ニ對スル當局ノ取締方法如何、醫師法ニ依ッテ定メラレマシタ法規アルニ拘ラズ、都市農村ヲ通ジマシテ貧困者ノ往診ニ對シテ之ヲ無下ニ拒絕スル醫者ガアル、尙ホ一回ノ往診料三十圓五十圓ヲ貪ル醫者ガアル、藥價ノ如キモ一定ノ規定ハアルガ、ソレハ無意味デアリマス、ソレハ但書ガ附シテアルノデゴザイマス、但シ高價藥ニ限リ其限リニアラズ、然ラバ都市農村ヲ通ジマシテ、貧困者ハ名醫ノ診察ヲ受ケルコトモ出來ネバ、高價藥ヲ服用スルコトモ出來得ナイ狀態ニアルノデアリマスガ、之ニ對スル當局ノ取締方法、而モ之ヲ法律化シテ嚴格ニ御取締アラント切望スルモノデアリマス、此取締方法如何

第四、健康保險組合ニ加入スル力ノナイ貧困者ニ對シテハ、當局ハ如何ナル對策アリヤ、都市ト農村ト通ジマシテ、病氣ニ罹ッテモ醫者ニ掛カルコトガ出來得ナイ者ガ多クアル、殊ニ農村ニ於キマシテハ最近益々増加致シマス、醫師ハ段々都會ニ集中スルヤウニナツテ參リマシタ、其結果ト致シマシテ全國三千四百箇町村ハ、唯一人ノ醫者モ居ナイ町村ガアルノデゴザイマス、之ヲ無醫町村ト致シマシテ放任サレテ居ルモノデアリマス、斯ル狀態ニ付キマシテ貧困者

ノ信用ノ爲メ、慎重ナル態度ヲ以テ之ニ臨マナケレバナリマセヌ（「拍手」）政府ハ大衆ノ貧困防止ヲ目的トスル限リハ、醫藥分業法案ヲ提出致シマシテ、眞ニ其完成ヲ期スベキモノデアルト考ヘルモノデゴザイマス、先輩諸兄登壇致サレマシテ、全國ニ三百萬ノ藥屋アリ、六万ノ醫師アリ、本案ニ依ッテ其生活ニ脅威ヲ感ズルコトニナルト論ゼラレタ、然ラバ本案提出サル、ト同時ニ、若クハ次ノ議會ニ於キマシテ、醫藥分業法案ヲ政府案トシテ提出サル、コトガ現下ノ急務デアルト信ズルモノデアリマス（「拍手」）此點特ニ政府當局ノ御所見ヲ伺ヒタイ

ニ國民健康保險組合ト云フ至極結構ナル救済機關ガ出來上リマシテモ、之ニ加入スルコトガ出來得ナイ貧困者ガ多數アルトシタナラバ、之ニ對シテハ政府ハ積極的ニ對策ヲ講ズル必要ガアルト思フノデゴザイマス、此點特ニ此對策ニ付テハキリ御答ヲ賜リタイ

第五ハ本案ノ運用ヲ誤ル時ハ、却テ惡結果ヲ招來スル虞アリ、之ニ對スル當局ノ取締方法如何、本案ハ第九條ノ定メル所ニ依レバ、代行機關ヲ設ケ、之ニ經營ヲ委ネテ其運用ヲ爲サシムルトアルガ、是ハ相扶共濟自治の産業組合ヲ此經營ニ當ラシメルモノナリト考ヘルガ、其點至極結構ナルト思フガ、現在多クアル産業組合ノ中ニ此種ノ健康保險制度ヲ既ニ實施サレ居ルモノガアル、中ニハ頗ル不合理千萬ナルモノガアル、一例ヲ舉ゲレバ、醫療費ヲ滯納致シタル患者ニ對シテハ、往診ヲ拒絶セシメタル事實ガアルノデアリマス、尙ホ醫師ニ於テモ普通患者ト差別待遇ヲ故ラニ爲ス者ガアルノデゴザイマス、其結果ト致シマシテハ、醫療低下ヲ招來致シテ、貧困防止トナラズシテ、却テ醫師ノ大衆搾取ナル虞ガアル、又組合加入員ノ不良被保險者ヲ製造スルガ如キ懸念ガアル、尙ホ此運用方法ニ付キマシテ、當局ノ意見ヲ承リタイ、以上第一、第二、第三、第四、第五ノ本員ノ質疑ニ對シテ政府當局ノ率直ナル親切ナ御答ヲ賜リタイ(拍手)

(國務大臣河原田稼吉君登壇)

○國務大臣(河原田稼吉君) 第一ノ御質問ハ醫者ニ對シテ營業稅ヲ課スル意思アリヤ否ヤ、斯ウ云フ御尋デアリマシタ、外國ノ事例ヲ申上ゲテ見マスト云フト、營業並ニ相當重稅ヲ課シテ居リマス處ハ、壞太利トカ獨逸ノ「ブレーメン」リッペン」ト云フヤウナ方面デアリマス、英吉利ハ、ヤハリ營業稅トシテ割合ニ輕ク課シテ居ル、斯様ナ狀況デアリマス、醫業ニ對シマシテ營業

リモ特ニ輕ク課シテ居リマスノハ、即チ勤勞並ノ取扱ヲ爲シテ居ルノハ米國トカ佛蘭西ト云フヤウナ國々ノヤウデアリマス、我國ハ從來醫仁術ト云フ取扱ヲ受ケテ居リマシタノデ、ヤハリ尙ホ此風習ヲ維持シテ、成ベク醫仁術ナリト云フ風習ヲ存續致サセタイヤウニ思フノデアリマス、隨ヒマシテ只今直グ營業稅ヲ課スルト云フヤウナ所マデハ行カヌシ、又サウ云フコトヲスルノガ善イカ惡イカ、尙ホ十分ノ考究ヲ要スルト思ヒマス

ソレカラ醫藥分業法案ヲ提出スル意思アリヤ否ヤ、是ハ一面カラ申シマスト云フト、洵ニ立派ナ御見識ト考ヘルノデアリマスガ、併シ一方ニ於テハヤハリ我が國民ノ衛生思想ノ狀態トカ、或ハ患者ノ不便ト云フヤウナコトモ考慮致サナケレバナラヌノデアリマシテ、此點ニ付テハ尙ホ慎重ナル講究ヲ加ヘタイト思ヒマス

開業醫中可ナリ高イ藥價等ヲ取ル者ガアルノデ、即チ此暴利ヲ取締ル方法ハナイカ、又之ヲ法制化スル必要ハナイカドウカト云フ御尋デアリマシタガ、藥價ノ制定若クハ診察料ノ制定ト云フモノハ中々ムツカシク、且ツ色々傳統ガアリマシテ、是亦今日直チニ法律ヲ以テ規定スル——而モ藥價ニハ色々價格ノ違ヒガアリマシテ、所謂藥價令ノ制定ノ必要アリヤ否ヤト云フヤウナ問題モアリマスノデ、是亦急ニ斯ウ云フ規定ヲ設ケルヤウナ譯ニハ行カヌノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマス

ソレカラ第四ノ組合ニ加入スル力ノ無イ者ニ付テハ如何ナル對策ガアルカト云フ、洵ニ御同情ノアル御言葉ヲ伺ッタノデアリマスガ、仰シヤル通り可ナリ農村其他ニ於テ組合費ノ負擔ニ堪ヘヌヤウナ氣ノ毒ナ人ノアルコトハ事實デアリマスカラ、一方ニ於テ組合ニ對シマシテ、相當ノ補助ヲ國家カラ致シテ居ルノデアリマスカラ、假令組合費ガ直チニ納入出來ナクテモ、出來ルダ

ケ町村等ニ於テ、全町村ノ人ヲ困ッテ居ル人モ網羅シテ行ケルヤウニシタイト思ッテ居リマス、併シドウシテモ組合ノ事情デ、總テノ人ヲ網羅スルコトガ出來ナイト云フ事情ガアリマスカラバ、サウ云フ風ナ特殊ノ人ニ對シテハ、所謂救護法等ヲ活シテ、適當ノ救済ヲ國家並ニ公共團體ニ於テ致シテ行クノガ適當ト思ヒマス、ソレカラ國民健康保險法ノ施行ニ付キマシテハ、ソレゾレ其施行ヲ適正ニ指導監督致シマシテ、成ベク惡結果ノ生ジナイヤウニ致シタイト思ヒマス、九條ノ規定ニ付キマシテハ、先程申上ゲマシタヤウニ、全部ヲ認メルノデハナク、唯良イノダケヲ認メタイト云フ積リデアリマス

○議長(富田幸次郎君) 行吉君宜シイデスカ

○行吉治君 委員會デ……

○議長(富田幸次郎君) 山口久吉君

(山口久吉君登壇)

○山口久吉君 私人國民健康保險法案ニ對シテ總理大臣ト内務大臣トニ極メテ簡潔ニ質問ヲ致シマス、只今總理大臣ガ見エテ居リマセスカラ、國務大臣トシテ内務大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイ、先ヅ内務大臣ニ對シテハ、國民ノ醫療國策ニ對スル將來ノ見透シニ付テ其御所見ヲ御尋シタイノデアリマス、歐洲大戰後、各國ハ戰後ニ於ケル所ノ國力ノ回復ニ對シテ根本的ノ對策ト致シマシテ、國民ノ健康保持増進ニ多大ノ關心ヲ以テ主力ヲ傾倒シタ、サウシテ其施設ニ對シテ色々行ウタコトハ周知デアリマス、彼ノ獨逸ガ大戰直後ニ於ケル所ノ國民ノ勤勞能率ハ、戰前ノ四分ノ一ニ減退シテ居リマシタ、體質ハ二十五年前ニ低下シタ、其爲ニ獨逸ニ於ケル所ノ國民ノ健康保持ノ方針ヲ統一シタ所ノ、醫師法ニ依ッテ改正セラレタ衛生行政ノ強化ヲ期シテ、極力其回復ヲ圖ツタ爲ニ、僅カ十數年デ著シク體質ガ向上シタ事實ガアリマス、英國モ「トランスバール」ノ變亂後ニ於テ、同様國民ノ體質ガ減退シ

タノガ、衛生省ヲ設置シタ爲ニ、其減退ヲ取戻シタト云フ實績モアリマス、今ヤ我國ニ於テモ滿洲事變後ニ於テ國際政局ト云フモノハ頗ル緊迫シテ居リマス、非常時局ヲ乘切ツテ、之ニ對スル所ノ態度ヲ決メナケレバナラヌト云フノデ、曩ニ軍部ガ發表シタ所ノ廣義國防——國防ノ充實モ、文化ノ發達モ、或ハ産業ノ發展モ、窮極スル所ハ國民ノ健康ニ其基礎ヲ置カケレバナラヌト云フコトハ、誰人モ知ッテ居ル所デアリマス、最近ノ徵兵検査ノ例ヲ通シテ見マシテモ、壯丁ノ體質ト云フモノハ、驚クベク惡化シテ居リマス、例ヘバ壯丁ガ身長ハ増スケレドモ、體重ガ伴ハナイ、或ハ結核性ノ胸部ノ疾患ヲ持ッ所ノ人達ガ多クナル、近視眼ガ激増スル、徵兵ニ不合格ノ壯丁ガ累年増加スルヤウナ傾向ニナッテ居リマス、是ハ一ニ壯丁ノ體質ノ根源ト云フモノハ、出生前ニ於ケル母胎内ニ胚胎スル其モノニ由ッテ原因スルノデアル、ソレハ衛生ヲ輕視スル所ノ政治ノ結果デアリマス、同時ニ無能無統制ノ衛生行政機構ノ結果、由來スルコトト私共ハ斷言セザラ得ナイ、尙ホ一般國民ノ死亡率ハ諸外國ニ較ベテ段々比例ガ高クナッテ來ル、平均壽命モ益々低下スルノミデアリマス、乳兒ノ死亡率ニ至リマシテハ非常ニ多イ、是等保健衛生上ノ顧慮スベキ狀況ト云フモノハ、各省ニ分割サレテ居ル所ノ割據的ノ行政ノ不統一、不徹底ガ實ス所デ、私共ハ此弊害ヲ打破シナケレバナラヌト思フノデアリマス(拍手) 隨テ各局課ヲ統制致シマシテ、衛生國策遂行ノ爲ニ、中央ニ統轄行政機關タル所ノ衛生省ヲ設置スベキ必要ヲ軍部ハ提唱シテ居ルノデアリマス(ヒヤ) (ヒヤ) 是ガ動機ニナリマシテ、從來動モスレバ顧ラレナカッタ所ノ保健國策ガ、廣田内閣ノ所謂庶政一新ノ波ニ乗ッテ、急進政策ト云フヤウニナッテ現ハレテ來タノデ、朝野ハ之ニ視聽ヲ聳テ、來タノデアリマス、然ルニ現林内閣ハ廣田内閣ノ後ヲ承ケテ本

案ヲ提出致シマシタ、内務省ガ言フヤウニ、現内閣唯一ノ社會立法デアル此法案ハ、私共ハ政府ノ保健國策ニ對スル施政方針ノ片鱗ヲ出シテ居ルモノト云フコトヲ思フノデアリマス、單ニ内務省ノ言フヤウハ、社會的立法ノミニ偏シナイト私ハ思フテ居ル、其處ニハヤハリ保健國策ノ片鱗ガ現レテ居ルト思フノデアリマス、私共ハ本案實施ニ依ッテ、國民ノ大多數ヲ占メテ居ル農山漁村民竝ニ中小商工業者等ガ、社會保健ノ理由デ醫療ノ慶福ヲ普及サレルコトハ、非常ナ感激ヲ以テ國民ト共ニ欣ブ者デアリマス、併ナガラ其運籌如何ニ依ッテハ却テ恐ルベキ弊害ヲ醸シテ、保健國策ノ所期ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイカモ知レナイト云フコトヲ思フ、我國ニ於テハ從來世界獨特ノ自由開業醫制度ト云フモノガアリマス、下ナタガ色々々々非難シ、攻撃爲サレテモ、此制度ハ存續致シテ居リマス、日本國民ノ大部分ノ病氣ノ治療ヲ開業醫者ガ之ヲ擔當シテ居リマス、過去ニ於テ開業醫者ガ國民ノ保健衛生ノ上ニ盡シタ功績ハ絶大ナルモノガアルノデアリマス、今日ト雖モ開業醫者ガ挺身世ノ病氣ノ治療ノ衝ニ當ッテ、其職務ヲ遂行シ、國家ノ爲メ社會ノ爲メ奉公ノ誠ヲ盡シテ居ルト云フコトダケハ、私ハ認メナケレバナラスト思フ、然ルニ斯ノ如キ職責ヲ果シツ、アル所ノ個個ノ醫家ノ生活竝ニ、其社會的地位ヘドウデアリマスカ、其收入ハ減ルト共ニ、日々ニ低下シテ居ルノデアリマセカ、我國ノ美風ノ一ツデアル此存在、開業醫制度ガ次第ニ崩レツ、アルト云フコトハ、誰人ニ於テモ否ムコトガ出來ナイノデアリマス、即チ最近ノ社會的經濟的ノ傾向ハ醫療費ノ輕減ノミニ重キヲ置イテ、諸種ノ醫療機關ハ之ヲ目標ニ致シマシテ、雜然トシテ統一モナク、指導方針モナク濫設セラレテ、五万ノ開業醫ノ將來ハ甚ダ悲觀スベキ狀況ニナリツ、アルノデアリマス、更ニ極端ナル理

論家ヤ經世家ハ言フテ居ル、本案ノ實施ニ依ッテ開業醫者ガ苦境ニ陥ラウトモ、ソレハ營業上ノ利害ノ衝突デアルカラ、已ムヲ得ナイデハナイカ、減ビルモノハ減ビヨト云フヤウナ聲モ聞エル、私共ハサウシタ結果ハ國家ノ爲ニ、君國ノ爲ニ甚ダ恐ルベキコトデアルト云フコトヲ考ヘザルヲ得ナイ、少クモ我國ノ保健衛生ノ前線ニ立ッテ奮闘シ努力シテ居ル所ノ開業醫者ガ、没落過程ニ追詰メラレツ、アル現在、更ニソレガ一層深刻ニナレバ醫學ノ進歩モ、醫療ノ發達モ阻碍サレルト云フ事實ヲ思ハナケレバナラヌ、本案創設ニ當ッテ斯ウシタ醫者ニ對スル所ノ正シイ認識ヤ、醫療ノ本質的認識ガ、動モスレバ缺如シテ居ル、ソレデアラカラ中央衛生會ノ如キ權威アル所ノ醫事衛生ノ諮問機關ガアルニモ拘ラズ、政府ハ敢テ諮問セズ、唯小乘的ナル官僚獨善ノ考ノ立場ニ於テ、寡少ノ報酬デ、強イテ個人契約主義ヲ強行シヨウトスルヤリ方ハ、我國ノ自由開業醫制度ノ長所タル醫者ト患者トノ個人信頼關係ト云フヤウナモノヲ維持シヨウトモセズ、疾病ニ對スル醫師ノ自由選擇ノ慣行ニ相反スルヤウナ制度ヲ作ツタノデアルト私ハ思フ、是ガ國民ノ保健並ニ社會政策上ノ理由ヲ掲ゲラレテ居ル所ノ本案ノ完璧ヲ期スルコトニナルカドウカ、却テ我國古來ノ開業醫制度ノ根本的變革ヲ來サントスルノデハナイカト思フノデアリマス、政府ハ將來開業醫制度ヲ認メテ之ヲ維持助長スル、斯ウ云フ方針ノ下ニ於テ、其助長發達ヲ期スル考ガアルカドウカト云フコトガ一點デアリマス

更ニ一步ヲ進メテ醫療機關ノ公營カ、或ハ國營カラ實行スル意思ガアルカト云フノガ第二點、最後ニ是等ノ保健國策ノ徹底的強化ヲ圖ル爲ニ、衛生省ノ設置ヲ爲ス意思ガアルカト云フコトガ第三點デアリマス、更ニ私ハ内務大臣ニ對シテ御尋シタイ、本案ニ對シテ全國五万ノ開業醫ノ醫師會ノ團體契約ヲ認メト云フコトト、第九條ノ削除ヲ熱烈ニ要求シテ居ル由ツテ來タ所ノ原因ハ如何ナルモノデアルカ、其所見ヲハ御伺シタイノデアリマス、本案ヲ此儘實施スル時ニハ、現行健康保險制度ヨリカ、更ニ低額ノ醫療ヲ強要スル所ノ懸念ヲ多分ニ持ッテ居ルノデアリマス、試ミニ政府ガ過去十一年間ノ健康保險事業費ニ付テ、昭和九年マデ九箇年間ノ統計ノ示ス所ニ依レバ、徵收シタ所ノ保險料並ニ國庫負擔金トノ實收入ハ、三億二千五十餘萬圓ニシテ、實際支出シタ金ヲ控除スルト、政府ノ管掌ノ分ガ一千五百九十九萬圓ヲ殘ッテ居ル、組合ノ分デハ三千四百四十四萬二千九百八十三圓ヲ殘ッテ、合計四千四百三十三萬八千三百圓ヲ莫大ナ殘金ガアルノデアリマス、更ニ十年度、十一年度ノ殘額及ビ利子等ヲ加算スレバ、五千萬圓程度ノ金ヲ殘リ譯ニナツテ居リマス、斯ノ如ク五千萬圓ニモ垂ントスル莫大ナ金ヲ社會局ハ如何ナル意思ニ依ッテ貯ヘ置キヤ、將又如何ニ此金ヲ處分セントスルカ、甚ダ諒解ニ苦シム所デアルト言ハレテ居リマス、斯ル一面ガアルニモ拘ラズ、治療報酬ノ低下ハ健康保險ノ十年間ノ經過ガ物語ツテ居リマス、政府ハ醫者ニ對シテ不當ノ廉價診療ヲ表面カラ強要シテ居ル、ソレバカリデハナイ醫療組合モ獎勵シ、助長シ、非醫者ノ安價治療機關ト云フモノノ開設ヲ喜ンデ居ルヤウナ傾向ヲ帶ビテ居ル……(議長……定足數ガアルカ)ト呼フ者アリ)更ニ官公又ハ半官的ノ大病院ノ輕費診療ヲ容認シテ、側面カラ民間醫療ト云フモノヲシテ低減セザルヲ得ザラシメルヤウナ政策ヲ採ッテ居ルコトハ、内務當局ノ能ク御存ジノコトト私ハ思フノデアリマス……

○議長(富田幸次郎君) 山口君、山口君、一寸御待チ下サイ——議長ハ定足數ヲ缺イテ居ルト認メマスカラ、散會致シマス

午後七時十四分散會

(服部崎市君演說參照)

昭和十年度ノ我國徵兵検査ニ於ケル壯丁ノ體格検査表ヲ見ルニ

受驗者千人ニ對シ甲種合格二百九十七人、第一乙種百十五人、第二乙種二百五人デアリ内種三百十八人、丁種六十三人トイフ割合デ、甲種ノ二百九十七人ハ前年ノ二百八十九人ニ比シテ遙ニ上位ニアリ、最近ノ高率ト云ハレル昭和五年ノ二百九十三人ニ比シテモ尙且ツ上位ニアル

又身長ニ於テモ大正元年ノ平均五尺二寸ニ對シ昭和十年ノ平均ハ五尺二寸九分ヲ示シ二十三年間ニ九分ノ増加ヲ見セ、體重ニ於テモ大正元年ガ十三貫八百三十匁デアツタニ對シ、昭和十年ニハ十四貫十匁トナリ、之亦百八十匁ノ増加ヲ示シテ居ルガ、是ハ身長體重ノ増加ノ割合ガバランスノトレタモノデハナイ、是等ノ數字上ハ一見壯丁ノ體位向上ノ如ク思ヘル、ガ、實際ニハ然ラズ、殊ニ現役並ニ補充兵タリ得ル甲乙種ノ合計ト、國民兵又ハ之ニモ適セザル丙丁兩種ノ合計トノ割合ニ於テ、甲乙兩種合計ノパーセンテージハ逐年下向ノ趨勢ニアル

即チ大正十一年カラ十五年頃マデハ丙丁兩種ノ合計ハ壯丁千人ニ對シ二百五十六人内外ヲ示シテ居タモノガ昭和二十三年頃ニ至ツテ三百五十人内外トナリ、最近四、五年間ハ三百八十九人カラ四百百人ヲ突破スルノ憂フベキ狀態ヲ示シテ居ル